

附属学校オンライン授業実施に伴う
調査研究報告書
(正式版)

令和4年2月

長崎大学 教育学部

巻 頭 言

この度、長崎大学教育学部附属小学校並びに中学校は、新型コロナウイルス感染症の第5波への対応策として、9月1日から6日までの4日間をオンライン授業で実施しました。この決定は、大学の専門家会議で、県内の感染状況、子ども達はワクチン接種ができないこと、9月6日まで県独自の緊急事態宣言（県の宣言後に国が12日まで緊急事態宣言地域として指定した後に、県も12日まで延長）を出したこと、子ども達の学びの保障が必要なこと、8月31日から教育実習が始まること（実習前14日間の行動制限と健康観察記録の作成、全実習生はワクチン接種か直前でのPCR検査の受診が条件）等を考えてです。しかしこれは、近隣の公立学校の対応（市立・町立は通常通り、県立は分散登校）とは大きく異なるものであり、学校関係者や保護者の間でも賛否が分かれるところでした。このような状況下で、保護者や子ども達の理解が得られた主な理由は、学校が的確に関係者に情報提供を行ったこと、家庭での学習が困難な子どもの学校での学習を認めたこと、事前調査で判明していた家庭の脆弱なWi-Fi環境への対応や使用時のトラブル対応を事前も含め丁寧に行ったことが挙げられ、これは日頃からの学校の取り組みの成果と言えます。

この実現の背景には、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために前倒しされたGIGAスクール構想による学校の高速ネットワーク環境整備と所謂一人一台端末の整備があります。その結果、本附属学校では、10月から11月にかけて1/3の端末が整備され、小学校では5・6年生を、中学校では2年生を中心に授業での活用が始まりました。これにより、一部の教員と児童生徒の機器やソフトの活用スキルが確実に向上し、残された者たちは学びたい、活用したいとの欲求を高めました。その後、残りの端末も令和3年5月末までに整備されると、待ちわびた児童生徒と教員が一斉に活用したことは言うまでもありません。

一方で、世の中は東京オリンピック・パラリンピックの開催、お盆等での大規模な人の移動が予想され、各附属学校では夏休み明けの対応を今までの経験を踏まえ7月から検討しました。ワクチン接種等の関係でお盆前後には40歳代以下の感染者が、8月20日には家庭内における子供から大人への感染や20歳代以下の若年層の感染拡大が懸念される様になりました。この傾向は泉川教授らが既に長崎県でも同様であることを確認しており、河野学長より8月20日には教育学部に対してオンライン授業の実施を含めた対応策の検討が指示されました。これを受けて、学部と附属間で協議し、8月23日の専門家会議で上述のような対応策が決定されました。これを受け、附属学校では1週間足らずの間に、家庭への連絡と質問等への対応方法、オンライン授業の内容・方法、子ども達への端末の貸出・使用方法の説明等を決定し、オンライン授業が実施されまし

た。

夏休み明けという子ども達の指導上大切な時期で、また教育実習の始まりの週であったにもかかわらず初めてのオンライン授業をできたことは、附属学校関係者の日頃からの努力の賜であり、だからこそ関係者の学びは大きいと思います。これを記録することは、今後も続くコロナ禍への対策上極めて有用であり、またオンライン授業という新たな手法の導入時の基礎資料として価値があります。作成に当たりご協力を頂いた大学教員と附属学校の関係各位に感謝申し上げます。

令和3年11月28日

長崎大学教育学部

学部長 藤本 登

オンライン授業の実施にあたって

「やってみないと進まない、相談しないと深まらない」という教育実践で大切にすべきことを、改めて実感することが出来たのが、今回の一人一台端末を使ったオンライン授業です。8月末頃の新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校によって、子どもたちの学びを止めないために決断したオンライン授業ですが、実施するまでにクリアすべき課題が様々にありました。それは、次のようなことでした。

- 一人一台端末が全校に揃ったのが6月下旬であったため、児童の使用期間が短かく、活用の仕方が十分に身につけていない児童への対応。
- ほとんど使用していなかった1・2年生への対応。
- 通信環境が違う家庭への対応。
- 教員のICT活用力の平準化への対応。
- 仕事を休めない家庭の児童を受け入れる対応。
- オンライン学習の時間割等の対応。 等

保護者にオンライン授業を伝えた日から、100件を超える電話相談がありました。それぞれに寄り添いながら対応するとともに、全職員が協力しながら短時間でオンライン学習のやり方について学んでいく姿は圧巻でした。結果としてICT利活用の指導力が急激に向上し、これまで大切にしてきた授業づくりと相まって新たな方向性を見出すことが出来ました。と同時に、対面での教育が持つ人間教育力や温もりは、やはり欠かせないものだと思えることも出来ました。

オンライン学習の実施から事後のまとめまで、教育学部の多くの先生方にお力添えをいただいたことで、次への可能性を探究する推進力に弾みが付いています。これからも北斗の子どもたち一人一人が主役になる教育に邁進して参りますので、引き続き皆様の御協力・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

長崎大学教育学部附属小学校

校長 古野 祐一

初の試み オンライン授業

附属小・中学校では、令和3年9月1日からオンライン授業を実施しましたが、その端緒となった本校の取組は、1年半前（令和2年4月中旬から5月初め）の臨時休業期間に遡ります。同年2月末以来2度目の臨時休業を経験し、今後もこのような事態が続く恐れがある中、そして、一人一台端末が段階的に支給される見込みであり、さらには、社会的に在宅勤務が推奨され、本学においてもその方針が出されたことから、教員全員が出勤する日と在宅勤務者・出勤者が混在する日を設け、後者において、オンライン模擬授業を試行することとしました。試行した教科は、社会科、理科、英語科、保健体育科。出勤者1名が授業者となり、普通教室や理科室、多目的ホール等、教科毎に場所を変え、在宅勤務者全員（10名程）が生徒役を務め、他の出勤者が参観者となりました。そこで気づき、感じ、共通理解した「黒板として機能する範囲」「意思疎通のタイムラグ」「生徒の反応や理解度を確かめる方法」「部屋の背景に配慮する必要があること」等々が、今回の`本番`を支えることとなりました。また、何より、試行で得られた`できる`という手応えが`本番`に向かう原動力になったと考えています。

そして、オンライン授業を成し得たのは、本校教員の行動力と情熱に他なりません。実施決定後は、1日目1校時の各学年1組の時間割から、オンラインで行う授業の選定、事前指導で用いる生徒用マニュアルの作成と学年間での擦り合わせ、同時期に始まる実習生授業計画の再調整を短期間で仕上げ、そして、自らのオンライン授業の準備に励みました。突然の事態にも、子どもたちの顔を思い浮かべ、楽しみながら、どんな授業をするかを練り直し、県内初の試みを誇りを持って進めました。本校が、長い間、学校行事や授業研究等を通じて磨き膨らませてきた進取の気概と協働性が発揮され、後頁にて紹介の取組となりました。更なる改善のために皆様の助言や御意見を頂けましたら幸いに存じます。

長崎大学教育学部附属中学校

校長 山田 善彦

目 次

1. 調査研究の方法	1
2. 調査研究の内容	3
2. 1. 児童・生徒対象調査について	3
2. 2. 保護者対象調査について	2 3
2. 3. 教員対象調査について	3 7
2. 4. 教育実習生対象調査について	5 9
2. 5. 学校管理職等対象調査（インタビュー調査）について	6 5
3. オンライン授業に関する附属学校作成資料	資料 1
3. 1. 附属小学校	資料 1
3. 2. 附属中学校	資料 2 9

1. 調査研究の方法

プロジェクトの発足に先立ち、「附属学校オンライン授業実施に伴う調査検討会」が開催され、以下のような意見交換が行われた。

●附属学校オンライン授業実施に伴う調査検討会

【決める事】

目的：学びを止めないという趣旨で実施したオンライン授業について、成果と課題及び参加者の内性を調査することで、今後の同様の活動の参考になる資料（報告書）を作成する。（長崎県の教育界の資料になり得るものを作る。実施時の指針になるもの。）

実施期間：3か月以内に公表する

方法：アンケート調査、ヒアリング調査

【内容】前提条件として、夏季休業明けなどのオンライン授業と関係ない内容は除外する。また本調査とは別に、各研究者が行う調査等に本調査データや結果を利用してもらうことはOKだが、個別研究の内容が本調査に影響は与えない。例えば、家庭科では昨年度のマスク製作時の研究があり、それと合わせた評価が検討できる可能性あり。

教員：ICT活用指導力チェックリスト（学校で実施済みか確認）、普段の授業との比較、どんな課題、どんな工夫、どんなスキルが必要か

支援の活用（制度・体制の教科）、一人教科の課題採点、子ども理解度・考え、カリキュラム適した題材、出欠確認等公務的な内容、今までの準備・流れ、実施前後気持ち・考え、机間指導できない

子ども：理解度、楽しかったの？どう？理由が大切、普段の授業との比較、子どもの満足度が高い内容はオンラインに適している？粘り強く・一生懸命取り組めたか？（学習の構え）

保護者：子どもの様子（オンライン後のつぶやき・子どもの疲れ、生活リズム、健康）、受ける環境について

【コメント】

- ・どのような目的で誰を対象として調査するのか未だ私が把握できておりませんが、もし教師を対象にリサーチするのであれば、まずは学校・教師の属性を明確にするという意味で、以下の調査をしていただくのもアリかと思いました。->配布資料　そうすれば、どのようなタイプの学校の中でどのようなタイプの教師がオンライン学習を進めた際、どのような方略を取る傾向があるのかが整理できるかもしれません。
- ・小1～3年生もごく簡単なアンケートならできると思います。選択肢を顔の表情（困った顔～嬉しい顔）とかにすれば可能かなと。子どもへのインタビューは信頼関係の形成にも時間がかかりますのでお勧めできません。小4～6年生および中1～3年生は普通の文とスケール（1:あてはまらない～4:あてはまる）でいいと思います。教員はインタビューが難しいなら、自由記述多めのアンケートではいかがでしょうか。何を聞いたらいいか具体案はありませんが。
- ・オンラインの学習効果や実践については既に世界的にも全国的に調査されており（都会が先行したため）、学術的な研究にすることは難しいと思っております。もし研究にすることであれば新たな切り口が必要かと思えます。私個人の興味関心としては、オンライン講義中の教師の意思決定プロセスの解明（身体性を中心概念とした児童の見取りや視線動向）や実践的知識に基づく即興的な思考（おそらく対面とは判断の基準や種類が変わってくると思ってます）等にありますが、しっかりと先行研究を調べてみないとなんとも言えません。報告書や実践報告ということであれば簡単なインタビューや質問紙で十分かと思えます。
- ・私がヒアリングを行うなら、ライン系統（校長・教頭・主幹・教務）へ、オンライン実施に当たる配慮事項等を聞き取る形になるかなあと思いました。また、養護教諭への聞き取りも面白いかなあと思えます（思い付きです）

【調査研究を進めるに当たって】

プロジェクトの進行に当たり、学部及び附属学校の教員によるメーリングリストを立ち上げて、接触機会の低減と意見交換・集約のための便宜を図った。
また調査研究に当たっては、対象を<教員><児童・生徒><保護者><教育実習生><学校管理職等>に分け、それぞれの対象毎にチームを構成した。質問及びインタビュー項目は、プロジェクト参加者全員で検討を行って練り上げ、Web フォームによるオンライン調査（一部は、紙面による調査）とインタビュー調査を行った。調査後の結果及び考察と報告書の執筆については、それぞれのチーム毎に進めた。

【調査項目】

対象毎の調査項目については、「2. 調査研究の内容」においてそれぞれの対象毎に提示した。

調査研究のためのチーム編成は、以下の通りである。

【チーム編成】（敬称略，◎：チームリーダー）

- <教員対象> ◎安井暁子，藤井佑介
- <児童・生徒対象> ◎前原由喜夫，駒津順子，中村一也
- <保護者対象> ◎木村国広，加納暁子，吉良史明
- <教育実習生対象> ◎倉田伸
- <学校管理職等対象（インタビュー調査）> ◎畑中大路

【調査の時期】

調査の時期は、<教員対象><児童・生徒対象><保護者対象><教育実習生対象>については令和3年9月末～10月上旬，<学校管理職等対象（インタビュー調査）>についてはオンライン調査が落ち着いた後の10月下旬～11月に行った。

2. 調査研究の内容

2. 1. 児童・生徒対象調査について

前原 由喜夫

2021年(令和3年)8月、日本中が東京オリンピック2020での日本選手たちの大活躍に沸く中、同時に新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大第5波に襲われ、学校現場は9月の新学期からオンライン授業実施の可能性を検討せざるをえない状況に置かれていた。実際ふたを開けてみれば、地方においてオンライン授業を実施する学校は少なかったが、長崎大学教育学部附属学校園は、その先導的役割も鑑み、2021年8月31日から9月6日まで在宅オンライン授業の実施に踏み切った。附属学校園でも全面的なオンライン授業は初めての試みであり、試行錯誤の状態での実施となった。コロナ禍に後押しされ、GIGAスクール構想が慌てて前倒しされたことから明らかなように、日本の教育は情報通信技術の活用の点で先進諸国の後塵を拝している。附属小学校および中学校においてオンライン授業に対する児童および生徒の感想を調査し、収集したデータを統計的に分析することを通して、今回の経験を今後のオンライン授業の充実に向けた有益な知見としたい。

(1)附属中学校生徒に対する調査

(1)-1. 方法

参加者

附属中学校の生徒408名がGoogle Formを用いたアンケート調査に参加した。人数の内訳は、表1のようになった。

表1. 中学生の属性別の人数内訳

	女子	男子	不明	合計
1年生	67	64	2	133
2年生	69	68	1	138
3年生	67	70	0	137
合計	203	202	3	408

調査項目

- ・ 学年：1年生／2年生／3年生から選択
- ・ 性別：女子／男子から選択（※無回答可）
- ・ オンライン授業についての感想：12項目、4件法（1：あてはまらない－4：あてはまる）

1. 家で受けたオンライン授業は、楽しかった。
 2. 家で受けたオンライン授業は、ついていくのが難しかった。
 3. 家で受けたオンライン授業は、疲れた。
 4. 家で受けたオンライン授業は、気楽だった。
 5. 家で受けたオンライン授業は、まじめに受けることができた。
 6. 家で受けたオンライン授業は、さびしかった。
 7. 家で受けたオンライン授業は、いそがしかった。
 8. 家で受けたオンライン授業は、集中できた。
 9. 家で受けたオンライン授業は、発言しやすかった。
 10. 家で受けたオンライン授業は、わかりやすかった。
 11. 家で受けるオンライン授業が、もっと増えたらいいのと思う。
 12. コロナでなくても、家で受けるオンライン授業があったらいいのと思う。
- ・ オンライン授業に対する全体的好意度：あなたは、学校で受ける授業とオンライン授業、どちらのほうが好きですか。1～7のうちから1つ選んでください。ただし、1に近いほど学校での授業が、7に近いほどオンラインでの授業が好きということをあらわします。
 - ・ あなたがオンライン授業の良いと思う点を、自由に書いてください。(自由記述) ※今回の報告には含めず。
 - ・ あなたがオンライン授業の改善してほしいと思う点を、自由に書いてください。(自由記述)
 - ・ あなたがオンライン授業に向いていると思う教科を以下の中から選んでください。いくつ選んでもかまいません。オンライン授業に向いていると思う教科がひとつもない場合は、何も選ばなくても大丈夫です。(複数選択可)
 - 国語・社会・数学・理科・英語・音楽・美術・保健体育・技術・家庭
 - ・ 性格に関する質問：29項目 (Big Five 尺度短縮版 (並川ら, 2012) の項目の中で、中学生には難しいと思われる一部の項目を言い換えた。以下の*を付けた項目は言い換え後の項目)、5件法 (1：あてはまらない-5：あてはまる)

1. 話好き	11. 好奇心が強い	21. 不安になりやすい
2. 心配性	12. 自己中心的	22. 陽気な
3. 多才の	13. 弱気になる	23. 進歩的
4. おだやかな*	14. 外向的	24. 心の広い*
5. 頭の回転の速い	15. いい加減な	25. 計画性のある
6. 成り行きまかせ	16. 憂うつな	26. 軽率な
7. 緊張しやすい	17. 独創的な	27. 社交的
8. 怒りっぽい	18. 親切的な	28. 短気
9. 几帳面な	19. 怠惰な	29. だらしない*
10. 無口な	20. 興味の広い	

Big Five は人間の性格を、5つの基本性格特性（外向性、精神安定性、誠実性、調和性、開放性）の組み合わせにより表現しようとする理論である。今回用いた尺度では、性格を表す形容詞に自分がどれくらいあてはまるかを回答してもらった。

(1)-2. 結果と考察

(1)-2-1. オンライン授業についての感想

オンライン授業を受けてみて、どのような感想を持った生徒が、オンライン授業に対し肯定的な態度を抱くようになったかを分析するために、オンライン授業についての感想 12 項目を用いた共分散構造分析を実施した。この分析を通して、オンライン授業のどのような側面を意識して授業を設計・実施すれば、生徒のオンライン授業への前向きな態度を引き出すことができるかのヒントを得られるだろう。

オンライン授業の体験に対する認知的満足感（学習効果の実感）と情動的快適さ（参加しやすさ・情緒的障壁の少なさ）が、それぞれオンライン授業の機会増加への期待（将来のオンライン授業へのモチベーション）に影響を与えているという仮説を立てた（図1）。

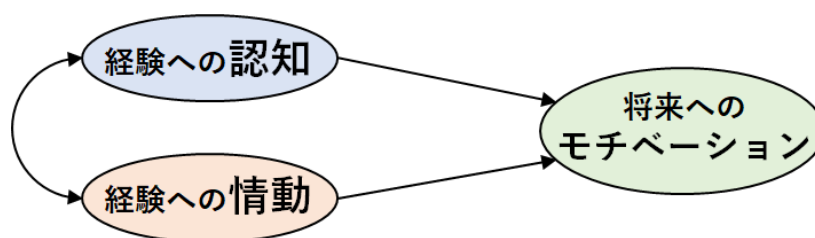


図1. 仮説モデル

仮説モデルの各種係数と適合度を計算した結果、相関係数および標準偏回帰係数は図2のようになった（潜在因子から各項目への係数は省略）。適合度は、 $\chi^2(51)/df = 3.00$, GFI = 0.940 (AGFI = 0.908), CFI = 0.925, RMSEA = 0.070, AIC = 207.10 で、あまり当てはまりが良いとは言えなかった。そこで、12 項目の探索的因子分析（最尤法、直接オブリミン回転）を行い、その結果にもとづいてモデルを修正した。

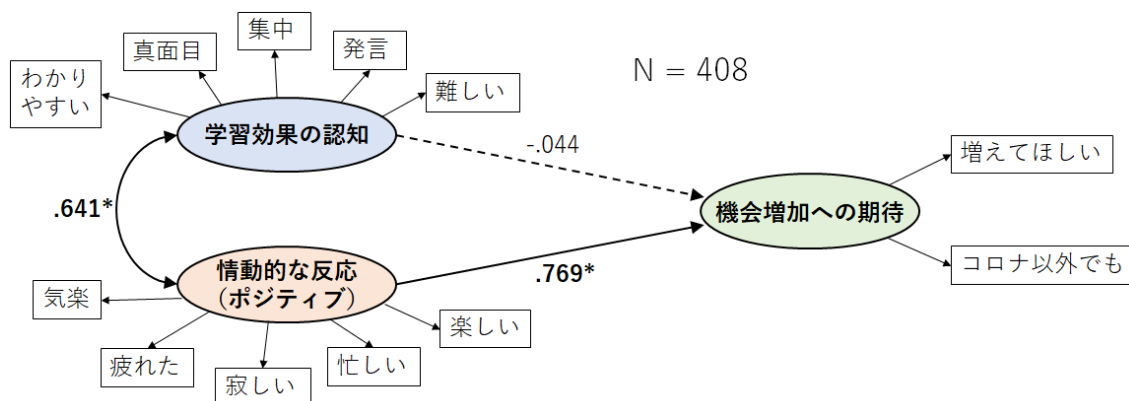


図2. 仮説モデルの分析の結果（中学生）

探索的因子分析の結果、「楽しかった」は認知因子と情動因子の両方に負荷を持つことが判明したため、「楽しかった」が両因子から影響を受けるよう、図3のようにモデルを修正した。

修正モデルの各種係数と適合度を計算した結果、相関係数および標準偏回帰係数は図3のようになった（潜在因子から各項目への係数は省略）。適合度は、 $\chi^2(49)/df = 2.49$, GFI = 0.953 (AGFI = 0.926), CFI = 0.946, RMSEA = 0.061, AIC = 180.08 で、最初の仮説モデルよりも改善されており、ある程度満足のゆく適合度が得られた。

学習効果の認知とポジティブな情動的反応が「楽しい」という感想につながり、それがオンライン授業の機会増加への期待に影響することが示唆された。ところが、学習効果の認知は直接的には機会増加への期待に影響しなかった。一方で、ポジティブな情動的反応は直接的に機会増加への期待に影響することがわかった。これらの結果から、授業の“わかりやすさ”よりも“受けやすさ”のほうが、生徒たちのオンライン授業へのモチベーションにつながっていた可能性がある。

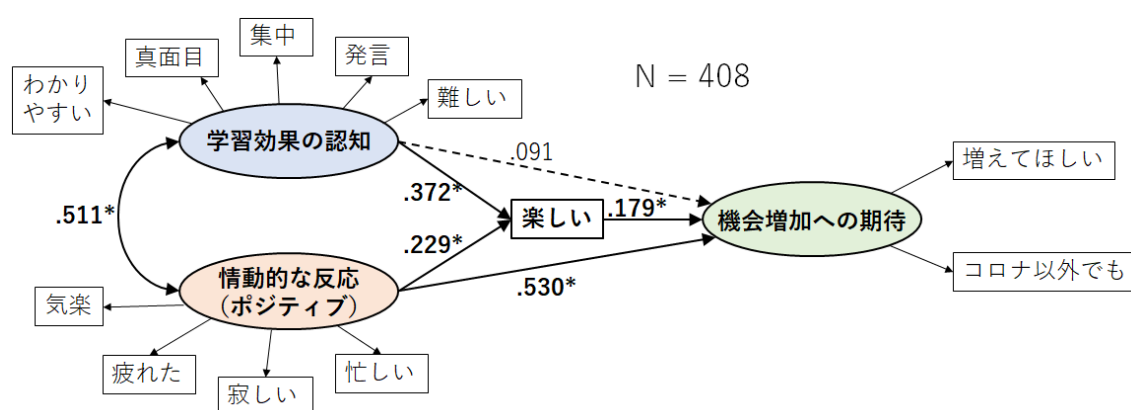


図3. 修正モデルの分析の結果（中学生）

今回の調査の反省点としては、天井効果を示す項目が多かったという点が挙げられる。中学生なので、4件法ではなく、5件法で実施すべきだった。最初は5件法を考えていたが、途中から「回答しやすいだろうし、時間の節約にもなるだろうから」と思って4件法に変更した判断が非常に甘く合理性に欠けており、調査者の“心理学研究のプロ意識”が足りなかったと言わざるをえない。また、探索的因子分析の結果明らかになったように、「楽しかった」という項目が、漠然とした全体的な感想を聞く項目になっていしまっていた。「快適だった」とか「スムーズだった」という語句のほうがよかったかもしれない。

(1)-2-2. 性格とオンライン授業への好意度との関係

外向性の高い子ほど対面授業を好み、内向性の高い子ほど非対面授業（ビデオ教材等）を好むという現象は、古くから適性処遇交互作用（aptitude-treatment interaction; ATI）とし

て知られている。本調査では、今日の在宅オンライン授業でも同様の現象が観察されるかどうかを検証した。どのような性格の生徒がオンライン授業を好むか／好まないかを明らかにすることによって、オンライン授業にあまり魅力を感じていない生徒の性格を知り、それを踏まえた授業上の手立てを考えることができるだろう。そこで、Big Five 尺度で測定される外向性の高い生徒と低い生徒で、オンライン授業に対する好意度に差があるかどうかを分析した。同時に、他の基本性格特性にもオンライン授業の好意度に影響を与えているものがあるかどうかを検討した。今回調べた5つの基本性格特性の概要を以下に記した。

- 外向性・・・明るく社交的で、おしゃべりや人づきあいを好む
- 精神安定性・・・不安や抑うつを感じても、すぐに気持ちを持ち直せる
- 誠実性・・・誘惑に負けず、自分をコントロールすることができる
- 開放性・・・新しい知識や経験に対して前向きな態度を示す
- 調和性・・・他人にやさしく、周囲との調和を大切にする

Big Five 尺度短縮版の各性格特性尺度得点に関する記述統計量を表 2 に示した。各尺度得点の $M+1SD$ および $M-1SD$ も示した (M は平均値, SD は標準偏差)。本調査では、 $M+1SD$ 以上をその性格特性の強い群 (高群), $M-1SD$ 以下をその性格特性の弱い群 (低群) とした。高群および低群の人数, 平均値, そして標準偏差も表 2 に示した。

表 2. 各性格特性の尺度得点の記述統計量

		外向性	精神安定性	誠実性	開放性	調和性
M		3.53	2.65	3.01	3.18	3.36
SD		0.83	0.88	0.67	0.73	0.72
$M+1SD$		4.36	3.54	3.68	3.90	4.07
$M-1SD$		2.71	1.77	2.33	2.45	2.64
高群	N	80	73	74	63	64
	M	4.65	4.02	3.98	4.29	4.41
	SD	0.22	0.36	0.30	0.29	0.22
低群	N	67	66	69	62	56
	M	2.25	1.44	1.97	2.06	2.16
	SD	0.42	0.19	0.31	0.33	0.42

各性格特性の高群と低群ごとにオンライン授業への全体的な好意度の平均値および標準偏差を算出し、表 3 にまとめた (平均値が高いほどオンライン授業への好意度が高いことをあらわす)。高群と低群のオンライン授業に対する好意度に対して、1 要因参加者間分散分析 (ANOVA) を行った結果も表 3 に含めた。

ANOVA の結果から、外向性が低い生徒 (= 内向性の高い生徒) は、外向性が高い生徒よりもオンライン授業を有意に好むということがわかった。逆に外向性の高い生徒は、対面授

業をより好む傾向にあるため、オンライン授業でも対面授業のような先生－生徒間や生徒同士のコミュニケーションを重視した方法で実施できれば、オンライン授業への肯定的な態度が高まるだろう。また、誠実性が低い生徒（＝自己コントロールの低い生徒）は、誠実性の高い生徒よりも、ややオンライン授業のほうを好む傾向にあった。早起きをしないで済む、通学する準備が省略できる、などの利便性の高さを重視しているのかもしれない。

表 3. 各性格特性の高群と低群のオンライン授業好意度および ANOVA 結果

	低群		高群		F 値	p
	M	SD	M	SD		
外向性	4.66	1.97	3.69	2.13	$F(1, 145) = 7.98$.005
精神安定性	4.38	2.12	4.15	2.07	$F(1, 137) = 0.41$.525
誠実性	4.48	1.99	3.78	2.16	$F(1, 141) = 3.93$.049
開放性	4.55	1.67	4.32	2.34	$F(1, 123) = 0.40$.531
調和性	4.52	1.93	3.94	2.11	$F(1, 118) = 2.40$.124

(1)－2－3. オンライン授業への好意度の発達的变化

学年あるいは性別によって、オンライン授業への好意度に変化がみられるかを検討した。この分析から、オンライン授業を好きな生徒／それほど好きでない生徒の属性が明らかになるだろう。オンライン授業への好意度が高い生徒の属性があれば、その属性の生徒たちには積極的にオンライン授業を展開し、逆にオンライン授業への好意度が低い生徒たちがいれば、なるべく対面授業を実施したほうが学習へのモチベーションも上がると考えられる。

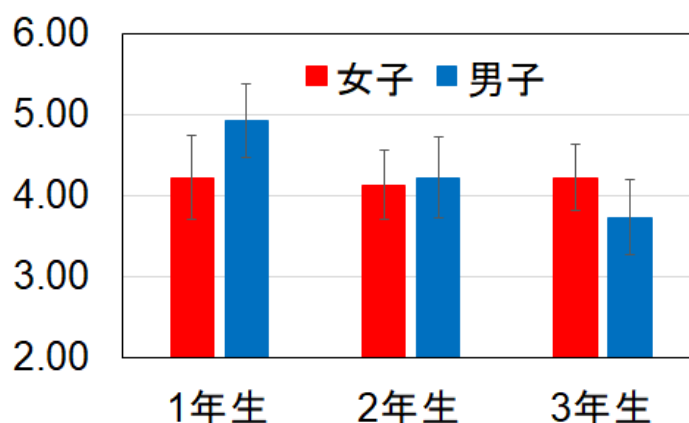


図 4. 中学生のオンライン授業への好意度の平均値
エラーバーは 95%信頼区間

学年と性別ごとのオンライン授業に対する好意度の平均値を図 4 に示した。好意度の平均値に対して、学年（1/2/3 年生）と性別（女子/男子）を参加者間要因とした、2 要因

参加者間 ANOVA を実施した。その結果、学年の主効果が有意だったが ($F(2, 399) = 3.29, p = .038$)、性別の主効果は非有意だった ($F(1, 399) = 0.26, p = .614$)。また、交互作用が有意だったので ($F(2, 399) = 3.17, p = .043$)、単純効果の検定を行ったところ、1年生男子が1年生女子および3年生男子よりも有意にオンライン授業を好んでいたということがわかった。

これらの分析から、1年生男子はオンライン授業に好意的であることがわかった。さらに、男子は学年が進むにつれて、オンライン授業への肯定的評価が減っていた。一方で、女子は3年間を通して、オンライン授業への好意度に変化はなかった。3年生は学校に最も馴染んでおり、中学卒業が視野に入るため、クラスメイトたちとの直接的な交流がある対面授業を好むのかもしれない。あるいは、3年生は教科の内容的に、対面で先生や級友と直接やり取りがあるほうが、授業内容がよりわかりやすくなると感じているのかもしれない。

(1)-2-4. 改善点に関する自由記述

改善点に関する自由記述は以下の方法で分類した。まず、無回答や「特になし」を除き、1人で複数回答は別々の回答に分けた。全部で何個の意見が出たかをカウントした結果、のべ320個の意見があった。全意見の10% (32個) を無作為抽出し、それを教育心理学専攻の学生2人がKJ法的方法で分類した。その結果、7個のカテゴリが見つかった。その後、分類を行った学生2人がそれぞれ、320個すべての意見をカテゴリ分けした。2人のカテゴリが一致しなかった箇所は、合議のうえ一致させた。「その他」として分類された意見の中にも、ある程度のまとまりで分類できるカテゴリが2つあったので、調査者がそれを独立したカテゴリとし、最終的に「その他」を含む合計10個のカテゴリとした。最終的な分類結果を表4にまとめた。それを円グラフにすると図5のようになった。

表4. 改善点に関する自由記述の分類結果 (中学生)

カテゴリ	意見数	%
通信環境 (画質や音声の乱れ, タイムラグなど) への不満	112	35.0
友達との交流や授業中のやり取りに関する要望	42	13.1
目の疲れ	33	10.3
教師の板書に関する要望	32	10.0
オンライン授業のルール設定の必要性	28	8.8
教師の指示や授業方法に関する要望	26	8.1
自習時間に関する要望	12	3.8
実技教科の限界	8	2.5
パソコンの操作自体を教えてほしい	5	1.6
その他	22	6.9

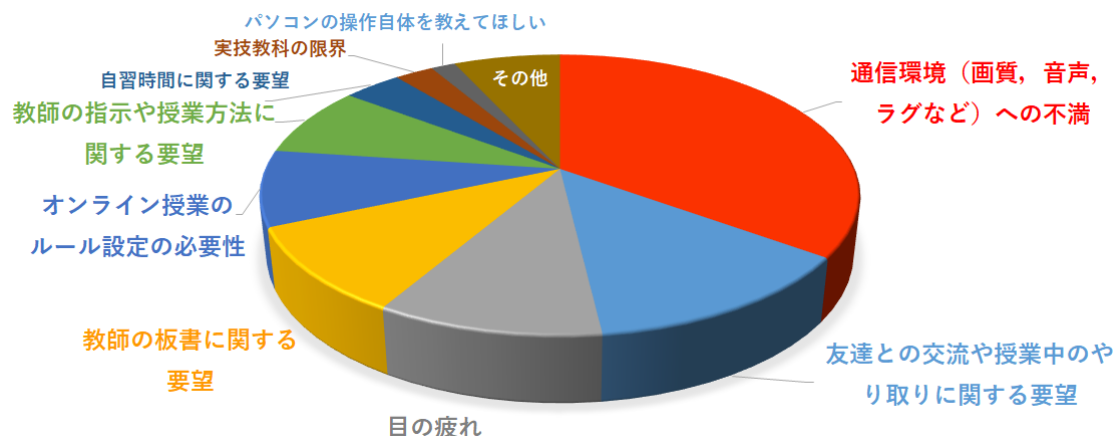


図5. 改善点に関する自由記述の分類結果 (中学生)

改善点に関しては、通信環境の不安定さへの不満が全体の 35.0%を占め、圧倒的に多かった。友達との交流や授業中のやり取りをもっと増やしてほしいという要望が 13.1%、目が疲れるのでパソコン画面から目を離す時間をそれなりに確保してほしいという要望が 10.3%と続いた。これら上位3つの改善点で6割弱を占めたことになる。

通信環境に関しては、学校側のサーバーを増強するか、時間割を工夫して学年ごとにオンライン授業の時間帯を分けてサーバーへの負荷を減らすという工夫が必要になるだろう。ただ、生徒の自宅のネットワークに生じる不具合に関しては学校では対処できないので、生徒が各自で自宅ネットワークに原因がないかを確認する必要もある。授業方法の工夫としては、クラスメイトとの意見交換やディスカッションなどのコミュニケーションを増やす必要がある。また、目の疲労の対策も重要である。時間割を工夫して、3コマ以上連続でモニターを注視する時間が続くという事態は避けたほうがいいかもしれない。

(1)–2–5. 教科別オンライン授業への親和性

教科別に「オンライン授業に向いていると思う」と答えた生徒の割合を、全体と学年ごとに分けて表5にまとめた。表中の50%以上を「オンライン授業に向いていると思う」として赤字に、30%未満を「オンライン授業に向いていないと思う」として青字にした。

表5. 「オンライン授業に向いていると思う」と答えた生徒の割合 (%)

	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技術	家庭
全体	55.4	61.8	58.6	41.4	43.1	12.7	22.1	6.6	49.3	37.0
1年	47.4	57.1	53.4	33.8	51.9	21.1	25.6	14.3	70.7	52.6
2年	54.3	75.4	67.4	50.7	54.3	13.0	28.3	2.9	31.2	23.9
3年	64.2	52.6	54.7	39.4	23.4	4.4	12.4	2.9	46.7	35.0

(1)–3. まとめ

- 中学生はオンライン授業のわかりやすさよりも、受けやすさ（スムーズな進行や参加しやすさなど）を重視している可能性がある。したがって、授業者は授業内容もさることながら、授業の進行をスムーズにできるよう授業を設計することがより大切だと言える。
- 内向性の高い生徒は、外向性の高い生徒よりもオンライン授業を好む。現代版の適正処遇交互作用が確認されたと言える。誠実性の低い生徒も、おそらく外向性の高低とは別の理由で、オンライン授業を好む傾向にある。
- 男子は1年生がオンライン授業を最も好み、学年進行につれて対面授業を好むようになってくる。女子は、好きでもなく嫌いでもなく、という感じで3年間変わらない。
- 改善点に関する自由記述から、通信環境の脆弱性がもっとも大きな不満となっていることがわかる。
- 単純に受験5教科すべてがオンライン授業に向いている、あるいは実技5教科すべてが向いていないと思われているわけではない。
 - 国語・社会・数学はオンライン授業向きだと思われている
 - 音楽・美術・保健体育はオンライン授業に向いていないと思われている
 - 理科・英語・技術・家庭は、活動や内容によりけり

(2)附属小学校 4～6 年生に対する調査

(2)–1. 方法

参加者

附属小学校 4 年生から 6 年生の児童 271 名が Google Form を用いたアンケート調査に参加した。人数の内訳は、表 6 のようになった。

表 6. 小学校 4～6 年生の属性別の人数内訳

	女子	男子	不明	合計
4 年生	44	46	0	90
5 年生	44	46	0	90
6 年生	46	44	1	91
合計	134	136	1	271

調査項目

- ・ 学年：4 年生／5 年生／6 年生から選択

- ・ 性別：女子／男子から選択（※無回答可）
- ・ オンライン授業についての感想：12項目，4件法（1：あてはまらない－4：あてはまる）
 1. 家で受けたオンライン授業は，楽しかった。
 2. 家で受けたオンライン授業は，ついていくのがむずかしかった。
 3. 家で受けたオンライン授業は，つかれた。
 4. 家で受けたオンライン授業は，気楽だった。
 5. 家で受けたオンライン授業は，まじめに受けることができた。
 6. 家で受けたオンライン授業は，さびしかった。
 7. 家で受けたオンライン授業は，いそがしかった。
 8. 家で受けたオンライン授業は，集中できた。
 9. 家で受けたオンライン授業は，意見を言いやすかった。
 10. 家で受けたオンライン授業は，わかりやすかった。
 11. 家で受けるオンライン授業が，もっと増えたらいいのと思う。
 12. コロナでなくても，家で受けるオンライン授業があったらいいのと思う。
- ・ あなたは，学校で受ける授業とオンライン授業，どちらのほうが好きですか。1～5のうちから1つ選んでください。ただし，1に近いほど学校での授業が，5に近いほどオンラインでの授業が好きということをお知らせします。
- ・ あなたがオンライン授業で良いと思ったことを，自由に書いてください。（自由記述）
※今回の報告には含めず。
- ・ あなたがオンライン授業で「もっとこうしてほしい」と思うことがあれば，自由に書いてください。（自由記述）

(2)－2. 結果と考察

(2)－2－1. オンライン授業についての感想

オンライン授業を受けてみて，どのような感想を持った児童が，オンライン授業に対し肯定的な態度を抱くようになったかを分析するために，オンライン授業についての感想12項目を用いた共分散構造分析を実施した。この分析を通して，オンライン授業のどのような側面を意識して授業を設計・実施すれば，児童のオンライン授業への前向きな態度を引き出すことができるかのヒントを得られるだろう。

中学生での分析と同じように，オンライン授業の体験に対する認知的満足感（学習効果の実感）と情動的快適さ（参加しやすさ・情緒的障壁の少なさ）が，それぞれオンライン授業の機会増加への期待（将来のオンライン授業へのモチベーション）に影響を与えているという仮説を立てた（図1）。

仮説モデルの各種係数と適合度を計算した結果，相関係数および標準偏回帰係数は図6のようになった（潜在因子から各項目への係数は省略）。適合度は， $\chi^2(51)/df = 3.30$ ，GFI =

0.902 (AGFI = 0.850), CFI = 0.881, RMSEA = 0.092, AIC = 222.15 で、モデルが適切だとは言えない結果だった。そこで、12 項目の探索的因子分析（最尤法，直接オブリミン回転）を行い，その結果にもとづいてモデルを修正した。

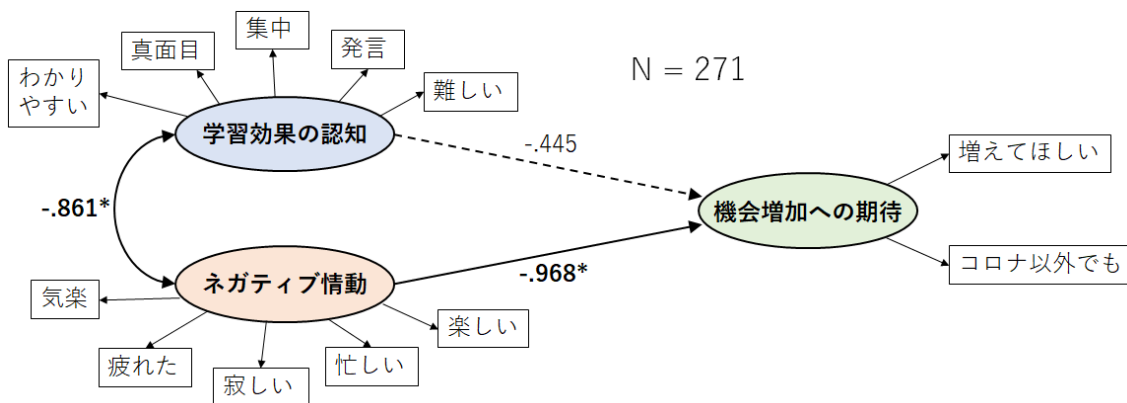


図 6. 仮説モデルの分析結果（小学 4～6 年生）

探索的因子分析の結果，「ついていくのがむずかしかった」が情動因子に大きな負荷を持つことが判明した。「気楽だった」はどちらの因子にも 0.40 を超える負荷を持たなかったため，モデルに含めないこととした。「楽しかった」は認知因子に大きな負荷を持ったが，情動的な意味も多分に含んでいると考えられるため，両方の因子の影響を受けるよう，中学生の修正モデルにならい，図 7 のようにモデルを組みなおした。

修正モデルを計算した結果，相関係数および標準偏回帰係数は図 7 のようになった（潜在因子から各項目への係数は省略）。適合度は， $\chi^2(49)/df = 2.24$, GFI = 0.943 (AGFI = 0.906), CFI = 0.944, RMSEA = 0.068, AIC = 141.57 で，最初の仮説モデルよりも改善されており，ある程度満足のゆく適合度が得られた。

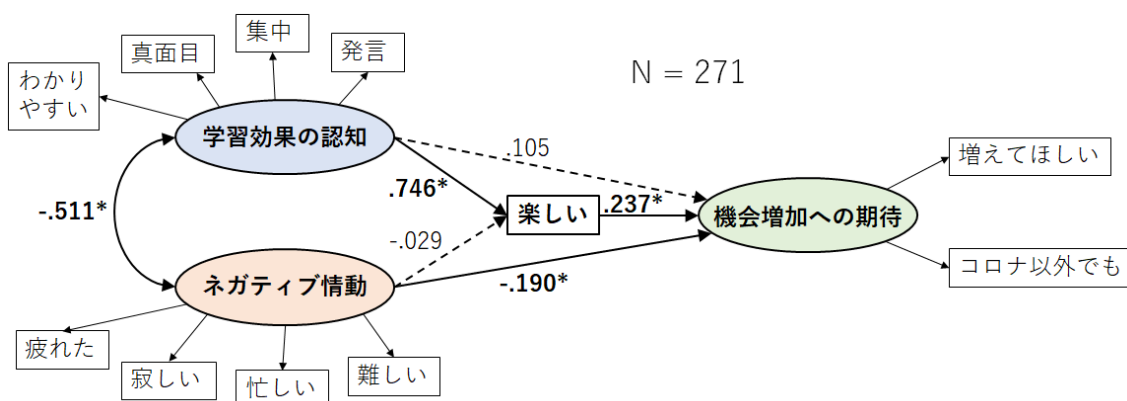


図 7. 修正モデルの分析結果（小学 4～6 年生）

「効果の認知」が「楽しい」という感情につながり、それが今後のオンライン授業増加の期待に影響していた。また、「情動的反応」も弱くはあるが、期待に影響していた。小学生（4～6年生）は、積極的に参加でき、理解しやすいオンライン授業を楽しんでいることが示唆された。情動的なネガティブ要素の少なさよりも、認知的にわかりやすい授業が将来のオンライン授業への期待（＝モチベーション）を生み出すことがわかった。

(2)–2–2. オンライン授業への好意度の発達的变化

学年あるいは性別によって、オンライン授業への好意度に変化がみられるかを検討した。この分析から、オンライン授業を好きな児童／それほど好きでない児童の属性が明らかになるだろう。オンライン授業への好意度が高い児童には積極的にオンライン授業を展開し、逆にオンライン授業への好意度が低い児童たちには、なるべく対面授業を実施したほうが学習へのモチベーションも上がると考えられる。

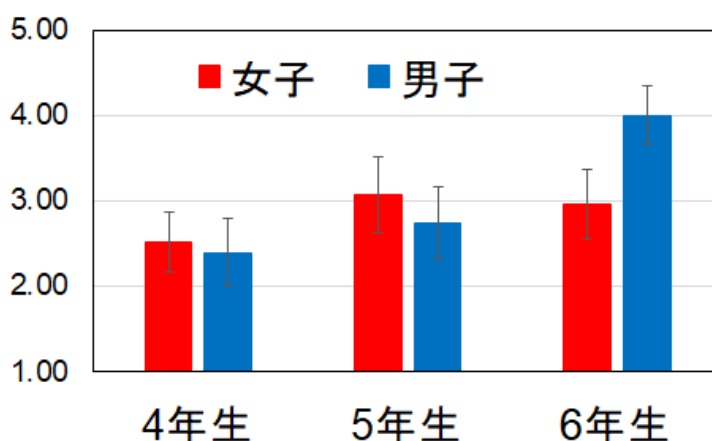


図 8. 小学校高学年のオンライン授業への好意度の平均値
エラーバーは 95%信頼区間

学年と性別ごとのオンライン授業に対する好意度の平均値を図 8 に示した。好意度の平均値に対して、学年（4/5/6年生）と性別（女子/男子）を参加者間要因とした、2 要因参加者間 ANOVA を実施した。その結果、学年の主効果が有意だったが ($F(2, 264) = 12.77, p < .001$)、性別の主効果は非有意だった ($F(1, 264) = 1.38, p = .241$)。また、交互作用が有意だったので ($F(2, 264) = 6.71, p = .001$)、単純効果の検定を行ったところ、6年生の男子は4年生と5年生の男子、および6年生の女子よりもオンライン授業への好意度が有意に高いことがわかった。また、4年生は男女ともに95%信頼区間の上限が3.0を超えなかったことから、オンライン授業よりもどちらかという対面授業を好む傾向にあることが示唆された。

全体的には、学年進行にともなって、オンライン授業への肯定的評価が強くなっていた。

6年生男子はオンライン授業を好むことがわかった。ところが、4年生と5年生の男子は、オンライン授業への好意度がそれほど高くなかった。女子は4年生から6年生の3年間を通して、オンライン授業への好意度に有意な変化はみられなかった。6年生男子がオンライン授業を好むのは、通常授業とは異なる新規な状況を好んだり、パソコンやスマホなどICTに強い興味を持つようになったりするからかもしれない。

(2)ー2ー3. 改善点に関する自由記述

改善点に関する自由記述は以下の方法で分類した。まず、無回答や「特になし」を除き、1人で複数回答は別々の回答に分けた。全部で何個の意見が出たかをカウントした結果、のべ162個の意見があった。全意見の20%（32個）を無作為抽出し、それを教育心理学専攻の学生2人がKJ法的方法で分類した。その結果、7個のカテゴリが見つかった。その後、分類を行った学生2人がそれぞれ、162個すべての意見をカテゴリ分けした。2人のカテゴリが一致しなかった箇所は、合議のうえ一致させた。「その他」として分類された意見の中にも、ある程度のまとまりで分類できるカテゴリが1つあったので、調査者がそれを独立したカテゴリとし、最終的に「その他」を含む合計9個のカテゴリとした。最終的な分類結果を表7にまとめた。それを円グラフにすると図9のようになった。

表7. 改善点に関する自由記述の分類結果（小学4～6年生）

カテゴリ	意見数	%
話し合いや交流を増やしてほしい	40	24.7
通信環境（音声・画像など）への不満	37	22.8
教師の指示の出し方・授業方法	31	19.1
ほかの児童の態度	14	8.6
板書について	9	5.6
対面がよかった授業がある	6	3.7
オンライン授業時数を増やしてほしい	6	3.7
目や腰の疲れ	4	2.5
その他	15	9.3

最も多かった指摘は、「友達との話し合いや交流を増やしてほしい」で24.7%、続いて「映像や音声の乱れ、タイムラグなどの通信環境への不満」が22.8%、そして「教師の指示の出し方や授業の方法」が19.1%で、これら上位3つの改善点で3分の2を占めていた。通信環境に関する不満とクラスメイトとの交流の増加への要望については、中学生でも同じく多く挙がっていた。授業の方法に関する要望では、「わかりやすくしてほしい」「もっと楽しくしてほしい」といった漠然としたもののほかに、「質問する時間を作ってほしかった」「みんなが授業についていけているのか確認してほしい」という理解のための時間の確保に関

するものや、「自習の時間を減らしてほしい」といった自習に関するもの、ミーティング機能の操作に関する要望などがみられた。

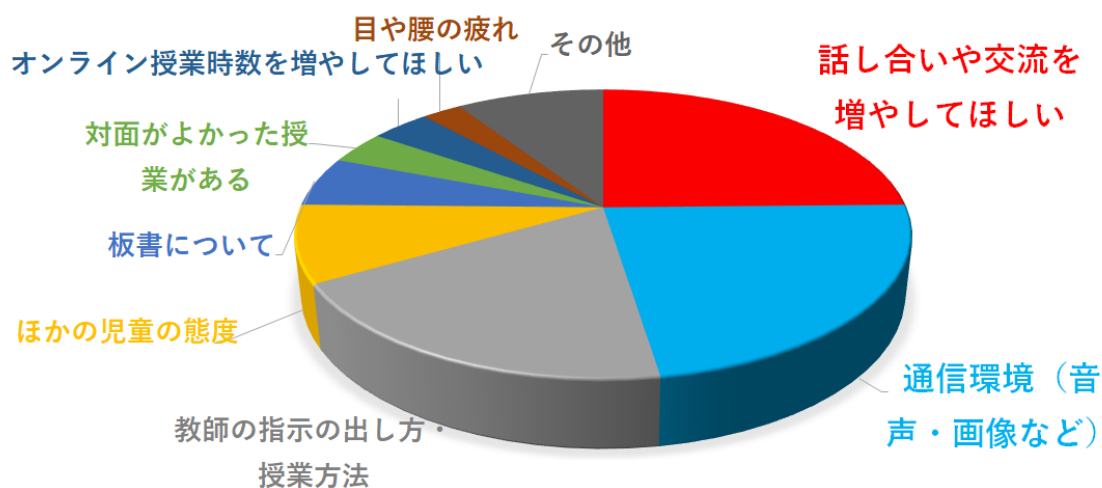


図9. 改善点に関する自由記述の分類結果 (小学4～6年生)

(2)–3. まとめ

- 小学校高学年児童は、オンライン授業の学習効果の実感が「楽しい」という感想につながり、それが将来のオンライン授業に対する前向きなモチベーションとなっている。また、オンライン授業の受けやすさ（情動的側面）もモチベーションに多少なりとも影響を与えている。
- 学年が上がるにつれてオンライン授業への肯定的評価が増えていた。6年生男子がもっともオンライン授業を好んでいた。
- 改善点の指摘では、話し合いやチャットによって他児童との交流を増やしてほしいという要望と、通信環境と教師の授業の方法への不満が多かった。

(3) 附属小学校1～3年生に対する調査

(3)–1. 方法

参加者

附属小学校1年生から3年生の児童279名が、調査用紙に記入する形のアンケート調査に参加した。その中で、回答に欠損値のなかった270名のデータを分析した。人数の内訳は、表8のようになった。

表 8. 小学校 1～3 年生の属性別の人数内訳（括弧内は欠損値のない人数）

	女子	男子	不明	合計
1 年生	47 (44)	49 (47)	0	96 (91)
2 年生	46 (46)	45 (42)	0	91 (88)
3 年生	47 (47)	45 (44)	0	92 (91)
合計	140 (137)	139 (133)	0	279 (270)

調査項目（実際の質問紙は図 10 を参照）

- ・ 学年
- ・ 性別
- ・ オンライン授業についての感想：12 項目，4 件法（「はい」「どちらかといえば，はい」「どちらかといえば，いいえ」「いいえ」）※小学校 2 年生以上で学習する漢字にはルビを振った。また，例示として「カレーライスが好きだ」という項目を設けた。
 1. 家でうけたオンライン授業は，楽しかった。
 2. 家でうけたオンライン授業は，ついていくのがむずかしかった。
 3. 家でうけたオンライン授業は，つかれた。
 4. 家でうけたオンライン授業は，気楽だった。
 5. 家でうけたオンライン授業は，まじめにうけることができた。
 6. 家でうけたオンライン授業は，さびしかった。
 7. 家でうけたオンライン授業は，いそがしかった。
 8. 家でうけたオンライン授業は，集中できた。
 9. 家でうけたオンライン授業は，意見を言いやすかった。
 10. 家でうけたオンライン授業は，わかりやすかった。
 11. 家でうけるオンライン授業がもっとふえてほしいと思う。
 12. コロナがなくても，家でうけるオンライン授業があつたらいいのと思う。
- ・ あなたは，学校で受ける授業とオンライン授業，どちらのほうが好きですか。下のめもりに，1 つだけ○をつけてください。

(3)–2. 結果と考察

(3)–2–1. オンライン授業についての感想

「はい」を 4, 「どちらかといえば，はい」を 3, 「どちらかといえば，いいえ」を 2, 「いいえ」を 1 として以下の分析を行った。

オンライン授業を受けてみて，どのような感想を持った児童が，オンライン授業に対し肯定的な態度を抱くようになったかを分析するために，オンライン授業についての感想 12 項目を用いた共分散構造分析を実施した。この分析を通して，オンライン授業のどのような側

面を意識して授業を設計・実施すれば、児童のオンライン授業への前向きな態度を引き出すことができるかのヒントを得られるだろう。

中学生での分析と同じように、オンライン授業の体験に対する認知的満足感（学習効果の実感）と情動的快適さ（参加しやすさ・情緒的障壁の少なさ）が、それぞれオンライン授業の機会増加への期待（将来のオンライン授業へのモチベーション）に影響を与えているという仮説を立てた（図1）。

仮説モデルの適合度を計算した結果、相関係数および標準偏回帰係数は図11のようになった（潜在因子から各項目への係数は省略）。認知と感情の2つの因子から期待因子に対する標準偏回帰係数はどちらも非有意となった。適合度は、 $\chi^2(51)/df = 2.37$, GFI = 0.925 (AGFI = 0.886), CFI = 0.867, RMSEA = 0.071, AIC = 174.84 で、あまり適切なモデルだとは言えなかった。そこで、12項目の探索的因子分析（最尤法、直接オブリン回転）を行い、その結果にもとづいてモデルを修正した。

小1～3年生用

インターネットを使ったオンライン授業についてのアンケート

()年生 性別(男・女) ←あてはまるほうに○をつける

みなさんは、学校がはじまってから9月6日(月)まで、学校には来ずに、インターネットを使って家でオンライン授業をうけていました。そのときのことをお話しします。それぞれの文を読んで、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」のうち、あなたにあてはまるものに○をつけてください。このアンケートで、だれがどんなことを答えたかは、先生には知られないので、自分の思ったとおりを答えてください。

	はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ
(例) カレーライスが好きだ。		○		
1. 家でうけたオンライン授業は、楽しかった。				
2. 家でうけたオンライン授業は、ついでいくのがむずかしかった。				
3. 家でうけたオンライン授業は、つかれた。				
4. 家でうけたオンライン授業は、気楽だった。				
5. 家でうけたオンライン授業は、まじめにうけることができた。				
6. 家でうけたオンライン授業は、さびしかった。				

	はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ
7. 家でうけたオンライン授業は、いそがしかった。				
8. 家でうけたオンライン授業は、「審判」で来た。				
9. 家でうけたオンライン授業は、意見を言えやすかった。				
10. 家でうけたオンライン授業は、わかりやすかった。				
11. 家でうけるオンライン授業がもっとふえてほしいと思う。				
12. コロナがなくても、家でうけるオンライン授業があったらいいのと思う。				

あなたは、学校でうける授業と家でうけるオンライン授業のどちらが好きですか。下のぬもりに、1つだけ○をつけてください。

学校の授業が
好き

家でうける授業が
好き

オンライン授業が
好き

これでアンケートはおわりです。ありがとうございました。

図10. 小学生1～3年生用の質問紙

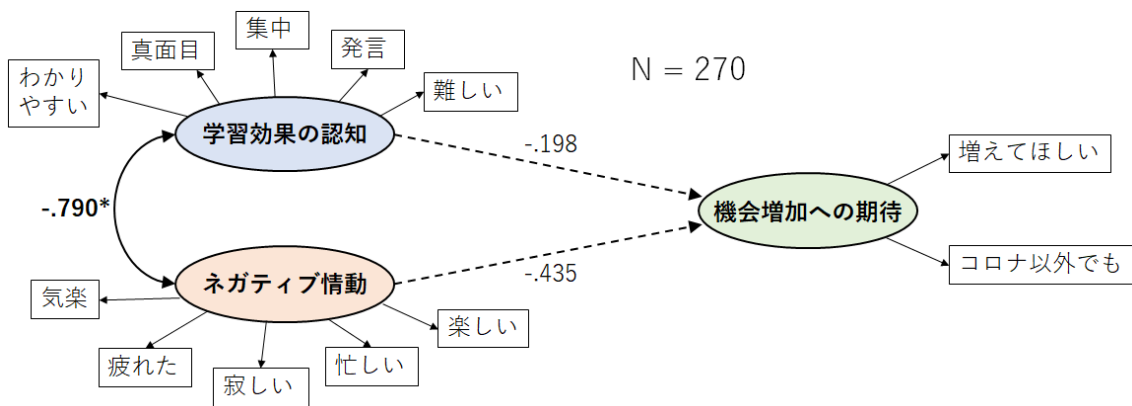


図 11. 仮説モデルの分析結果 (小学 1～3 年生)

探索的因子分析の結果、「さびしかった」が認知・感情のどちらの因子にも負荷を持たなかったことから、分析に含めないこととした。また、「ついていくのがむずかしかった」は情動因子に大きな負荷を持つことがわかったため、情動因子の項目とした。「楽しかった」は認知因子に分類されたが、情動的意味も含んでいると考えられるため、認知・感情のどちらの因子からも影響を受けるようモデルを修正した。修正モデルを図 12 に示した。

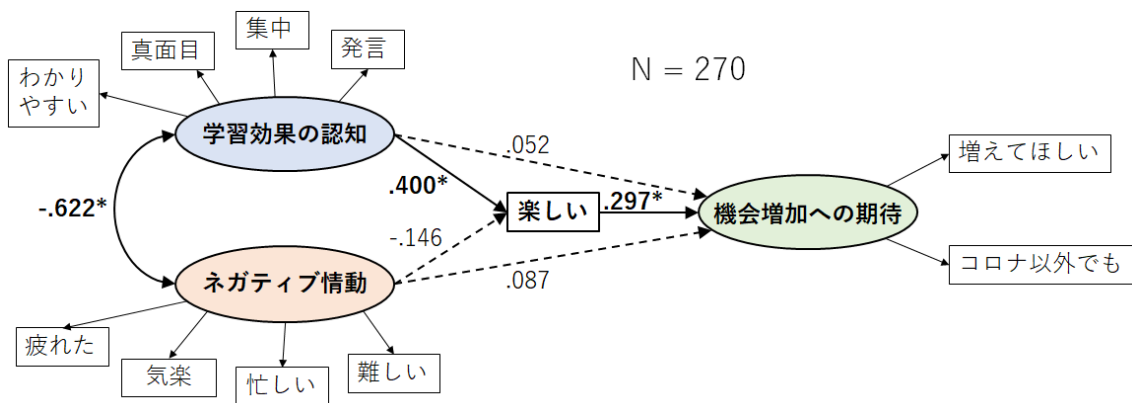


図 12. 修正モデルの分析結果 (小学 1～3 年生)

修正モデルを計算した結果、相関係数および標準偏回帰係数は図 12 のようになった (因子から各項目への係数は省略した)。モデル適合度は、 $\chi^2(39)/df = 1.50$, GFI = 0.962 (AGFI = 0.935), CFI = 0.961, RMSEA = 0.043, AIC = 112.62 で満足のゆく適合度を示し、仮説モデルよりもかなり改善されたと言える。

小学校高学年 (4～6 年生) や中学生と同じく、オンライン授業における学習効果の認知が「楽しい」という感想につながり、それが今後のオンライン授業への期待に有意に影響していた。しかしながら、小学校高学年や中学生とは異なり、オンライン授業における情動的経験は今後の期待に有意な影響を与えていなかった。

(3)–2–2. オンライン授業への好意度の発達的变化

学年あるいは性別によって、オンライン授業への好意度に変化がみられるかを検討した。「学校での授業が好き」を1、「オンライン授業が好き」を5とする1から5までの数値を割り当てて分析を行った。したがって、5に近いほどオンライン授業を好意的にとらえているということになる。

学年と性別ごとのオンライン授業に対する好意度の平均値を図13に示した。好意度の平均値に対して、学年（1/2/3年生）と性別（女子/男子）を参加者間要因とした、2要因参加者間ANOVAを実施した。その結果、学年の主効果は有意だったが（ $F(2, 264) = 2.46, p = .087$ ）、性別の主効果は有意だった（ $F(1, 264) = 10.53, p = .001$ ）。また、交互作用が有意は非有意だった（ $F(2, 264) = 1.05, p = .353$ ）。

これらの結果から、男子のほうが女子よりも全体的にオンライン授業を好むということが明らかになった。また、女子はどの学年も95%信頼区間の上限が3.0を超えていないことから、オンライン授業よりもむしろ対面授業を好むと考えられる。

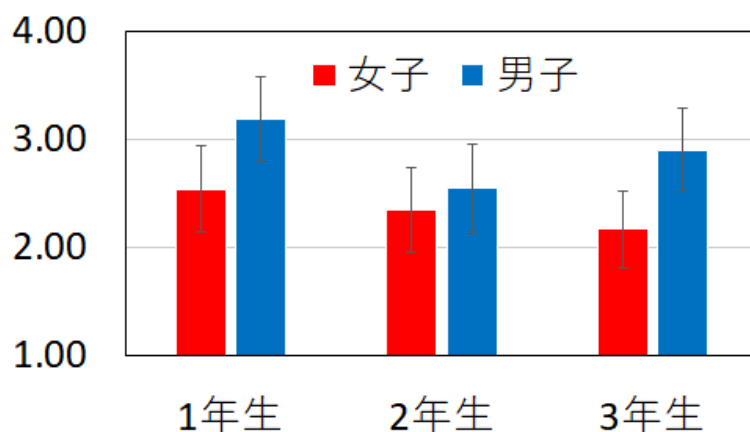


図13. 小学校低学年のオンライン授業への好意度の平均値
エラーバーは95%信頼区間

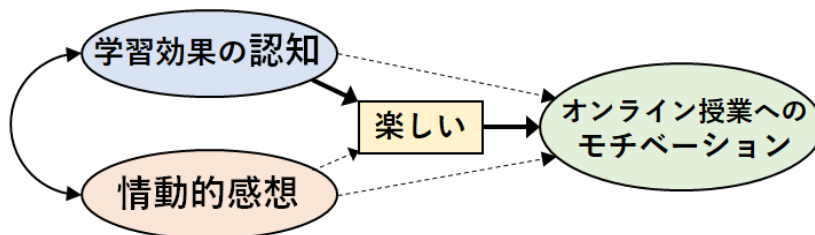
(3)–3. まとめ

- 小学校低学年の児童は、学習効果の認知が楽しいという感想につながり、それが今後のオンライン授業への期待へと影響していた。オンライン授業に対する情動的な反応は今後の期待にほとんど影響していなかった。
- 小学校低学年では、男子のほうが女子よりもオンライン授業に好意的だった。女子はどちらかという対面授業のほうが好きな児童が多いかもしれない。

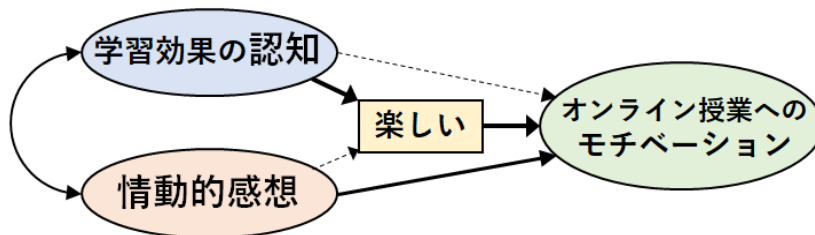
(4) 総合考察

本調査をとおして最も興味深かった発見のひとつは、オンライン授業に対する感想のどの側面が、将来のオンライン授業に対する期待やモチベーションに影響を与えていたかが、発達段階によって変化するということである（図 14）。小学校低学年（1～3 年生）では、「わかりやすい」「集中して受けられる」といった“学習効果の認知”が、オンライン授業は「楽しい」という感情と結びつき、それが将来の“オンライン授業への期待”に寄与していた。小学校高学年（4～6 年生）では、低学年と同じように“学習効果の認知”と「楽しい」との結びつきが見られた一方で、オンライン授業は「疲れる」「忙しい」といった“情動的な感想”も“オンライン授業への期待”に影響を与えていた。そして中学生になると、“学習効果の認知”と“情動的な感想”の両方が「楽しい」という感情と関連し、さらに“情動的な感想”は直接“オンライン授業への期待”に寄与していたことから、オンライン授業の快適さやスムーズさといった情動的な側面の重要性が増していることが示唆された。

(A) 小学校低学年



(B) 小学校高学年



(C) 中学生

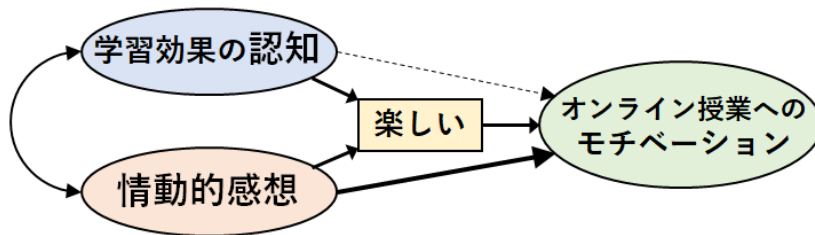


図 14. 経験から期待への影響の発達の变化（実線が影響あり，点線が影響なし）

もうひとつの興味深い知見は、オンライン授業に対する好意度の発達的变化である（図15）。小学校低学年では、男子のほうが女子よりもオンライン授業を好んでいたが、女子は対面授業を好んでおり、全体としては対面授業のほうが好ましい児童が多いようであった。小学校高学年になると、4年生は対面授業のほうが好ましいと考えているようだが、5年生、6年生と学年が進行するにつれてオンライン授業への好意度は上昇し、特に6年生男子は他の属性の児童に比べてオンライン授業を非常に好むことがわかった。そして中学生になると、中学1年生の男子が最もオンライン授業に好意的だが、学年が進むにつれてその傾向は低下することがわかった。

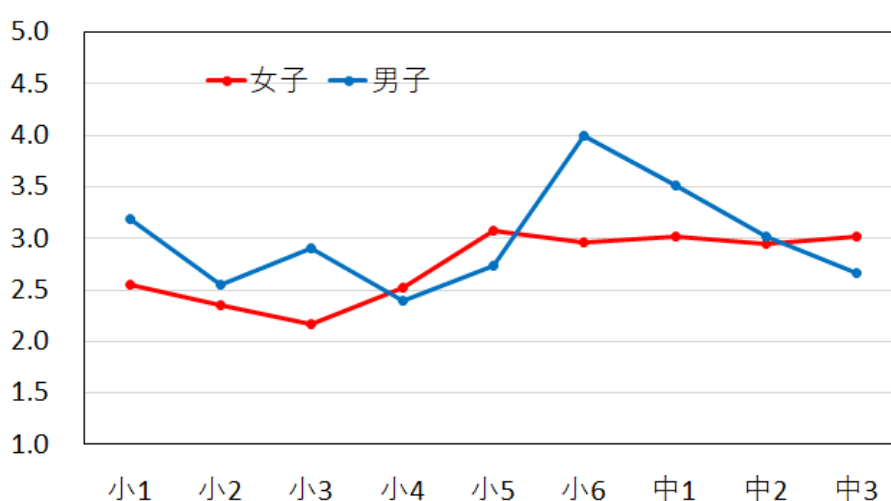


図 15. オンライン授業への好意度の学年進行による変化

1に近いほど対面授業を、5に近いほどオンライン授業を好む
中学生は7段階で尋ねたため、5/7をかけて5段階に合わせた

本調査を通して、児童生徒のオンライン授業へのモチベーションを向上させるために必要な要因が発達段階に応じて変化することや、オンライン授業に食いつきのよい児童生徒の属性と性格特性が明らかになった。また、自由記述からは、小中学校のどちらでも、ネットワーク環境の整備（あるいはネットワークに負荷をかけない時間割の設計）と、授業参加者同士のコミュニケーションを増やす授業上の工夫が急務だということが浮き彫りとなった。本調査はあくまでオンライン授業における児童生徒の心の動きの基本的特徴を明らかにすることが目的であり、どのようなオンライン学級運営やオンライン授業を行うべきかに言及することは意図していない。実際の授業をどのように開発・展開するかは、教師一人ひとりの試行錯誤と独創的な工夫に委ねられている。今回の分析によって得られた基礎的データが、これからの日本の学校の授業やカリキュラムを考えていくうえでの何かしらのヒントになれば幸いである。

2. 2. 保護者対象調査について

木村 国広, 加納 暁子, 吉良 史明

【オンライン授業実施までの経緯】

<小学校：8月31日保護者宛通知より>

・県内の新型コロナウイルス感染が拡大しております。そのような現状を受け、長崎大学と協議した結果、長崎県独自の緊急事態宣言が終わる9月6日（月）まで、「オンライン授業」に変更し、登校を控えることにしました。

※9月1日（木）から4日間

・「オンライン授業」に伴いまして、ネット環境が整っていない御家庭に対して、「Wi-Fi ルーター」をお貸しいたします。ただし、「Wi-Fi ルーター」に必要な「SIM カード」につきましては、御家庭での負担とさせていただきます。貸し出しについてのお問い合わせは、教頭までお願いいたします。

・仕事やネット環境等の都合で、御家庭での「オンライン授業」ができない場合は、登校して、校内で「オンライン授業」を行うなどの対応をいたします。学校での対応を御希望される場合は、学校へ御連絡ください。

<中学校：8月30日保護者宛通知より>

・8月19日には、県内の感染状況を示すステージが5に引き上げられ、県独自の緊急事態宣言が発令され、さらに、25日にはまん延防止等重点措置区域の指定と同宣言の延長が発表されました。これらに伴い、8月23日にメールにてお知らせしましたが、感染拡大防止と学びの保障の観点から、9月1日（水）から9月6日（月）の間、生徒は登校せずオンライン授業を行うことといたしました。

・オンライン授業についての手順や留意点は、31日に生徒に文書を配付して説明します。平日の午前8時20分には、Google Classroom に入り、出欠や本日の予定を確認します。万一、体調が悪く参加できない場合は、午前8時20分までに学校に電話連絡ください。

・御家庭での接続に係り、自宅の Wi-Fi 接続環境を確認の上、31日下校後、学校から持ち帰った PC で上記 Classroom に接続できることを御確認ください。

<小学校：9月2日保護者宛メールより>

・オンライン授業に決定した意図は、長崎県独自の緊急事態宣言が終わる6日（月）まで「人との接触を避けるため」です。Wi-Fi 環境や家庭の都合で、学校でのオンライン授業を受けるお子様がいらっしゃいますが、連絡をせずに登校させたり、友達がいるからという理由で登校させたりすることがないようにお願い申し上げます。

<小学校：Wi-Fi ルーター貸し出しの状況及び登校者数>

- ・Wi-Fi ルーター貸出数：25台
- ・登校児童数：初日562名中67人→徐々に減少した

<中学校：Wi-Fi ルーター貸し出しの状況及び登校者数>

- ・Wi-Fi ルーター貸出数：8台
- ・登校生徒数0人

【今回のオンライン授業の趣旨】

- ・上記の内容から、今回は、長崎県独自の緊急事態宣言のもと、感染予防対策の一環として、また子どもの学びを止めないための、対面授業が実施できないときの代替措置としてオンライン授業が行われた。
- ・オンライン授業の環境が整わない児童生徒への対応も適切に行われた。

【オンライン授業の実施状況※1日当たり】

小学校：全5時間中2時間実施

中学校：全5～6時間中3～4時間実施

【アンケート項目】

- ・以下の質問項目について、調査が行われた。
- ・調査の方法は、Web フォームによるオンライン調査であった。
- ・回答は、4件法（1. あてはまらない、2. ややあてはまらない、3. ややあてはまる、4. あてはまる）とした。

質問1	オンライン授業には、メリットがあった。	※3 or 4 の理由
質問2	オンライン授業には、デメリットがあった。	※3 or 4 の理由
質問3	オンライン授業に、子どもは集中していた。	※3 or 4 の理由
質問4	オンライン授業に、子どもは疲れていた。	※3 or 4 の理由
質問5	オンライン授業の際、家庭で困ったことがあった。	※3 or 4 の理由

※3：ややあてはまる

※4：あてはまる

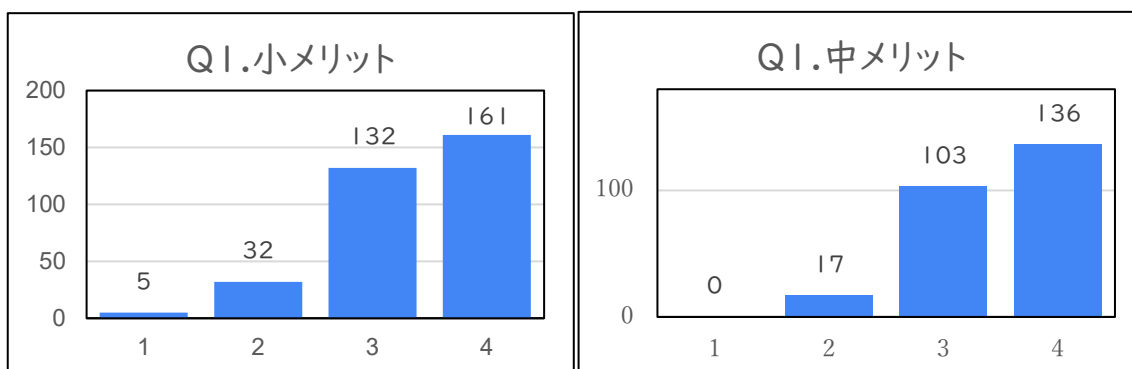
【アンケート結果】

アンケートの回答数は、小学校 330 件（児童数 562 名）、中学校 260 件（生徒数 424 名）でした。このうち、11 件は小学校と中学校の両方に該当する保護者でした。

※アンケート結果のグラフ化においては、すべての質問が「値が大きいほど肯定的な評価」となるよう、質問 2、4、5 は 1～4 の選択肢の値を逆転させています（逆転処理）。逆転処理したグラフには（逆転）と記載しています。

質問 1 オンライン授業には、メリットがあった。

質問 1（理由等）3:ややあてはまる、4:あてはまる に回答された場合、その理由を教えてください。



・オンライン授業に対して、小学校の保護者の約 89%（293/330）、中学校の保護者の約 93%（239/256）が、肯定的な回答（3または4の回答）をしている。

・保護者の多くが、今回のオンライン授業の趣旨及び内容に理解を示している。その割合は、中学校がより高い。

・一方、「親不在に心配を感じた」「休校が長く続くと学年が上がるにつれ学習に遅れが出るのではと不安がある」「他の小中学校が対面授業をしている中、附属だけオンライン授業をしても市内や県内の感染防止対策としてメリットがあるかどうかと考えると少し疑問が残る」「台風などで休校になった場合も実施してもらいたい」など、家庭状況や休校が続くことへの不安、地域の実態や他の休校場面への対応等に関する記述もみられた。

<肯定的回答の理由例：自由記述>

○感染予防対策に関して

- ・感染症の観点から、子供の安全と学習の保障が守られていてよかった。（小）
- ・コロナ感染への不安を取り除き、学習を進められたから。（小）

・緊急事態宣言中だったのでコロナ感染リスクを減らすことが出来て、親子共々不安材料が減らせたから。(中)

・登校による感染リスクや台風時登下校のリスクを回避出来た。(中)

○授業実践に関して

・学校に行けない場合、休校ではなく、オンライン授業という選択ができることは、子供達には必要なことであり、有事の際も教育を受けられるという安心感があります。(小)

・生活リズムが作れてよかったです。そばで授業を聞くことができ、授業内容の理解できてない部分を個別にサポートすることができました。(小)

・ちゃんと授業になっていた。病欠や不登校でも体調さえ良ければ受けられるようになるととても良いと思う。(中)

・学校で受ける授業と、ほとんど変わらないくらいわかり易く、なんら支障は無かったと、本人が言っていたから。(中)

○オンライン授業に関して

・低学年でもオンラインで授業が成立することがわかった。(小)

・高学年になると自分でパソコンを操作し、ある程度のトラブルも解決できるので、学校で対面授業を受けているのとあまり変わらないように思えました。(小)

・もちろん対面が一番ですが、これからオンラインが増えていく社会になると思いますので、慣れておくためにも、自分でどのように勉強するか考えるためにもいい機会であったと思います。(中)

・昨年より早い段階で準備をしていただいたおかげで、子供たちもこの時代の状況に対応できスムーズにオンライン授業が出来ていたように思います。(中)

○その他

・登校できない人も授業が受けれる。また、マスクなしで表情がみえた。(小)

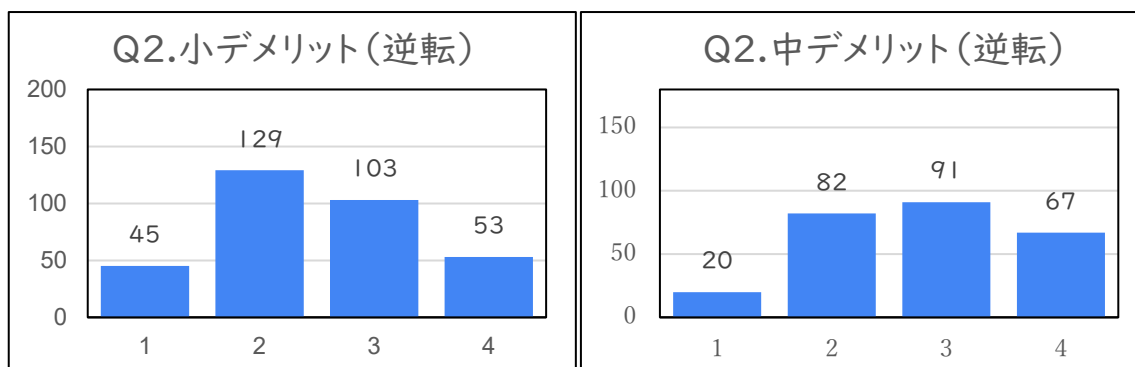
・通学時間がかからないので、その分時間を有効活用できました。(小)

・表情を確認しながら出来るところが、心の面で安心材料となった。(中)

・いろんな状況に柔軟に対応できることは大切だと思います。(中)

質問2 オンライン授業には、デメリットがあった。

質問2（理由等）3:ややあてはまる, 4:あてはまる に回答された場合, その理由を教えてください。



・オンライン授業に対して、小学校の保護者の約 53% (174/330), 中学校の保護者の約 39% (102/260) が、「デメリットがあった」との回答（3または4の回答）をしている。

・オンライン授業の趣旨に理解を示した保護者にあってもデメリットを感じていた。小学校にその傾向が高い。

・オンライン環境や授業方法, 対面授業の必要性や健康不安, 家族の負担等に関する記述がみられた。

<デメリットの内容例：自由記述>

○小学校：質問1で「3」「4」と回答

・小学生の子供一人ではネット接続のトラブルや先生の指示（ノートの写真をアップロード）に対応できず、パニックになってしまっていた。

・全員のネット環境が良いとは言えないので途中で中断してしまう事もあった。

・対面でないとできない科目もある。オンライン環境を整えるのに最初は戸惑った。

・出欠確認など授業じゃないところに時間がかかっているようにみえました。

・画面を注視するので、視力への影響がありそうだと感じた。

・登校しないので、外に出る事がなくなって体力が落ちた。

・発言の回数が減ってしまったり、通常の授業に比べて子供の理解度が下がったりするのではないかという点が気になる。

・間違っても気づかれない。

○小学校：質問1で「1」「2」と回答

・1年生のため一人で家でオンライン授業という訳にはいかず、誰か家にいなければならぬのが困った。本人も友達と会えず憂鬱な日々だった様子だった。

・黒板を写す範囲が小さかったりしてノートに写しにくかったり、子供達が写し終わら

ないうちに先に進んだり子供達の把握が難しそうでした。

・兄弟3人がそれぞれに家でオンラインとなると場所の確保も難しく、母親の家事や仕事も思うようにすることができず、家庭への負担が大きいと感じたので。

○中学校：質問1で「3」「4」と回答

・違うことをしててもわからないから。話を聞いていないこともあった。

・聞き逃してしまうことが度々あり、友達に確認するなどが気軽にできない。先生へ確認も逃してしまう。

・オンラインとしての、授業の見せ方、取り組ませ方の工夫を、さらに充実させてほしいです。

・やはり、リアルで議論することが出来ず、理解力や発言力の低下に繋がるのでは。

・オンライン授業が数日続くと学友に会えないストレスがあると感じました。

・学習は出来ても、人との関わりがやはり大切。

・時々が良いと思いますが、オンライン授業が続くと、子どもの精神面や体力面では悪影響を及ぼすのではないかと思います。

・家族が邪魔にならないように静かにしておく、家族が画面にうつらないように、などの配慮をしないといけない。

○中学校：質問1で「1」「2」と回答

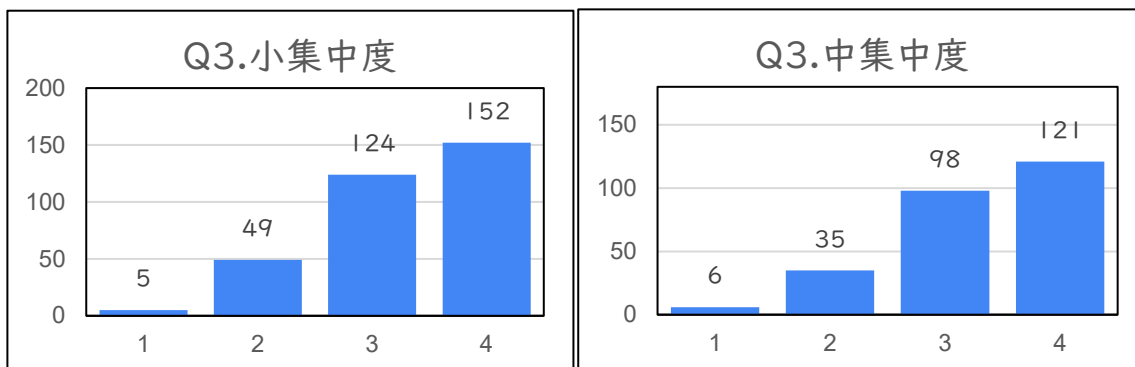
・音声などの確認などのため、すぐに授業には入れず、ロスタイムがあった。1日、三時間しかない授業でしたが、目が痛い、頭がいたいと疲れていました。附属中は、生徒で授業をつくるという特色があるようですが、オンラインでは全く見受けられませんでした。

・パソコン画面に前かがみの姿勢が続くので、1コマの中盤で起立しストレッチするタイムを設けて欲しいと感じた。併せて、体育の時間が無いのでリモート授業の期間には個人で意識的に体を動かさなければならないな、と感じた。

・パソコンがおもちゃになっておりネット依存になっていた、一日中パソコンが気になりソファから動かなかった。授業中も他の画面を開いていたたりした。

質問3 オンライン授業に、子どもは集中していた。

質問3（理由等）3:ややあてはまる、4:あてはまる に回答された場合、その様子を教えてください。



・オンライン授業に対して、小学校の保護者の約84%（276/330）、中学校の保護者の約84%（219/260）が、「集中していた」との回答（3または4の回答）をしている。

・保護者の約8割以上が、オンライン授業における子どもの学びぶりを肯定的にとらえている。

・一方、「慣れてきたら集中力がなくなった」「対面よりは集中に欠けていたと思いますが、1年生にとって適切な授業コマ数で、比較的集中していたと思います。もし2コマ続いていたら集中するのは無理だったかもしれません」「家族がまわりにいるとそっちにも目が行くことがあるため」「途中、電話やインターフォンのチャイムに反応してしまう。勉強部屋はWi-Fiの電波が途切れるのでどうしてもリビングですることになるので」「今後またこのような機会がある際には、環境作りに配慮が必要だと感じました」など、発達段階に応じたオンライン授業の適正数や家庭での学習環境等に関する記述もみられた。

<集中している様子の例：自由記述>

○小学校

- ・初めてのオンライン授業で興味津々だった。
- ・朝起きてから、授業が始まるのをとても楽しみにしていて、授業中も友達や先生の声聞きながらとても集中して授業に参加しているように見えた。
- ・先生方が試行錯誤し、質の高い授業をしてくださったお陰で教室にいるのと変わらない様子で授業を受けることができていました。
- ・オンラインであっても、普段通りの授業態度だった。
- ・挙手をして発表もできるため、集中して何を言おうか考えたり、ノートに書いたりしていました。
- ・普段から自分たちで授業を進める事に慣れているためか、積極的な発言やコミュニケーションをとっている姿が見られた。

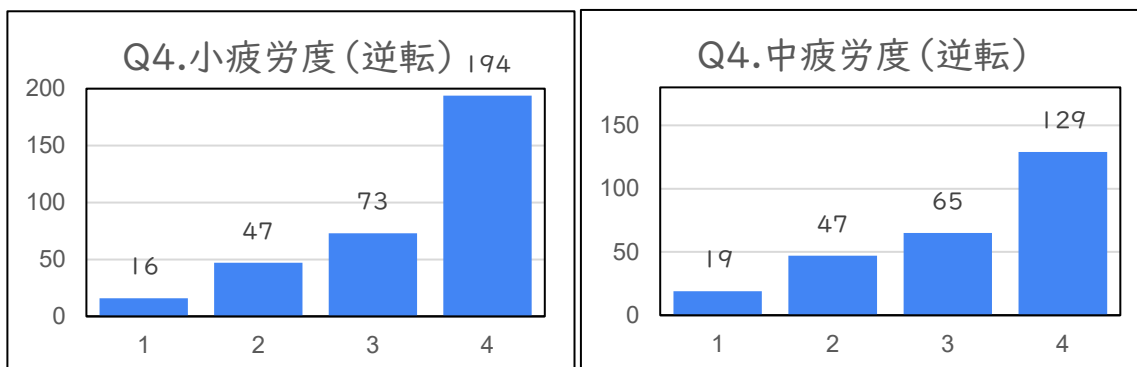
- ・隣についていなくとも、時間を守りきちんと1人で集中して取り組んでいた。
- ・休み時間はオフにでき、オンオフのメリハリがつき、リラックスできるため。学校では、集団行動なので、必ずしも、休息がとれているとは限らない。
- ・回線が途切れることがなければ、予想外に集中して取り組むことができていた。自習タイムもきちんと取り組んでいた。
- ・日を追うごとに、メリハリがつき、レクチャーがある時と自主学習の時と、それぞれに楽しんだり集中したり出来るようになりました。

○中学校

- ・普段と同じように授業にのぞんでいるように見受けられた。
- ・発表もしているようでしたし、取り組んでいる姿勢からそのように感じた。
- ・自分も見られているという意識があるため、集中力が続いたようでした。
- ・真剣に画面をみていた。音楽の授業でもしっかりと歌っていた。
- ・美術の授業でも先生の指導のもと集中して絵を描いたりしていたので。
- ・1人で集中して、時間も考えて準備したり、良い経験だったと思います。
- ・授業によっては、出された課題が終わり次第、退出可能のものもあったので、集中していたと思う。
- ・授業中は自分の部屋にこもっていたので、様子は分からないが、休み時間には部屋から出て来たりしていたので、集中はできていたのではないかと思います。
- ・自分でパソコンが管理できるよう教育していただいているので親のサポートも不要で自室で最後まで自分で完結できていたようです。
- ・初めてのオンライン授業だったので、緊張感を持って取り組んでいたと思う。ただ、これが何週間と長く続いていく場合、慣れから集中力がなくなることもあるのではないかと思います。

質問4 オンライン授業に、子どもは疲れていた。

質問4（理由等）3:ややあてはまる、4:あてはまる に回答された場合、その様子を教えてください。



- ・オンライン授業に対して、小学校の保護者の約 19% (63/330)、中学校の保護者の約 25% (66/260) が、「疲れていた」との回答（3または4の回答）をしている。
- ・約 20%の保護者がオンライン授業に対する子どもの疲れを感じている。
- ・対面授業との比較で、オンライン授業の方が疲れる等との記述もみられた。

<疲れている様子の例：自由記述>

○小学校

- ・緊張と画面を見る事によって、目が疲れた。
- ・頭痛がしたり、学校より眠気がして疲れたと言っていました。
- ・慣れない自宅の机で、パソコンのみに集中していたからか、珍しく「腰が痛い」と言っていた。
- ・ずっと同じ姿勢で画面をみることに疲れていた。お友達の発表なども聞き取りづらそうだった。
- ・先生のみでなく、画面上の数人のお友達の画面も見ながら受講していたためか、普段の授業より疲れがみられた。
- ・小さなモニターで生活などの録画視聴しているとき。
- ・先生の書くボードの文字が見えにくく板書が難しかった。目が疲れる、肩が凝る、頭が痛い、目が痛いが増えると不調を訴えることが多かった。
- ・画面上で話したり、PC 操作の時間が長かったことが影響したのか疲れていたようです。
- ・まわりと少しちがうだけで不安になる性格なので、はじめの2日ほどは操作がみんなと同じようにできているのか、不安に感じて、ひどく緊張していた様子です。
- ・子供達が学校での授業の方が良いと言っていました。

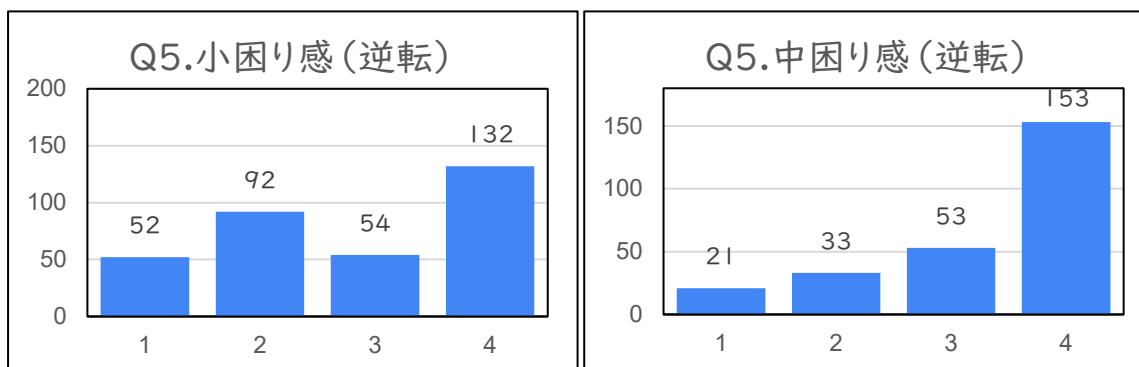
○中学校

- ・中学校は時間が長かった為、目は疲れているようだった。
- ・目が乾燥したそうです。
- ・眼精疲労と肩こり。
- ・パソコンを長時間見続けるのは、負担だったようで、お昼には、目が痛い、目が疲れたなどと、身体的疲れを訴えてました。これが、六時間オンラインによる授業だったら、一週間元気に過ごすことは出来ないだろうなと思いました。
- ・慣れないオンラインで少し緊張していたことが疲れにつながったような気がします。
- ・1日中はきつそうだった。
- ・一方的な授業が長く、パソコンを長時間使うため疲れていた。
- ・美術や体育など、実践的なものがあまり出来ず、飽きがる。オンラインで体育など、まだまだ色々検討できそうだと感じた。

- ・教室での授業よりも、先生に見られている感じがして緊張すると言っていました。
- ・おんなじ授業時間なのにすっごく疲れたと話していた。

質問5 オンライン授業の際、家庭で困ったことがあった。

質問5（理由等）3:ややあてはまる、4:あてはまる に回答された場合、その内容を教えて下さい。



・オンライン授業に対して、小学校の保護者の約44%（144/330）、中学校の保護者の約21%（54/260）が、「家庭で困ることがあった」との回答（3または4の回答）をしている。

・オンライン授業の趣旨に理解を示した保護者であっても家庭での困り感を感じていた。小学校にその傾向が高い。

・子どもへの支援、家庭での学習環境の整備や学校での授業環境との違い、パソコンの管理や授業以外での利用の仕方等に関する記述がみられた。

<困ったことの内容例：自由記述>

○小学校

・接続が切れた際の対応を自分で出来ないで、親がついて居なければいけない所が大変だった。

・困ったのは、保護者が仕事を休んで側についていなければならなかったことです。何とか夫と調整して対応しました。本人は、パソコンの操作など技術的には何の問題も無かったし、ある程度は授業に集中できていて成長を感じましたが、見守りと声かけは必要でした。（息子の特性に対応するため）

・親が仕事で不在の場合、何か起きても対処出来ないことが不安でした。

・下の子が二人いるので、場所を確保しなければならなかった。

・3姉妹、同時時間帯にオンライン授業があるので、他の子のことが気にならないように、環境を整えるのが大変だった。

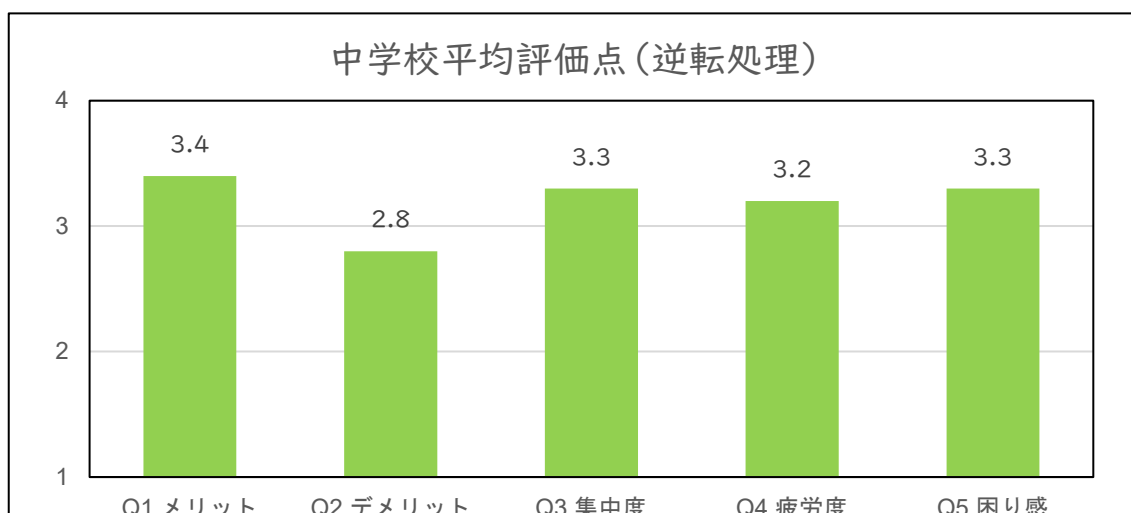
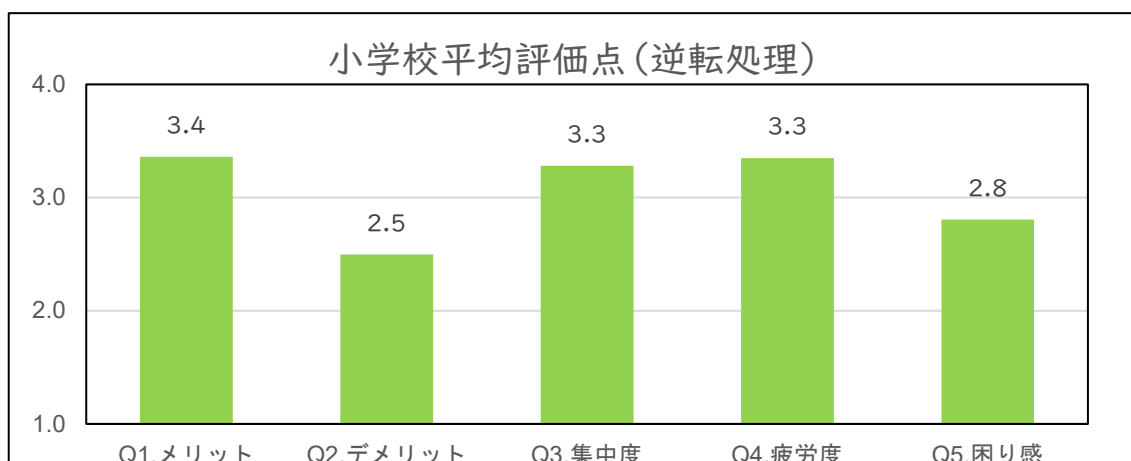
- ・まだ低学年で普段はリビングで学習しており、学習机がなかったことと、下の子供も幼稚園が休みだったためリビングでは物音がすると考え、急遽折り畳みデスクを購入し、リビングと別室でオンライン授業が受けられるよう環境を整えた。
- ・図工などの自学は家庭での準備が間に合わなかった。
- ・お友達同士で毎日のようにチャットが出来るから、パソコンが気になってしょうがない様子。
- ・ノートパソコンが重く、自宅に持って帰るだけで疲弊しきっていた。
- ・祖母や他の家族も近くにいることがあり、担任に対して不満を抱くきっかけになってしまった。特定の子しかあてない。いつも同じ子だ。

○中学校

- ・ネット接続が不安定。写真のアップロードができない。指示された URL にアクセスして視聴しなければならないのに、URL がどこにあるかわからず、探しているうちに時間が経ってしまった。親が仕事で対応できないときに、子供一人ではどうにもならない。
- ・回線が切れたり音声のトラブルがあった際に、大事な連絡事項を口頭でされる際など、聞き漏らすなど、本人にとってストレスな場合もある。大事な連絡などは、共有ページなどを使って欲しい。また回線が不調な際、その旨を先生に連絡できるツールがないのも、子供にとって不安材料と感じた。
- ・子供二人がオンラインを同時に行うと Wi-Fi が繋がらなくなり、ルーターを買い替え、インターネット光の速度アップの申請を行なうことで、接続できました。繋がらない時は、慌てたので、事前に Wi-Fi の接続ができるかなどテストオンラインがなされるとスムーズだと思いました。
- ・小学生の兄弟もオンライン授業だったため、Wi-Fi の使える範囲で部屋を分ける必要があった。
- ・夫も私も在宅勤務、娘もリモート授業と、家庭内の PC と Wi-Fi 使用率が高かったことと、家庭内で密になってしまったこと。
- ・リビングで受けていたので、映り込む事はないと分かっているけど、動きや音に気を遣いました。その点では、親の方が緊張してしまいました。
- ・自宅に Wi-Fi 環境が必至なことが困りました。学校から貸し出しがなければできませんでした。
- ・クラス担任によるかもしれませんが、課題の提出の投稿の仕方が説明されておらず、親が調べたり、子ども同士でやり方を教えあっていました。
- ・まさかの絵の具を使っただけの授業、心の準備が必要でした。
- ・授業に参加したふりが通用していた。ネットがあるとずっとネット検索で、一日中動かないので、授業が終わる度に Wi-Fi を切らないといけなかった。

- ・何人かでオンラインゲームの約束をしていた。
- ・パソコンの破損。

【平均評価点】



・小中学校に大きな差は認められなかったが、「オンライン授業のデメリット」と「家庭での困り感」については、小学校の割合が中学校の割合より高い。背景には子どもの発達段階の違いがあると考えられ、保護者からは、発達段階に即した対応や配慮が求められている。

【今後の課題】

今回は4日間のオンライン授業であったが、今後仮に長期に渡ってオンライン授業が実施される場合には、以下の課題への対応が望まれる。

○オンライン環境

- ・家庭の環境格差(行政, 学校, 保護者が一体となった子どもの学習環境整備の必要性)
- ・回線が途切れた際の手立て(トラブルシューティングマニュアルや聞き逃しても後で自学できるような補助教材の作成等)

○学習内容

- ・実技科目実施の困難性(学習の準備や後片付けなど家庭への負担等)
- ・オンライン授業が長期に渡った際の授業内容に対する制限を補うための方法(実技や協働学習等)

○学習指導

- ・家庭の負担の軽減(特に小学校低学年に対する一人一人の子どもに応じた対応等)
- ・子どものオンライン学習への集中力の維持(対応策としての問題解決型の PBL 学習の推進等)

2. 3. 教員対象調査について

安井 暁子, 藤井 佑介

(1) 調査対象と調査方法

調査対象 附属小学校教員 25 名, 附属中学校教員 22 名
調査方法 アンケート調査

19 項目の質問を実施した (表 1)。1～13 は 4 件法 (1. あてはまらない, 2. ややあてはまらない, 3. ややあてはまる, 4. あてはまる) で回答及びその理由を記述した。14～19 は自由記述とした。

表 2.3.1 教員対象調査における質問項目

1	オンライン授業でもねらいは達成できた	※④or③の理由
2	オンライン授業でも実施可能な教科 (内容) がある	※①or②の学年と理由
3	オンライン授業には不向きな教科 (内容) がある	※①or②の学年と理由
4	オンライン授業では、コロナ禍で制限されている活動 (ペア、グループ) ができた	
5	オンライン授業の特性を考慮して単元設定した	※①or②の内容
6	同一内容の授業を複数回実施するうえで、工夫を重ねた。	※①or②の内容
7	オンライン授業では、チャット機能が活用できた。	※①or②の活用場面
8	オンライン授業には実施が困難な学習形態がある	※①or②の学年と理由
9	オンライン授業は準備が大変である	※①or②の学年と理由
10	保護者から質問があった	※①or②の理由
11	保護者から苦情があった	※①or②の理由
12	オンライン授業はストレスになった	※①or②の理由
13	オンライン授業は必要である	※①or②の理由
14	オンライン授業の設計で工夫点, 留意点	
15	オンライン授業の実施に必要な知識	
16	オンライン授業中, 児童・生徒とのコミュニケーションで工夫した点, 留意点	
17	オンライン授業中, 児童・生徒の学習成果に対するフィードバックで工夫点, 留意点	
18	オンライン授業中, 児童・生徒に学習内容を分かりやすく伝えるための工夫点, 留意点	
19	オンライン授業時の学習評価を行う際の工夫点, 留意点	

(2) 附属小学校に関する結果と考察

1～13の質問に対して逆転処理を行い肯定的に答えた質問と否定的に答えた質問を平均評価点として示した。

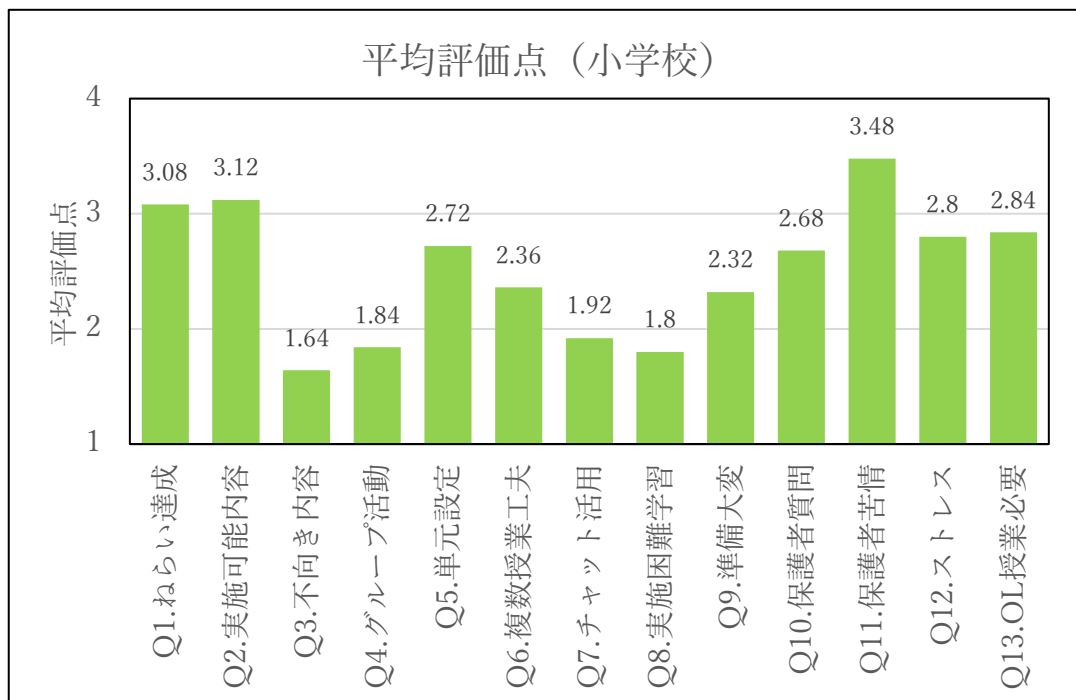


図 2.3.1 平均評価点 (小学校)

評価点が3以上で肯定的に答えた項目

- 1 ねらいの達成
- 2 実施可能な教科 (内容)
- 11 保護者からの苦情

評価点が2以下で否定的に答えた項目

- 3 不向きな教科 (内容)
- 4 グループ活動
- 7 チャットの活用
- 8 実施困難な学習活動

まとめ (成果と課題)

オンライン授業では実施可能な教科 (内容) もあり、ねらいは達成することができた。また、保護者からの苦情もなく実施することができた。これらの成果は、教師がオンライン授業の特徴を生かした授業づくりを工夫したことや、保護者に事前に十分

な説明が実施されたことが要因と考えられる。しかし、技能教科など実技を伴う教科が不向きな教科（内容）として挙げられた。さらに、ペア活動やグループ活動など実施困難な学習活動もあることが示され、チャットも十分活用ができなかったことがわかった。この解決が今後の課題である。

1～19の質問項目について詳細に述べる。

1 オンライン授業でもねらいは達成できた

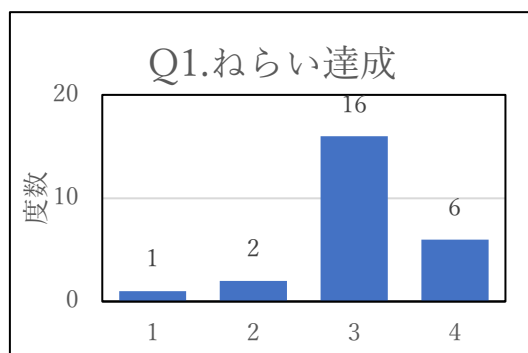


図 2.3.2 オンライン授業でのねらい達成

1 「オンライン授業でもねらいは達成できた」の質問に 22 名が「あてはまる」または「ややあてはまる」と答えている。88%の教員が肯定的に回答していることがわかる。ねらいを達成できなかったと否定的な回答の理由として、「子どもたちと対話が不十分」や「子どもの学習状況が見えず判断できない」または「PC 操作に不慣れで円滑に進められなかった」という理由が挙げられた。

2 「オンライン授業でも実施可能な教科（内容）がある」

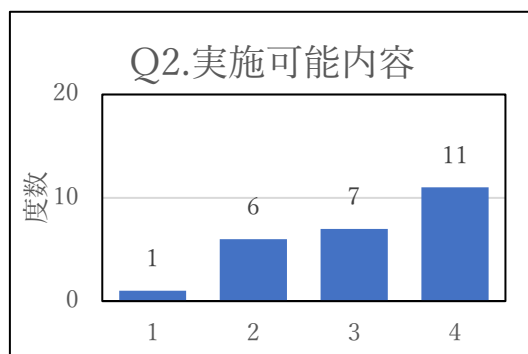


図 2.3.3 オンライン授業における実施可能教科の有無

2 「オンライン授業でも実施可能な教科（内容）がある」については、「あてはまる」が11名、「ややあてはまる」が7名で、72%が肯定的な回答をした。可能な教科や内容としては、国語の言語事項、算数の計算問題などが挙げられた。また、学習場面として定着を図る場面や学習内容として知識や技能にあたる内容、学習展開としては課題を共有して自力解決を行えるものは可能であるとあった。

3 オンライン授業には不向きな教科（内容）がある

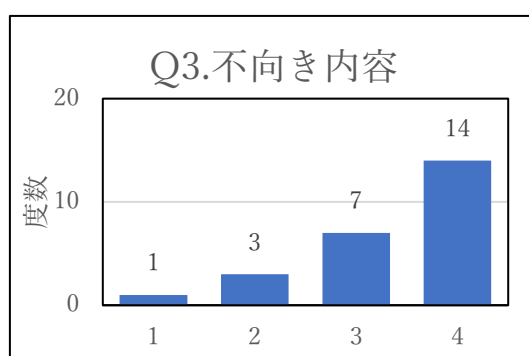


図 2.3.4 オンライン授業における不向きな教科（内容）の有無

3 「オンライン授業には不向きな教科（内容）がある」について「あてはまる」14名、「ややあてはまる」7名で、84%が不向きな教科（内容）があると回答している。教科としては、体育、図工、音楽や理科（実験）が挙げられており、他の教科でも協働的な学びや対話的な学びを進める内容については不向きであるとの回答があった。

4 オンライン授業では、コロナ禍で制限されている活動（ペア、グループ）ができた

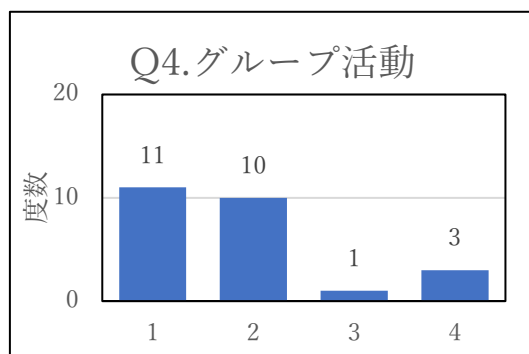


図 2.3.5 オンライン授業においてグループ活動ができたか

4 「オンライン授業では、コロナ禍で制限されている活動（ペア、グループ）ができた」については、「あてはまらない」11名、「ややあてはまらない」10名で、84%がグループ活動ができなかったと回答している。

5 オンライン授業の特性を考慮して単元設定した

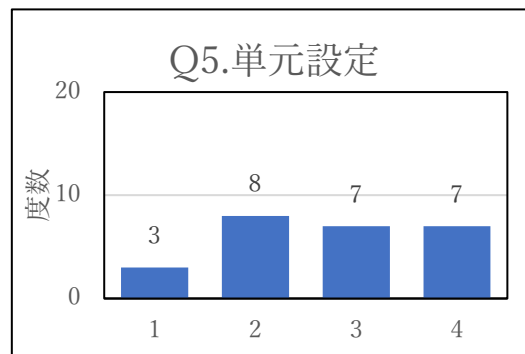


図 2.3.6 オンラインを考慮した単元設定の有無

5 「オンライン授業の特性を考慮して単元設定をした」については、「あてはまる」7名、「ややあてはまる」7名で、56%が考慮して単元設定をしている。

各教科における具体的事例については以下の通りである。

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の特質に関する事項を実施した ・言葉や漢字についての学習を実施した ・「ことばあそびをしよう」「なかまのことばとかん字」を集めた言葉を発表し合う場面を多くとった。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・「土地のつくりと変化」では、家庭にある岩石を広く採集、観察するようにした。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算とひき算の暗算の学習を実施した。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然災害から命を守る」学習において、調べる活動の際、情報を提示し、選択できるようにした。 ・動画を共有して、調べ学習を行った。

6 同一内容の授業を複数回実施するうえで、工夫を重ねた

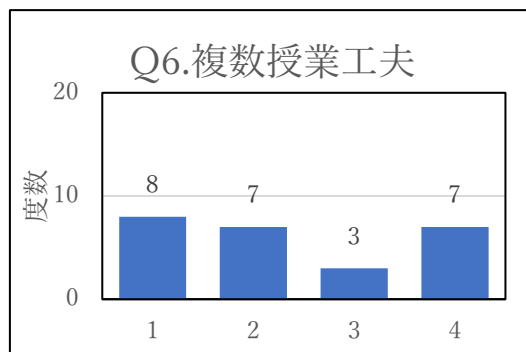


図 2.3.7 同一内容の授業を複数回実施する上での工夫の有無

6 「同一内容の授業を複数回実施するうえで、工夫を重ねた」の質問については、「あてはまる」7名、「ややあてはまる」3名であった。「あてはまる」を答えた理由として、実際の授業の中で「途中から全員発言できるように変更した」や「子どもの反応を見ながら提示する資料の数や方法を変更した」とあった。小学校では同じ内容の授業を複数回実施することが少ないため、このような結果になったと考える。

7 オンライン授業では、チャット機能が活用できた

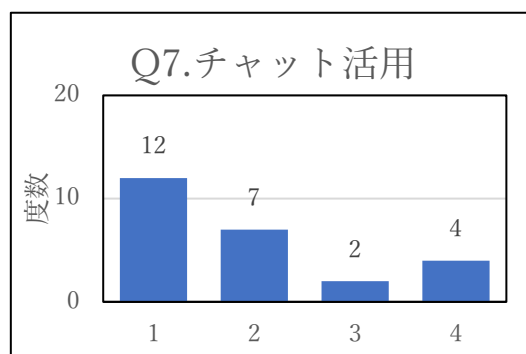


図 2.3.8 チャット機能の活用

7 「オンライン授業では、チャット機能が活用できた」については、「あてはまらない」12名「ややあてはまらない」7名であった。活用できたと肯定的な回答が6名であった。その具体的な場面として、考えの開き合い、話し合い活動場面や、自力解決の場面で子どもが声を出せない状況下において個別対応をした事例が挙げられた。また、音声や画面等の通信が不安定な際も活用できたとあった。

8 オンライン授業には実施が困難な学習形態がある

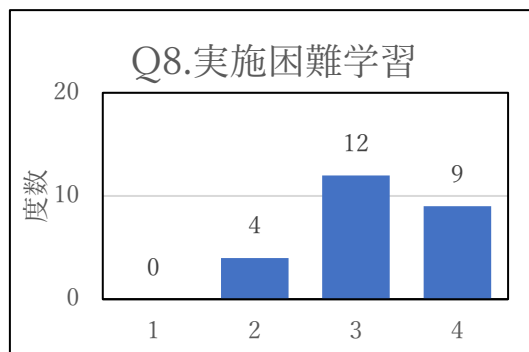


図 2.3.9 オンライン授業において不向きな学習形態の有無

8 「オンライン授業には実施が困難な学習形態がある」について、「あてはまる」9名、「ややあてはまる」12名、84%が実施困難な学習形態があると回答している。具体的にペアやグループでの学習形態や抽出児童のみに話しかけることに困難を感じていると多くの教員が回答している。また、発達段階の視点から低学年や配慮が必要な子どもの指導にも困難を感じたとある。

9 オンライン授業は準備が大変である

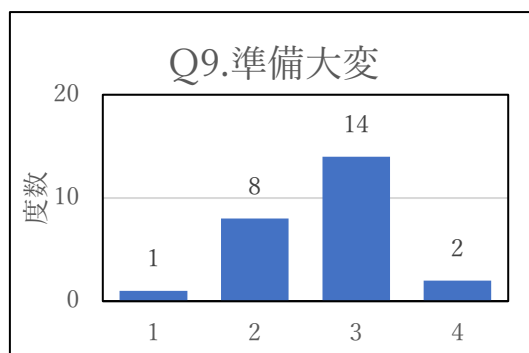


図 2.3.10 オンライン授業での準備の大変さ

9 「オンライン授業は準備が大変である」については、「ややあてはまる」14名、「ややあてはまらない」8名となった。「あてはまる」「ややあてはまる」を答えた理由として、「パソコン機器の準備・操作」「児童への事前指導の徹底」「保護者への連絡・対応」「オンライン授業の授業準備（発問、提示、展開）」に大変さを感じたと挙げられている。

10 保護者から質問があった

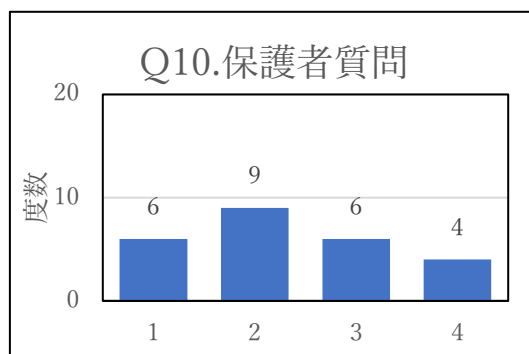


図 2.3.11 保護者からの質問の有無

10「保護者から質問があった」については、「ややあてはまる」6名、「あてはまる」4名であった。質問内容としては、ネット環境に関するものや機器の操作についてであった。

11 保護者から苦情があった

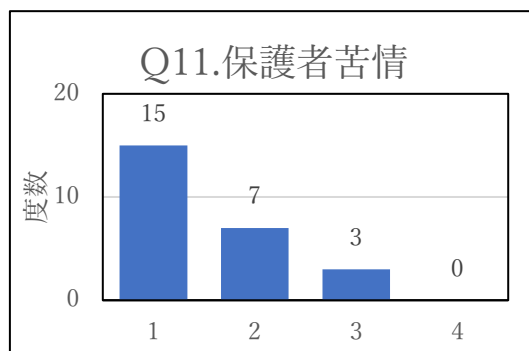


図 2.3.12 保護者からのクレームの有無

11「保護者から苦情があった」については、「ややあてはまる」が3名であった。具体的には、パソコンの持ち帰りや操作についてであった。また、兄弟がいるところが、声が漏れてしまうということが挙げられた。

12 オンライン授業はストレスになった

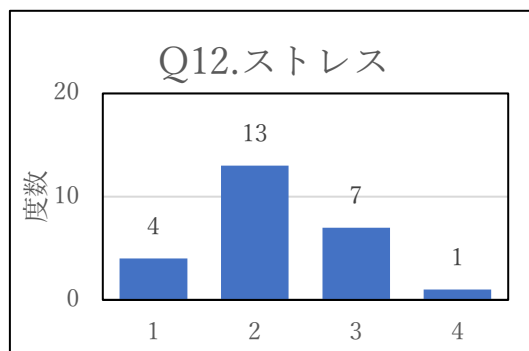


図 2.3.13 オンライン授業におけるストレス

12「オンライン授業はストレスになった」については、「ややあてはまる」7名、「あてはまる」1名であった。主な理由としては、「通信（接続）への不安」「対面授業との違い（授業展開，生徒との掛け合い等）」、「保護者の目」が要因として挙げられた。

13 オンライン授業は必要である

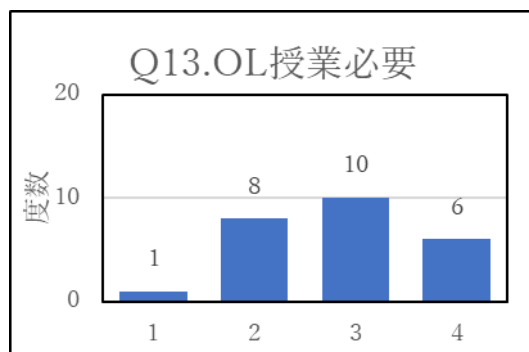


図 2.3.14 オンライン授業の必要性

13「オンライン授業は必要である」については、「ややあてはまる」が10名、「あてはまる」6名であった。あてはまる理由としては、「子どもの学びの保障できる」という意見が多かった。さらに、非常事態下のみにならず、不登校や健康上の理由で登校できない子どもへの学習保障になるとの意見もあった。

- 14 オンライン授業の企画・設計のために工夫したことは何ですか？ またその際の留意点は何ですか？

主に次の3つが工夫したこととして挙げられた。

- ・授業構成に関すること（教材，発問，展開，方法）
- ・オンライン授業を1日2時間に設定したこと
- ・直接指導と間接指導のバランス（複式学級の指導）

- 15 オンライン授業を行う上で，知っておかなければならない知識は何だと思えますか？

主に次の3点が挙げられた。

- ・ネットやパソコン操作について
- ・各学校で設定しているアプリの操作や活用方法
- ・オンライン授業のメリット，デメリット

- 16 オンライン授業中，児童・生徒とのコミュニケーションで工夫した点，留意点

工夫した点として，主に次の4点が挙げられた。

- ・言葉を選び，ゆっくり話すこと
- ・全員の名前を呼名
- ・マスクを外しての会話
- ・質問タイムやチャット機能の活用

- 17 オンライン授業中，児童・生徒の学習成果に対するフィードバックで工夫点，留意点

主な工夫点

- ・丸のポーズなどのリアクション
- ・共有ドライブ グーグルフォーム 学習成果をデータ化
- ・保護者の協力

主な留意点

- ・理解度が低い子への対応
- ・低学年の児童（キーボード入力を要する課題提出ができないため）

18 オンライン授業中，児童・生徒に学習内容を分かりやすく伝えるための工夫点，留意点

主な工夫点

- ・板書の工夫や資料の精選，目的を明確にした指示，
- ・プレゼンテーションの活用，資料の共有，カメラの画角に応じた板書計画，
- ・留意点としては，児童生徒にどのように映っているか確認を常にする必要がある。

19 オンライン授業時の学習評価を行う際の工夫点，留意点

評価については，オンライン授業中とオンライン授業後に行われた。

オンライン授業中 グーグルフォームの活用やジャムボード活用時の記録

オンライン授業後 ノート確認や確認テスト

(3) 附属中学校に関する結果と考察

1～13の質問に対して逆転処理を行い肯定的に答えた質問と否定的に答えた質問を平均評価点として示した。

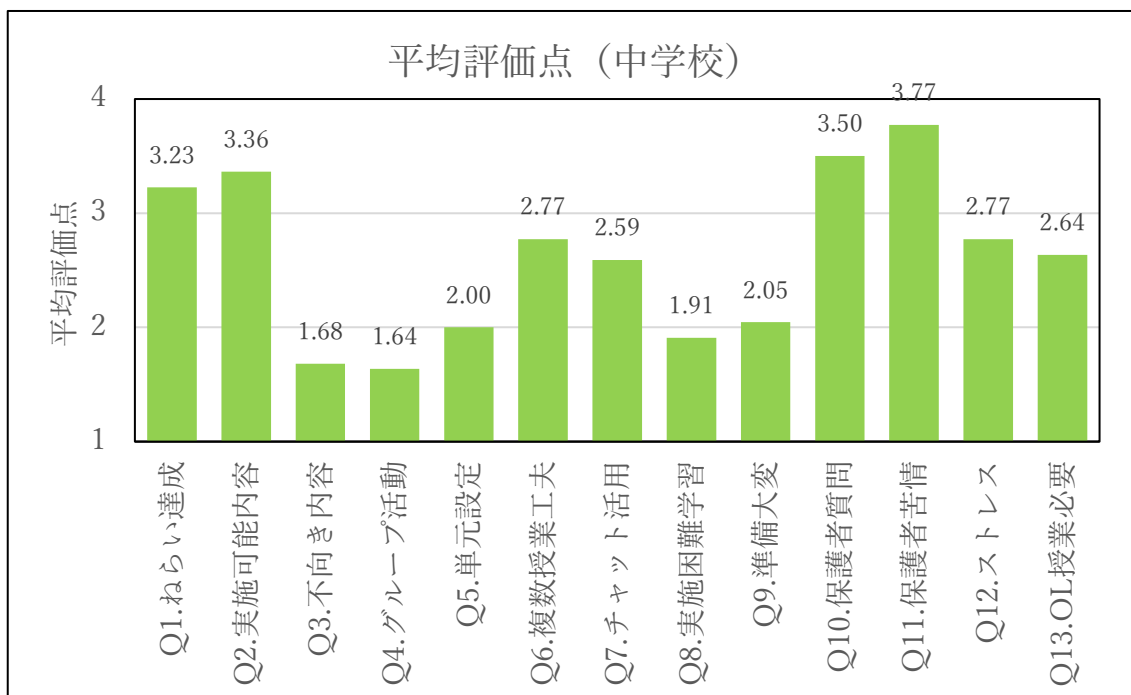


図 2.3.15 平均評価点 (中学校)

評価点が3以上で肯定的に答えた項目

- 1 ねらいが達成できた
- 2 実施可能な教科 (内容) はある
- 10 保護者からの質問はなかった
- 11 保護者からの苦情はなかった

評価点が2以下で否定的に答えた項目

- 3 不向きな教科 (内容)
- 4 グループ活動
- 8 実施困難な学習活動

まとめ (成果と課題)

オンライン授業では授業のねらいを達成することができ、実施可能な教科 (内容) があることが示された。また、保護者からの苦情や質問は少なかったことがわかった。これらの要因として、授業者がオンライン授業の特徴を理解し、授業の工夫や手立てを行ったことや保護者に事前に十分な説明を行っていたことが考えられる。しかし、技能教科等の不向きな教科 (内容) やペア活動やグループ活動など実施困難な学習活

動もあることが示され、この解決が今後の課題である。

1～19の質問項目について詳細に述べる。

1 オンライン授業でもねらいは達成できた

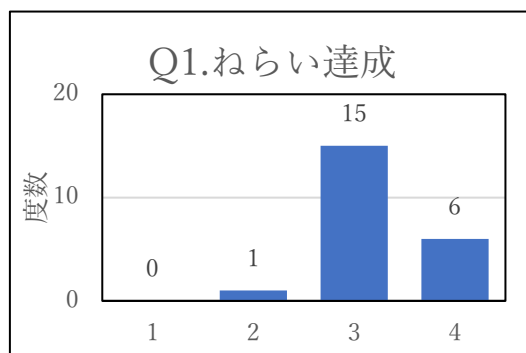


図 2.3.16 オンライン授業でのねらい達成

1 「オンライン授業でもねらいは達成できた」の質問に「あてはまる」15名、「ややあてはまる」に6名が答えている。95%の教員が肯定的に回答していることがわかる。ややあてはまらない、ややあてはまると回答した理由として、「予定より進まなかった」ことや、「オンライン授業後の小テストの正答率が授業者の予想より低かったから」と答えている。

2 オンライン授業でも実施可能な教科（内容）がある

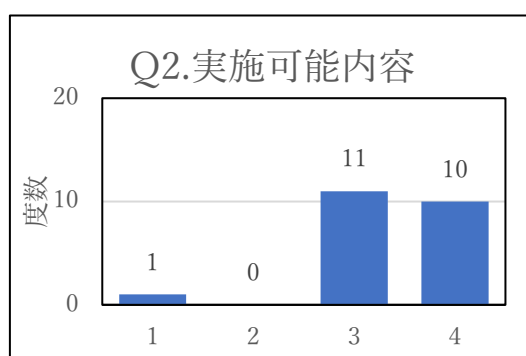


図 2.3.17 オンライン授業における実施可能教科の有無

2 「オンライン授業でも実施可能な教科（内容）がある」については、「あてはまる」が10名、「ややあてはまる」が11名で、95%が肯定的な回答をした。可能な教科や内容として次の内容が挙げられた。数学科 計算問題などの技能を高める内容

教科を越えて、知識の伝達や定着、説明や既習事項の確認、または自己内対話が多いものはできるとあった。

3 オンライン授業には不向きな教科（内容）がある

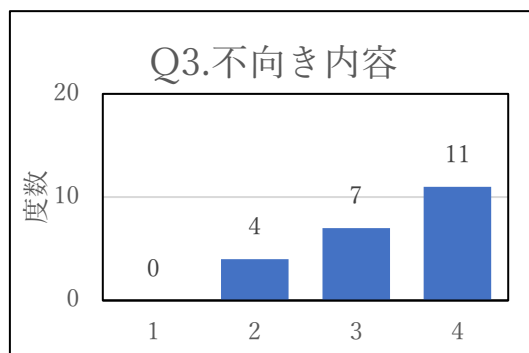


図 2.3.18 オンライン授業における不向きな教科（内容）の有無

3 「オンライン授業には不向きな教科（内容）がある」について「あてはまる」11名、「ややあてはまる」7名で、81%が不向きな教科（内容）があると回答している。技能教科や実技を伴う内容については不向きであると答えている。また、学習場面として対話的な活動を通して、学びを深める場面や他者と協働的に課題解決する場面に困難を感じていると回答があった。

4 オンライン授業では、コロナ禍で制限されている活動（ペア、グループ）ができた

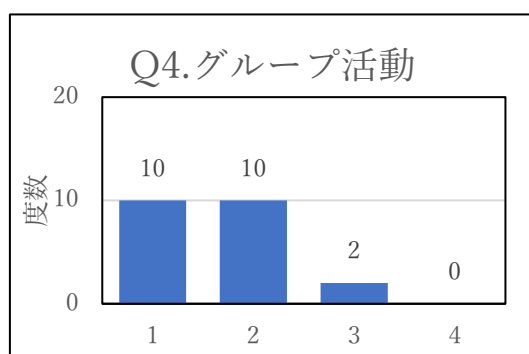


図 2.3.19 オンライン授業においてグループ活動ができたか

4 「オンライン授業では、コロナ禍で制限されている活動（ペア、グループ）ができた」については、「あてはまらない」10名、「ややあてはまらない」10名で、91%がグループ活動ができなかったと回答している。その理由として、教師の PC スキル

の問題や設定を切り替えるための時間がかかることが挙げられた。

5 オンライン授業の特性を考慮して単元設定した

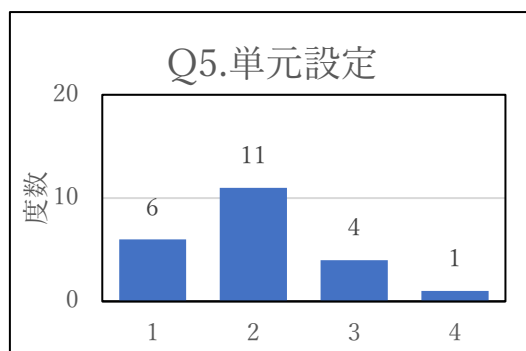


図 2.3.20 オンラインを考慮した単元設定の有無

5 「オンライン授業の特性を考慮して単元設定をした」については、「あてはまらない」6名、「ややあてはまらない」11名で、77%が単元設定を考慮していないと答えている。その理由として、単元構成は大きく変更することはなかったが、オンライン授業に合わせて事前に資料を配付することや板書計画などの工夫を行ったことが挙げられた。

具体的事例は以下の通りである。

数学科	2次方程式の解き方
	1次方程式
国語科	動詞の活用 板書計画をオンライン仕様に計画し、それに合わせたワークシートを作成して、あらかじめ配布していた。
	単元「文学の楽しみ」 全体で学習したことをまとめるといったような、個人で進められるような課題を設定した。例えば、全体の場合、一斉に作品を読んで、課題について交流したあと、「あらすじをまとめる。」「作品の良さをまとめる。」など、個人でじっくり取り組む活動を設定した。
家庭科	幼児の遊び 食品の購入 前半で知識を教え、後半で活用して課題が解決できるようなものにした。

6 同一内容の授業を複数回実施するうえで、工夫を重ねた

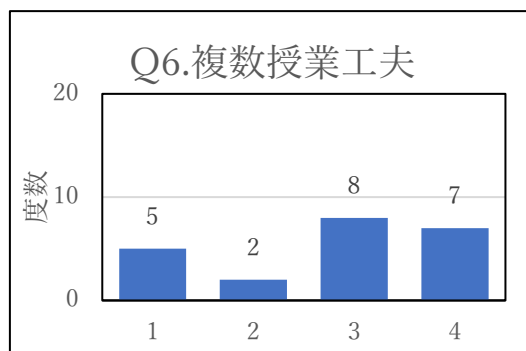


図 2.3.21 同一内容の授業を複数回実施する上での工夫の有無

6 「同一内容の授業を複数回実施するうえで、工夫を重ねた」の質問については、「あてはまる」7名、「ややあてはまる」8名であった。具体的な工夫として、学習内容の見せ方や提示方法、時間配分が多く挙げられている。さらに、1回目の授業で事前配付の学習プリントを紛失した生徒がいたため、2回目以降はプリントデータを共有フォルダに入れて対応したことが挙げられた。

7 オンライン授業では、チャット機能が活用できた

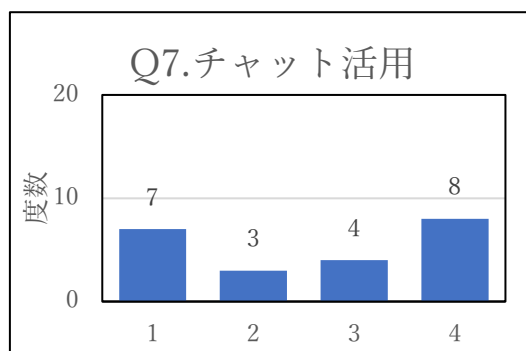


図 2.3.22 チャット機能の活用

7 「オンライン授業では、チャット機能が活用できた」については、「あてはまる」8名「ややあてはまる」4名であった。肯定的な意見と否定的な意見が半数になった。活用できた具体的な事例として、接続に問題があるときや出欠の確認、授業展開場面では質問や発問に対する意見で活用された。その効果として、授業中に学習内容に対する疑問が書き込まれ、それを基に展開し、全体の学びを深めることができた。さらに、対面授業では質問しづらい生徒が教師に個別質問を行うことができたと述べられている。

8 オンライン授業には実施が困難な学習形態がある

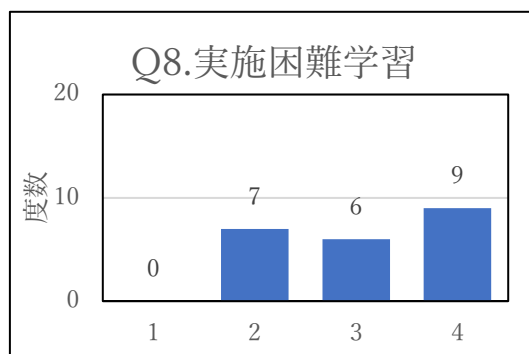


図 2.3.23 オンライン授業において不向きな学習形態の有無

8 「オンライン授業には実施が困難な学習形態がある」について、「あてはまる」9名、「ややあてはまる」6名と回答している。具体的にペアやグループでの学習形態が困難で、教師対生徒全員の形態で進められた。グループ設定が可能なアプリならば、グループ活動が可能になる。

9 オンライン授業は準備が大変である

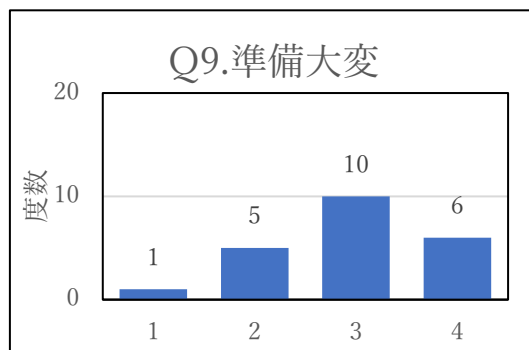


図 2.3.24 オンライン授業での準備の大変さ

9 「オンライン授業は準備が大変である」については、「あてはまる」6名、「ややあてはまる」10名となった。特に、対面授業とは別にオンライン授業用の教材（補助教材・学習用ワークシートを含め）・教具（ホワイトボード）の準備や作成に時間がかかったとあった。また、オンライン授業の際にプレゼンテーションを活用した教員も多く、スライドの作成も時間を要した。しかし、このような準備は大変ではあるが事前にわかっていたらオンライン授業は可能であると回答があった。

10 保護者から質問があった

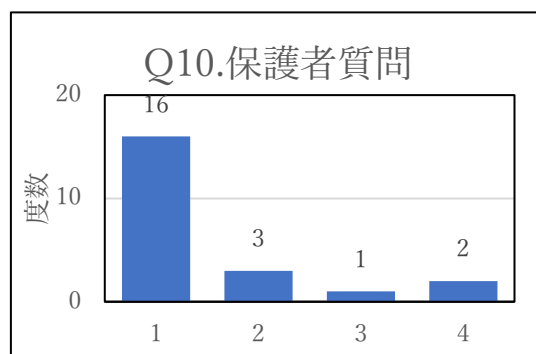


図 2.3.25 保護者からの質問の有無

10「保護者から質問があった」については、「あてはまらない」16名、「ややあてはまらない」3名であった。質問内容としては、ネット環境に関するものや機器の操作についてであった。また、保護者の質問が少なかった背景に事前に連絡等周知徹底ができていたことが予想される。

11 保護者から苦情があった

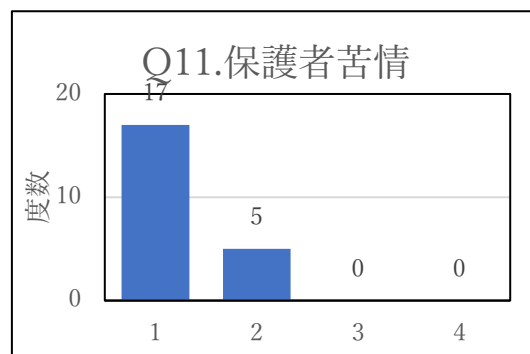


図 2.3.26 保護者からのクレームの有無

11「保護者から苦情があった」については、「あてはまらない」が17名であった。この結果より、保護者から苦情はほとんどなかったことがわかる。

12 オンライン授業はストレスになった

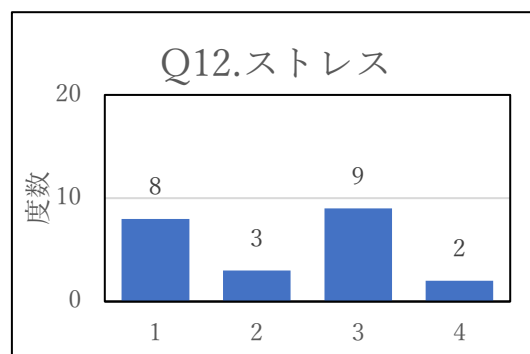


図 2.3.27 オンライン授業におけるストレス

12「オンライン授業はストレスになった」については、「ややあてはまる」9名、「あてはまる」2名であった。ストレスの要因としては、主に次の2点が挙げられた。

- ・パソコン操作については、短期間でパソコンやアプリの使用を習得するとともに、生徒の機器操作についての対応も求められたためストレスに感じたと答えている。
- ・授業については、授業中の生徒たちの意欲や空気感がわからないことや、対話が十分でないためつぶやきをひろえないことが述べられた。さらに、学習内容の習熟や理解度もわかりにくいことが挙げられた。

13 オンライン授業は必要である

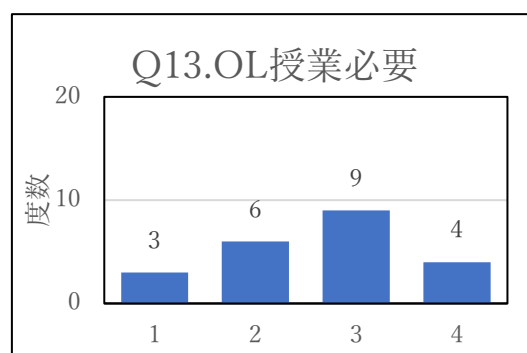


図 2.3.28 オンライン授業の必要性

13「オンライン授業は必要である」については、「あてはまる」4名、「ややあてはまる」9名であった。肯定的に答えた理由として、オンライン授業は緊急時や不登校等で登校が厳しい状況の場合は、学びを止めないために必要であるとの意見が多かった。

- 14 オンライン授業の企画・設計のために工夫したことは何ですか？ またその際の留意点は何ですか？

主な工夫点

- ・2つのPCの活用
- ・授業構成（授業の最後にノートをまとめる）
- ・授業時間の内容に軽重をつける
- ・ネットを活用した調査で、意見や考えを集約するためのワークシートの形式や発問を工夫した。
- ・生徒の発言を生かした授業展開

主な留意点

- ・1日のオンライン授業実施時間
- ・各担当教科での情報共有
- ・オンライン授業の際の見やすさ、伝わりやすさ

- 15 オンライン授業を行う上で、知っておかなければならない知識は何だと思いますか？

主な回答

- ・パソコンやソフトの活用方法
- ・画面の先に誰がいるのかを想像すること。
- ・児童生徒のプライベートが移されないように工夫すること（背景をそろえる等）
- ・受講者は予想以上に身体的ダメージがあること。

- 16 オンライン授業中、児童・生徒とのコミュニケーションで工夫した点、留意点

主な工夫点・留意点

- ・挙手機能やアンケート機能を活用した。
- ・ハンドサインやうなずきなどのジェスチャーを活用して反応すること
- ・「Yes」「No」カードを作成させて意思表示をさせた。
- ・説明等の話すときには、ゆっくり、画面の先の子どもたちを見ながら話した。
- ・授業開始前に入室してきた生徒と雑談をした。

17 オンライン授業中、児童・生徒の学習成果に対するフィードバックで工夫点、留意点

主な工夫点

- ・ Classroom の機能を使用して授業最後に 3～5 問のテスト
- ・ 対面授業開始後に確認テスト
- ・ 授業後にアンケートの実施

18 オンライン授業中、児童・生徒に学習内容を分かりやすく伝えるための工夫点、留意点

主な工夫点・留意点

- ・ 学習目的や内容を明確化
- ・ プレゼンテーション・黒板・ホワイトボード・紙などの道具を活用
- ・ ワークシート等の資料も工夫
- ・ Classroom のストリームに掲載
- ・ Meet に入り質問できる

19 オンライン授業時の学習評価を行う際の工夫点、留意点

主な工夫点・留意点

- ・ その時間のまとめを Forms で入力させるなど、記録を残すことを心がけた。
- ・ 通常登校した際に、ノートの点検
- ・ 登校再開後に、オンライン授業の内容の定着を確認し、補充学習を行った。
- ・ 振り返りシートの記入を通常授業と同じように行った。

(4) まとめと課題

教員対象のアンケート結果から、オンライン授業についての成果と課題は小学校・中学校で概ね同様の傾向が見られた。成果としては、授業のねらいを達成できたこと、実施可能な教科（内容）があること、保護者からの苦情が少なかったことである。課題としては、実施が不向きな教科（内容）があること、ペアやグループ活動などの学習形態が実施困難であることである。一方、小学校と中学校で異なる項目が2点あった。チャット機能の活用と保護者からの質問についての項目である。この結果の要因としては、

発達段階の違いが影響していると考えられる。チャット機能は文字入力を中心となるため、小学校低学年では活用する機会は減少することが予想される。また、保護者からの質問についての項目も、小学校段階ではオンライン授業の際に、保護者の協力が特に必要となる。その結果、保護者からの質問が多くなったと考える。また、自由記述の中で、多くの教員がオンライン授業の必要性を述べていた。その理由として、オンライン授業はコロナ禍だけでなく、様々な理由で登校できない生徒への支援の方法として有効であると実感したことが推察できる。さらに、今後のオンライン授業実施に向けて、教員はICT活用能力を向上させ、PC機器操作等について理解を深めていくことの必要性を強く感じていることがわかった。

2. 4. 教育実習生対象調査について

倉田 伸

2. 4. 1. 調査概要・方法

教育実習中にオンライン授業を見て学んだ内容を整理することを目的とした自由記述式のアンケート調査を行った。調査対象者は、教育実習中にオンライン学習を参観した長崎大学教育学部の大学生であり、小学校教育コースと中学校教育コースの学生を対象とした。つまり、長崎大学教育学部附属小学校および中学校の教育実習生である。アンケート調査方法は Google Form を用いたテキスト入力である。アンケート項目は「オンライン授業が行われている実際の場面を見て学んだことは何ですか。思いつく限り教えてください。」とした。アンケートの分析方法は、アンケート調査で得られたテキストデータから教育実習中にオンライン授業を見て学んだことの分類である。分類方法は定性的コーディング (佐藤 2008) を採用し、オンライン授業を専門分野とする長崎大学教育学部の研究者 2 名が共同で行い、意見が異なった場合は協議で決定した。定性的コーディングの流れは、まずテキストデータからオンライン授業を見て学んだことを記述した内容を抜き出し、コード名をつけることで整理した。

2. 4. 2. 調査結果

教育実習中にオンライン授業を見て学んだことを表 2.4.1 に示す。まず、アンケート調査を実施した結果、小学校教育コースの大学生 98 名、中学校教育コースの大学生 73 名、合計 171 名からの回答を得た。回答内容を分析した結果、オンライン授業を見て学んだ内容を大きく 3 つに分類 (大カテゴリ) でき、さらに分類した各内容の下位項目として分類 (小カテゴリ) した。分類できた大カテゴリは【具体的な工夫】、【実際の様子】、【重要なこと】である。【具体的な工夫】は、オンライン学習を行なった教師が実際に行った活動を見て、その具体的な工夫や手立てについての学びである。【実際の様子】は、オンライン授業を実際に見ることで、オンライン学習というものの全体像や特徴を知るといった学びである。【重要なこと】は、オンライン授業の体験から留意点や勘所 (ポイント) に気づくといった学びである。

2. 4. 2. 1. 【具体的な工夫】への分析結果

【具体的な工夫】の下位項目である小カテゴリは、【機器やツールの工夫】、【教材提示方法の工夫】、【授業進行の工夫】、【対話の工夫】、【板書の工夫】の 5 つに分類できた。【機器やツールの工夫】は、オンライン授業で用いた ICT 機器やアプリケーションなどのツールを活用する際の工夫に関する学びであり、11 件見られた。その中で、「発言の場ではミュートの設定などを徹底させること(ハウリングなどが起こってしまう)」や「グーグルフォームを使うと一気に解答、集計、グラフまでできて楽に見ることが出来

ていた」のようなツールの効果的な使い方が参考になったという意見、「黒板の文字が画面上でも見えるように PC 等の設置の工夫について」のような ICT 機器のセッティング方法が参考になったという意見、「音声や映像トラブルが起きてしまうのでその対処法」のようなトラブルシューティングへの対応方法が参考になったという意見などがあった。

【教材提示方法の工夫】は、遠隔地にいる子どもたちに教材を提示する際の工夫に関する学びであり、5件見られた。その中で、「子どもたちが分かりやすいように、見やすい教材だったり、大きさの工夫をする」のような教材の作り方が参考になったという意見、「文カードや写真の出し方などを工夫することができる」のような効果的な教材提示方法が参考になったという意見、「ジェスチャーや紙を用いた方法がよい」のような音声以外の多様な情報提示方法が参考になったという意見などがあった。なお、この学びは小学校教育コースの学生のみからの意見であった。

【授業進行の工夫】は、授業をスムーズに進めていくための工夫に関する学びであり、15件見られた。その中で、「子どもの手元が見えない状況なので、各児童に細かく進度や理解度の確認をしていた」や「『話してもいいですか』というカードを見せることでスムーズに展開していた」のような教師の細かな配慮が参考になったという意見、「授業時間の5分前にはグーグルミートをつなげておくこと」、「事前に授業の内容をPDFで知らせておくことによって、授業の進行をスムーズにしていること」のような授業をうまく進行させるための事前準備が参考になったという意見などがあった。

【対話の工夫】は、子どもたちへの教師の言葉かけの工夫に関する学びであり、13件見られた。その中で、「生徒に届くようにいつもより声のトーンを高くしたり明るくしたりという工夫や、対面の時よりも一人一人と対話ができるような工夫をされていた」のような教師の話し方が参考になったという意見、「教師はオンラインの環境でもしっかりと子どもたちに伝えるために身振りや話し方の工夫をしていたということ」や「子ども達の名前を呼んでいた」のような教師の伝え方が参考になったという意見などがあった。

【板書の工夫】は、オンライン授業における黒板の使い方に関する学びであり、12件見られた。その中で、「板書は中心の方にカメラに映るように書く」や「黒板の文字を通常よりも大きく書く」のような板書の書き方が参考になったという意見、「一度文カードをパソコン上で提示してから貼るなどといった工夫」や「ホワイトボードや教材を効果的に使うこと」のような黒板を使った情報提示の工夫が参考になったという意見などがあった。

これらより、教育実習生は、オンライン授業を参観することで教師がおこなっている様々な工夫を知り、具体的な手立てを理解することができていたと言える。

2. 4. 2. 2. 【実際の様子】への分析結果

【実際の様子】の下位項目である小カテゴリは、【相性】、【機器やツールの特徴】、【子

どもの学習状況】、【実現可能性】、【見取りの困難さ】、【対話の制限】の6つに分類できた。

【相性】は、オンライン授業への適応・不適応なことに気づく学びであり、10件見られた。その中で、「子供達が低学年ということもあり、各々喋るため全体の統率はオンラインでは難しいと感じた」のような子どもの発達の段階に応じて適応・不適応があると考えた意見、「音楽の授業をオンラインでおこなうことは難しいということ」のような教科の違いによって適応・不適応があると考えた意見などがあつた。なお、子どもの発達の段階における相性についての意見は4件であり、その全てが小学校教育コースの学生であつた。

【機器やツールの特徴】は、オンライン授業に用いるICT機器やツールに関する特徴に気づく学びであり、11件見られた。その中で、「PCが1つの授業に3台必要でした」のような機器の準備に関する意見、「全学年が一斉にオンライン授業などに接続するため、接続の不具合が起き、授業が中断してしまうことがあつた」や「ハウリングなどが多く起こってしまった」のような機器やツールのトラブル状況に関する意見などがあつた。

【子どもの学習状況】は、オンライン授業を受けている子どもたちの様子に気づく学びであり、20件見られた。その中で、「オンラインでも実際の対面でも子どもたちの授業中の発問に対するアクションは変わらなかったということ」のような子どもの学びの本質は変わらないと感じた意見や、「1人の子がどうしたらいいか困っていた時に他の子たちが画面を共有して教えたり、声で指示をしたりして自分たちで助け合って解決していることが素晴らしいと思いました」のようなオンライン授業の中であつても子どもたちがお互いに学び合う姿を見たという意見などがあつた。

【実現可能性】は、オンライン授業の可能性または実施の困難さに関する気づきを得る学びであり、8件見られた。その中で、「一年生の子どもでも、オンライン学習をうまく行うことができる」や「遠隔でも、ハプニングを除けばある程度は授業が成立すること」、「同じように複式でもオンライン授業が行えること」のようなオンライン授業はなんとか実施できそうだと実現可能性の高さと感じた意見、一方、「保護者の協力が必要であるため、容易に行いにくい授業形態だと感じた」のようなオンライン授業の実施は困難であると実現可能性の低さを感じた意見などがあつた。なお、この学びは小学校教育コースの学生のみからの意見であつた。

【見取りの困難さ】は、オンライン授業を受ける子どもたちの学習状況を教師が見取る難しさに関する気づきを得る学びであり、26件見られた。その中で、「子どもたち1人1人の様子がなかなか観察できない」や「対面の授業に比べて、ペースが遅くなり、児童の顔やつぶやきを見ながら授業を行うことの難しさ」、「手元が見えないので、生徒がちゃんと課題に取り組んでいるのか分からない」のような子どもの学習状況を見取ることが対面と比べて難しいという意見があつた。

【対話の制限】は、教師と子どもの対話に一定の制限がある気づきを得る学びであり、14件見られた。その中で、「子どもの顔を全員一度にみることが難しく、反応もないので、展開が教師主体になりやすい」のような子どもたちと対話しながらリズムよく授業を進めていくことへの困難さを感じた意見、「子どもたちとのコミュニケーションが頷きや挙手でしかできない場面が多く、わかりにくそうであった」のような子どものリアクションを見ながら授業を進めていくことへの困難さを感じた意見などがあった。

これらより、教育実習生は、オンライン授業を参観することでオンライン授業の全体像をイメージすることができ、オンライン授業の特徴を自分なりに見出すことができていたと言える。

2. 4. 2. 3. 【重要なこと】への分析結果

【重要なこと】の下位項目である小カテゴリは、【ICTスキル】、【教師の支援】、【準備・計画】、【フィードバック】、【ルール】の5つに分類できた。

【ICTスキル】は、ICT機器やツールを扱えるスキルの重要性に気づいた学びであり、2件見られた。その中で、「予期せぬハプニングが起こる（回線の問題で）。それに急遽対応する必要があること」や「これから機械（ICT）について学ばなければならないと感じた」のようなオンライン授業を進めていく上でのICT機器を活用できるスキルの重要性を感じた意見があった。

【教師の支援】は、オンライン授業を行う教師の振る舞いの重要性に気づいた学びであり、13件見られた。その中で、「学校にいる子と家庭にいる子の両方に目を配り、発言の機会を与えることの大切さ」や「実際に対面で授業を行う時よりも、子どもたちの理解が追い付いているかの確認をこまめに行う必要があるということ」のようなオンライン授業の最中において対面の授業とは異なる教師の振る舞いが重要であると考えた意見があった。

【準備・計画】は、オンライン授業を実際に行う前段階の準備・企画の重要性に気づいた学びであり、7件見られた。その中で、「板書計画等、子どもたちに視覚的にわかりやすい情報を準備することが大切だと感じた」のような視覚的な教材を準備することの重要であると考えた意見、「オンライン授業だと、画角が限られ、使える黒板が少なかったため、そのスペースをどううまく使うかの計画が大切であると学んだ」のようなオンライン授業において対面と授業とは異なる板書計画が重要であると考えた意見があった。

【フィードバック】は、子どもたちからのフィードバック情報の重要性に気づいた学びであり、5件見られた。「生徒の表情が思っているよりも見やすく、その表情がリアクションとして大きな意味を持つということ」や「生徒の反応を大きくしてもらうことで授業を進めていく必要がある」のような子どものリアクションや反応がオンライン授業において重要な情報であると考えた意見があった。なお、なお、この学びは中学校教

育コースの学生のみからの意見であった。

【ルール】は、オンライン授業を成立させるためのルールの重要性に気づいた学びであり、7件見られた。その中で、「オンライン授業ならではのルールを設定し徹底することの重要性」や「チャットの使い方については注意する必要があると感じた」のようなオンライン授業を行う際のルール作りは対面の授業以上に気をつける必要があると考えた意見があった。

これらより、教育実習生は、オンライン授業を参観する中でオンライン授業を成功させる上で重要なことを自分なりに見出すことができていると言える。

3. 考察

以上より、教育実習中にオンライン授業を見た大学生は、【具体的な工夫】、【実際の様子】、【重要なこと】の3つの視点から学ぶことが示唆された。そして、【具体的な工夫】の【教材提示方法の工夫】と【実際の様子】の【実現可能性】は小学校教育コースの学生のみであり、【重要なこと】の【フィードバック】は中学校教育コースの学生のみであったという事実があるが、全体的には小学校・中学校ともに同様の学びが教育実習生に起こっていたと考えられる。ただし、オンライン授業の内容などに対する意図や考え方が、担当した教師と教育実習生とで食い違う可能性もある。よって、オンライン授業後などにおいて、教師と教育実習生の考え方の比較や議論が必要不可欠であると考えられるため、そのような時間を設けることは必須であると言える。将来の展望としては、オンライン学習における学習ログなどのデータを分析することによる省察などをおして、オンライン授業の改善を継続的に行なっていくことが求められる。

表 2.4.1 教育実習中にオンライン授業を見て学んだこと

大カテゴリ	小カテゴリ	内容
具体的な工夫	機器やツールの工夫	オンライン授業で用いた ICT 機器やツールを活用する際の工夫に関する学び
	教材提示方法の工夫	遠隔地にいる子どもたちに教材を提示する際の工夫に関する学び ※小のみ
	授業進行の工夫	オンライン授業をスムーズに進めていくための工夫に関する学び
	対話の工夫	子どもたちへの教師の言葉かけの工夫に関する学び
	板書の工夫	オンライン授業における黒板の使い方に関する学び
実際の様子	相性	オンライン授業への適応不応なことに気づく学び ※小のみ
	機器やツールの特徴	オンライン授業に用いる ICT 機器やツールに関する特徴に気づく学び
	子供の学習状況	オンライン授業を受けている子どもたちの様子に気づく学び
	実現可能性	オンライン授業の可能性または実施の困難さに関する気づき ※小のみ
	見取りの困難さ	オンライン授業を受ける子どもの学習状況を教師が見取る難しさに関する気づきを得る学び
	対話の制限	教師と子どもの対話に制限に気づいた学び
重要なこと	ICT スキル	ICT 機器やツールを扱えるスキルの重要性に気づいた学び
	教師の支援	オンライン授業を行う教師の振る舞いの重要性に気づいた学び
	準備・計画	オンライン授業を実際に行う前段階の準備・企画の重要性に気づいた学び
	フィードバック	子どもたちからのフィードバック情報の重要性に気づいた学び ※中のみ
	ルール	オンライン授業を成立させるためのルールの重要性に気づいた学び

※小のみ：小学校教育コース学生のみに見られた回答

※中のみ：中学校教育コース学生のみに見られた回答

2. 5. 学校管理職等対象調査（インタビュー調査）について

—教師はオンライン授業をいかに受け止め、対応したか—

畑中 大路

1. 本稿の目的

近年の学校では、社会状況の変化や教育制度改革の影響を受け、早急な「外生的変革」⁽¹⁾（佐古 1992）を迫られる状況が増加している。新型コロナウイルス感染拡大に伴う学校経営・教育実践の変更はその最たるものと言え、その意味で、長崎大学長の指示を受けオンライン授業を実施することとなった今般の長崎大学教育学部附属小学校および長崎大学教育学部附属中学校（以下、附属小、附属中と略記）の対応もその一つとして捉えることができよう。そこで本稿では、早急な「外生的変革」を求められた附属小・附属中におけるオンライン授業を、教師はいかに受け止め対応したのか記録し、その要点を考察する。

2. オンライン授業実施過程

（1）オンライン授業に関するプロセスの概要

オンライン授業の実施検討は、長崎大学長から学部長への指示により始まった。当初の指示は「夏休み明け4週間のオンライン授業実施」であったが、学部長・附属校園長等が「9月1日（水）から9月6日（月）までのオンライン授業実施」という修正案を提示し、専門家会議は当該修正案を追認する。その後、附属小・附属中では8月31日（火）までの約1週間で準備が進められ、9月7日（火）学校再開までオンライン授業が実施されこととなった（表1）。

表1 オンライン授業実施に関するプロセスの概要

日時	内容
8/20（金）午前	学長から学部長へ「4週間のオンライン授業実施」指示
8/20（金）13:00頃	学部長・附属校園長等の協議
8/22（日）	学部長から学長へ「9月1日（水）から9月6日（月）までのオンライン授業実施」修正案の提示
8/23（月）13:00頃	専門家会議にて「9月1日（水）から9月6日（月）までのオンライン授業実施。ただし新型コロナウイルス感染状況次第では延長の可能性あり。延長判断は9月6日（月）専門家会議にて判断する」ことが決定。
8/23（月）～31（火）	オンライン授業実施へ向けた準備
8/25（水）	長崎県へ「まん延防止等重点措置」適用（8/27（金）～9/12（日））
8/30（月）午前	附属中：実力テスト（1日目）を日程変更して実施

(1) 「学校外から学校に持ち込まれた変革」（佐古 1992 : 51）を指す。

8/31 (火) 午前	附属中：実力テスト（2日目）を日程変更して実施 生徒へのオンライン授業に関する操作説明 附属小：児童へのオンライン授業に関する操作説明
9/1 (水)	・オンライン授業開始 ・学部長・附属校園長等による9月7日（火）からの学校再開に関する協議開始
9/6 (月) 13:00 頃	「9月7日（火）より附属中は再開、附属小はまん延防止期間中は、新たな濃厚接触者が出た場合は速やかな学級閉鎖を実施することを条件に昼までの再開を認める」ことが決定。
9/7 (火)	学校再開

(2) Case 1：附属小学校

表1に示した一連の流れを附属小の教師はいかに受け止め対応したのか。本調査では表2の調査協力者へインタビュー調査を実施した。調査は2021年10月19日～11月18日の間に実施し、インタビューは各15～25分程度、「オンライン授業をいかに受け止め、いかに対応したか」を主質問とする半構造化形式で行った。

表2 附属小調査協力者

調査協力者	教職経験年数・着任年数・職位等・調査日時	調査協力者	教職経験年数・着任年数・職位等・調査日時
A 校長	31年目・1年目・校長・10/19	G 教諭	20年目・9年目・1年主任・11/4
B 教頭	22年目・14年目・教頭・10/28	H 教諭	10年目・4年目・理科専科・11/18
C 主幹教諭	19年目・12年目・主幹教諭・10/28	I 教諭	6年目・3年目・音楽専科・11/18
D 教諭	19年目・9年目・教務主任	J 教諭	4年目・1年目・1年担任・11/18
E 教諭	17年目・9年目・6年主任/GIGAスクール担当・10/28	K 教諭	9年目・4年目・1年担任・11/18
F 教諭	17年目・11年目・2年主任/GIGAスクール担当・11/4		

1) 管理職等の受け止め

附属小 A 校長へオンライン授業に関する第一報が入ったのは8月20日（金）であった。A 校長は学部長・附属校園長等との協議後、B 教頭・C 主幹教諭・D 教諭と情報共有の場を設け、今後の見通しを確認した。B 教頭、C 主幹教諭、D 教諭は比較的前向きにこの情報を受け取る。

A 校長：私はいつも、教頭、主幹（教諭）、教務主任の3人の意見を私の決定の材料として

います。やっぱり、一人で考えると、一面的なものしか見えないことがあるので。可能性として何が問題なのかとか、そういうのをいつも言ってもらうんですよね。今回も20日の時点で共有しました。そういう要望が来ているということ。

B 教頭：「ついに来たか」と思いました。附属の使命を考えるならば、附属が先陣切って実施して、おこがましい考えかもしれませんが、その実践を県下に発信できれば、なおいいだろうなって思っていたので。「ついに来たか」と。腹をくくる時が来たかと思いたね。

C 主幹教諭：(A 校長から話を聞いた時点で) 具体的に、誰をどう動かそうかなって考えていました。GIGA スクール担当⁽²⁾ の E 教諭、F 教諭が鍵になるだろうと。F 教諭は業者との打ち合わせや色々な設定といった全般に長けている。E 教諭は、授業で色々な機能を使いこなすことができる。だから、全般の、例えば、メールを設定しないといけないとか、パソコンをどう使うといった決まりづくりに関しては F 教諭だろう。授業の流し方とか、具体的に有効な方法を検討するにあたっては E 教諭。

D 教諭 (教務主任)：悪い印象はなかったですね。抵抗はなかったです。去年の緊急事態宣言後にすぐ動いている市町村とか学校とかありましたし。どちらかという、附属小はちょっと遅れてたのかな、という思いが少し自分の中でもあったので。「よし、やるか」という感じで、好印象では私の中ではありましたね。担任でなかったというのものもあるかもしれませんが。

そして、8月23日(月) 専門家会議におけるオンライン授業の実施決定後、教務主任 D 教諭・C 主幹教諭を中心とし、各学年主任との協議を経ながら、オンライン授業期間中の時間割作成検討が進められた。

2) 実践層の受け止め

上記語りより、A 校長をはじめとする管理職等はオンライン授業を好意的に受け止めたことがわかるが、実際にオンライン授業を実施するのは学級担任等の実践層である。実践層の教師はオンライン授業をいかに受け止め、対応したのであろうか。

G 教諭 (1 年主任)：オンライン授業に対しては、複雑な気持ちというか。一つは、心配ですね。1 年生担当なので、1 年生がオンライン授業をできるのかどうか。子どもたちに、家庭にどうやって伝えればいいのかというのを、自分なりに整理しなければいけないな

(2) 令和3年度から附属小に設置された分掌。

というのが一つ。オンライン授業については、これまでもニュースで見聞きしていましたが。やれていない悔しさとか、「やってみたいな」という思いはありましたので。やるのであれば、自分にどんなことができるのかなという前向きな気持ちとか。入り混じった状態というのが、その当時の気持ちでした。

H 教諭 (理科専科) : 「何をすればいいんだろう」という、不安な面が多かったです。不安だったり心配だったりとか。もちろん、ICT 活用に長けている先生方もいらっしゃると思うんですけど、自分があんまりそういうの得意ではないので、「どうかな」と思いながら。

I 教諭 (音楽専科) : 「オンライン授業をする」という話が来たときは、「音楽もするのかな」、「何ならできるだろう」というのをまず考えました。

K 教諭 (1 年担任) : 自分の場合はイメージできなかった。 「ついに来たか」とは思ったんですけど。それが一番あるんですけど

上記語りから読み取れるように、実践層には、「子ども・保護者に対する説明」や「オンライン授業の展開」という「イメージ共有」に不安を抱いていたことがわかる。

しかし以下に示すように、当該不安は、E 教諭や F 教諭といった実践層の教師自らの牽引と展開によって打開されていく。

F 教諭 (GIGA スクール担当、2 年主任) : 私はチャンスだと思いました。一気に ICT 活用を推し進めることができるなど。授業は、実物のほうが良かったり、実際に顔を合わせる方が、もちろんそれに勝るものはないというのはわかるんですけど、附属小学校の場合は (対面での授業へのこだわりがあるがゆえ) ICT 活用が遅れているなどと思っていました。(中略) 実際に私が主に動いたことが 3 つあって。「保護者向け文書とマニュアルの作成」「ルールの見直し」「Wi-Fi 貸出しのお知らせの作成」です。(準備期間が 1 週間しかなかったため) スピードが必要ですので、GIGA スクール担当である私のほうでたたき台を作って、E 教諭や、管理職の先生方に見ていただいて、一週間で仕上げました。

E 教諭 (GIGA スクール担当、6 年主任) : オンライン授業はいずれやってくることかなとは思っていましたが。そういう時期がコロナで加速したわけですけど、いずれそういうところに向かって GIGA スクール構想も進めていくものだと思っていましたので。心づもりとか、そういうのはありましたし、イメージとか、「こんな風な感じだろうな」という淡い状態ですけど、イメージは持っていました。(中略)

私は今 6 年生ですが、F 教諭の学年 (2 年生) ではどうするとか、学年に応じた展開の仕方をどうするかっていうのは、学年主任と相談して、確認をしていました。

このように GIGA スクール担当の E 教諭・F 教諭によってオンライン授業に関する大枠の「イメージ共有」が図られた。しかし、実際の授業を行うにあたっては更なる具体的な「イメージ共有」が求められる。この点について、例えば 1 学年では、ICT 活用に長けた J 教諭を核としながら、「オンライン授業の展開」に関する「イメージ共有」が図られていった。

K 教諭 (1 年担任) : とにかく話し合いなんですけど、1 学年の 3 人 (G 教諭・J 教諭・K 教諭) で話し合っ。1 年生はそれまで、パソコンを全く触っていないから、どうやって操作を教えるかというのと。そこからオンライン授業という形に持っていくかというのを、とにかく 3 人で話し合っイメージを固めていきました。一応、算数と国語という方向性を決めて、国語を J 教諭、算数を私が、オンライン授業の展開を作っ、それをまたみんなまで共有し合っ。「ここはこうかな」っっていう協議を繰り返して。J 教諭は ICT に強いので、どんな方法が使えるかとか提案してくれました。

J 教諭 (1 年担任) : G 先生と K 先生が、「オンライン授業でこんなことができたらいいいよね」っっていうのをたくさん言っくださっ。自分が知っていることで、「これが使えないかな」と提案してました。アイデアを私はいただいて、こんな形だったらそれが実現できるのかなっという。自分はまだ、学校の実態もよく分かっていませんし、授業のこともまだ不十分なんですけども、(G 教諭・J 教諭が)「こんなことはできるかな」っって聞いてくださっだったので、自分もアイデアを出せたのかなっ。

A 校長 : うまくやっくれました。見事に。本当に、見事としか言えないぐらいやっくれましたね。方向性が決まった後は、このメンバーが自分たちで集まっ (対応してました)。

このように、教師の自律的行動により、「イメージ共有」という課題は払拭されていった。

(3) Case 2：附属中学校

次に、表1に示した一連の流れを附属中の教師はいかに受け止め対応したのかを記述する。本調査では表3の調査協力者へのインタビュー調査を実施した。調査は2021年10月19日～11月19日の間に実施したものであり、インタビューは各15～25分程度、「オンライン授業実施をいかに受け止め、いかに対応したか」を主質問とする半構造化形式で行った。

表3 附属小調査協力者

調査協力者	教職経験年数・着任年数・ 職位等・調査日時	調査協力者	教職経験年数・着任年数・ 職位等・調査日時
L 校長	32年目・6年目・校長・10/19	P 教諭	11年目・3年目・3年担任(家庭)・11/15
M 教頭	25年目・2年目・教頭・11/8	Q 教諭	8年目・1年目・3年担任(数学)・11/15
N 教諭	4年目・1年目・1年担任(技術)/GIGA スクール担当・11/8	R 教諭	30年目・12年目・1年主任(国語)・11/19
O 教諭	14年目・6年目・2年担任(数学)/研究主任/GIGA スクール担当・11/8		

1) 管理職の対応

附属中L校長のもとへオンライン授業の第一報が入ったのは8月20日(金)であった。附属中では当初、8月26日(月)・27日(火)に実力テストを予定していたため、その日程変更を含め早急な対応が求められた。そこでL校長は、学部長・附属校園長等との協議後、M教頭とともに、20日当日に出勤していたO教諭等へ日程変更案等の妥当性を相談した。

L校長：(8月20日は、学校に先生方が) ほぼ来ていないんですね、雨とかコロナで部活は実施していなかったのです。学校にいたのは、O先生と、研究部と、何人か。ちょうど(研究発表会へ向けた) 指導案を添削している時期だったので。それと、生徒指導主事のS先生がいました。O先生とS先生は、運営委員で学校の全体像というのを分かっているし、O先生は、ICT活用を中心となって進めているところがあったので。この二人に教頭先生を交えて、4人で、「こんな風に考えてるんだけどできるかな」って。つまり、夏休みを8月29日まで延長、ここ(8月30日・31日)で実力考査、ここ(9月1日)からオンライン授業。「このスケジュールで何か支障あるか」ということを話して。「できるでしょう」と。

そして、8月23日(月) 専門家会議でのオンライン授業の実施決定後、L校長は職員会議で方針説明を行った。

L 校長：職員会議が25日だったんです、これは当初から決まっていた。夏休みの最終日に職員会議をする。その中で私が最初説明しようと思ったんですね。大きな方針だけ決めて。時間割は、実習も予定されていてすでに決まっていたので、そのままの時間割でいく。オンライン授業だからって変更することはせず。午前中3時間、午後3時間なので、オンライン授業は午前・午後ともに最大2時間まで。オンライン授業に選択した1時間は、画面に向かうのは35分ぐらいまでにしよう、というのを示して、あとは学年で、教科担任と話をしながら学年会をもってくれ、と伝えました。

2) 実践層の受け止め

上記のような過程を経て通知されたオンライン授業に関する情報を、実践層の教師はいかに受け止め対応したのであろうか。

P 教諭 (3年担任、家庭)：「何ができるかな」ってまず思いました。あと、実習も入っていたので、そこの兼ね合いがどうなるのかなとか。でも、何かしなきゃいけないから、何をしようかなとか、ちょっと考えないといけないな、という感じでした。

Q 教諭 (3年担任、数学)：私はちょうど、3年生の2次方程式の基本的な計算のところだったので「画面を共有したりとかして進めるんだろうな」と、なんとなく思ったことと。実習もありましたので、通常、授業1時間で終わるところが、果たして1時間で終わるのかなというところが不安に思いました。

R 教諭 (1年主任、国語)：「いよいよだな」と思いました。私はあんまり、機器を使うのが得意ではないんですね。オンライン授業実施前も、皆さんがされているような (ICT 機器を活用した) 授業展開はなかなかできていなくて。

このように、教師は前向きに受け止めつつも、オンライン授業に対し、附属小教師と同様に「イメージ共有」に対する不安を抱いていたことがわかる。そして、このような実践層が抱く不安へ、GIGA スクール担当⁽³⁾の研究主任 O 教諭や N 教諭は対応する。

O 教諭 (2年副主任、研究主任、GIGA スクール担当、数学)：(8月20日に話を聞いた時点で) ある程度の流れというか、ベースを作らないと、きっと混乱するだろうと思ったので、オンライン授業の「しおり」を作らないといけないなど。最初、たたき台を作って、教頭先生、校長先生に渡して見ていただいて、その後、学年主任に渡して、どんどん

(3) 令和3年度から附属中に設置された分掌。

どん作っていました。「しおり」が先にあったからこそ、「ああしないといけない」「こうしないといけない」という話ができただのかなと。

N 教諭（1年担任、GIGA スクール担当、技術）：職員にどうやって伝えていくかというところは、すごく難しいなと感じました。教職員の中には、ICTが苦手な先生もいらっしゃいますし、得意な先生もいらっしゃる中で、「何を使えるのか」っていうのを、限られた期間の中で具体的にお示しするのがすごく難しいなというのがありました。

まず、色々な授業を見てほしいという願いをして。正直、やってみないとわからないところはたくさんあるので。私の授業も、学年の先生にいっぱい見に来てもらって。見てもらうことで、他の先生がその真似をされて。「よかった」とか、「ここもってこんな感じでできないかな」という感じで聞いてもらうとか。

教頭先生の言葉を借りると、「サポートデスク」みたいなのを学校の中に作って、O先生とか私とかが「こんな感じでしたらどうですか」みたいなのを提案をしたりとか。

M 教頭：基本的には GIGA 担当を中心としたチーム対応ですよ。一人でやるのではなくて、チームでお互いに確認しながらやりましょうと。あと、ミニ研修。職員室で自然発生的に行われていました。一人が「これ、いいよ」と言ったら、「ちょっと集まって聞いてみよう」とかですね。「それ、教えてくれ」とか言いながら、私も入っていくことで巻き込んでいく。みなさん不安だから、「それどうする」「こうやるんだ」とか。私からはいつも、「まずはチャレンジしてみよう」と伝えていました。

オンライン授業へ向けた事前練習であったり、電話でのサポートの段取りについては GIGA 担当が音頭をとってやってくれましたので、私の出る幕なしです。私はひたすら（インターネット環境にない家庭へ配布する WiFi ルーター用の）SIM を契約していました。「1時間の授業で何ギが必要か」ということは把握していたので。どれぐらいの容量が必要だろうという想定もできていました。

このように、M 教頭によるサポートを受けながら、O 教諭・N 教諭を中心とした実践が展開され、「イメージ共有」という不安は払拭されていった。

Q 教諭（3年担任、数学）：他の教科の先生方がされている様子を見ることができたので、真似をしたり、お互い情報共有できたりしたので乗り越えられたのかなと思います。普段から聞き合ってるから、聞きやすくもありません。

P 教諭（3年担任、家庭）：「授業をいつでも見に来ていいよ」、「見においで」とか、そういう雰囲気は前々からできていますし。校長先生、教頭先生も、「お互いに見るのも勉強だよね」と、「失敗してもいい」と、先に声をかけてくださっていたので、見て勉強しな

きゃな、と思いました。校長先生、教頭先生も積極的に見に来られて、「こんなことをしていたよ」って職員会議で伝えてくださっていたりして。そういうお話があったりとかもあったので。「どうしたんですか」とか聞きに行けたりとか。あと、GIGA 担当の先生が優しい方なので、聞きやすい。

R 教諭（1 年主任、国語）：職員同士で「こんなことする」とか、「こんな風にしようと思っている」ということを色々話しながら、「どうすればうまくいくかな」とか。私で言えば、板書はどのくらいの距離だと見えるのかとか、そういうことを技術科の N 先生に相談したりしながら進めていきました。なので、「大変だったな」というよりは、「どうなるかな」というワクワクもありつつ進められたりもしました。

3. 考察

前節で述べた附属小・附属中におけるオンライン授業の受け止めとその対応を踏まえ、オンライン授業という「早急な『外生的変革』への対応」を可能とした要点を考察したい。

附属小・附属中におけるオンライン授業を通じて浮上した課題は、「イメージ共有」というものであった。1 週間というわずかな準備期間でイメージを具体化し、同学年・同教科教師間で共有することは困難を極めたが、この「イメージ共有」という課題を解決する上で有効に作用したのは、「GIGA スクール担当」という今年度設置された分掌組織であった。当該組織がオンライン授業における“プロジェクト・チーム”としての役割を果たしながら、例えば、導入段階における「しおり」作成や自らの実践を通じた周囲への説明等を通じ、教師の「イメージ共有」を促していった。すなわち、教師が経験したことのない「外生的」変革へ早急に対応するためには、「イメージ共有」が重要であること、そしてそれを牽引する組織やキーパーソンの存在が有効であることが読み取れる。

また、今回、約 1 週間というわずかな準備期間でオンライン授業を実現した要点として、GIGA スクール担当・各学年・教師への権限・裁量移譲がなされた事実も大きな意味を持つ。コロナ禍の学校対応に代表されるように、昨今の学校経営においては「短時日のうちに生起する状況変化や課題への対応が求められる」（大野 2020：66）機会が増加しており、それに適したマネジメントスタイルとしての OODA ループ（Richards2004＝原田 2019）への関心が高まっている。この OODA ループにおいても、危機事象への対応時には、現場への権限・裁量移譲が重要であることが指摘されており、本ケースにおける両校長の対応とも合致する。もちろん、単に「任せる」だけでなく随時のサポートが行われていたことも看過できないが、「外生的」変革へ早急に対応するうえでは、実践層、特に前述のプロジェクト・チームやキーパーソンへの権限・裁量移譲が重要であることが看取できる。

そして最後に、当該実践を可能とした要点として、附属小・附属中両校に協働の文化が醸成されていたことも看過できない。学校は個業型組織になりがちとの指摘があるが（佐古 2019）、今回のような「外生的」変革への早急な対応は個人の力のみでは困難であり、教師

間での協働が必須となる。そしてこの協働は、日常的な関係構築によって可能となるものであり、その点、附属小・附属中でオンライン授業が実現した背景には、日常的な授業実践の共有を通じ、教師の協働が組織文化として醸成されていたからであるといえよう。

参考文献

- ・ 大野裕己（2020）「With コロナにおける新しい校内組織運営」篠原清昭・大野裕己編著『With コロナの新しい学校経営様式』ジダイ社、pp.65-80。
- ・ 佐古秀一（1992）「コンピュータ導入と学校の対応に関する組織論的考察—外生的変革に対する学校組織の対応とその規定要因に関する事例研究—」『日本教育経営学会紀要』34、pp.50-63。
- ・ 佐古秀一（2019）『管理職のための学校経営 R-PDCA 内発的な改善力を高めるマネジメントサイクル』明治図書。
- ・ Richards,C.(2004) Certain to Win – The Strategy of John Boyd, Applied to Bussiness.Xlibris（原田勉訳『OODA LOOP なぜ現場で成果をあげる組織は、PDCA ではなく OODA を使うのか？』東洋経済新報社。）

3. オンライン授業に関する附属学校作成資料

3. 1. 附属小学校

1. オンライン授業について（配布文書，メール）
 - ①リモート授業について（メール）
 - ・対象：職員
 - ②オンライン授業について（メール）
 - ・対象：保護者
 - ③オンライン授業 Q&A について（メール）
 - ・対象：保護者
 - ④オンライン授業について（文書）
 - ・対象：保護者
 - ⑤オンライン授業の留意点について（メール）
 - ・対象：保護者
2. オンライン学習
 - ①オンライン学習の方法について
 - ・対象：保護者
 - ②附属小学校『タブレット活用のルール』について
 - ・対象：児童
3. オンライン授業トラブル対応事例集
 - ・対象：職員
4. オンライン学習 学年時間割
 - ・対象：職員，児童
5. オンライン授業についての問い合わせ
 - ・対象：職員
6. オンライン授業実施後の気付き

2. オンライン授業について（配布文書、メール）

①リモート授業について（メール）

【メール「リモート授業について」】

→ 8/20（金）配信

職員の皆様

残暑の候、いかがお過ごしでしょうか。

さて、長崎大学の学長及びコロナ対策医より、8月31日（火）の登校日以降の4週間をリモート授業で実施するよう要請がありました。本日13:00から藤本学部長と4附属校園長が会議をし、長崎県独自の緊急事態宣言が終わる9月6日（月）まで、リモート授業をする方向で検討しました。

正式には、8月23日（月）の長崎大学コロナ対策委員会で決定します。職員の皆様には、14:00以降にメールで連絡します。その後、保護者にも同様の内容をメールでお知らせします。

なお、8月24日（火）の8:20より職員連絡会を開き、詳細についてお伝えします。

どうぞ御理解と御協力の程、よろしくお願ひいたします。

長崎大学教育学部附属小学校
校長 古野祐一

②オンライン授業について（メール）

【メール「オンライン授業について」】

→ 8/23（月）配信

保護者様

残暑の候、いかがお過ごしでしょうか。

県内の新型コロナウイルス感染が拡大しています。そうした現状を受け、長崎大学と協議した結果、長崎県独自の緊急事態宣言が終わる9月6日（月）まで、「オンライン授業」に変更し、登校を控えることにしました。

8月31日（火）の1学期後期開始日は、「オンライン授業」等の説明を行い、個人PCを持ち帰らせるため、午前中までの授業とし、11:50には完全下校とします。

なお、「オンライン授業」に伴いまして、ネット環境が整っていない家庭に対して、「Wi-Fiルーター」をお貸しいたします。ただし、「Wi-Fiルーター」に必要な「SIMカード」につきましては、御家庭での負担とさせていただきます。貸し出しについてのお問い合わせは、教頭（095-819-2271）までお願いいたします。

どうぞ御理解と御協力の程、よろしくお願ひいたします。

【8月31日（火）の登下校等について】

- 登校：通常通りの登校
- 下校：11:50完全下校
 - ※夏休みの作品等は、8月31日（火）に持参するようお願いいたします。
 - ※週報通りの時間割で準備をしてください。
 - ※午前中授業となりますので、弁当は必要ありません。

【9月1日（水）～6日（月）までの「オンライン授業」について】

- 自宅での「オンライン授業」
 - ※仕事やネット環境等の都合で、御家庭での「オンライン授業」ができない場合は、登校して、校内で「オンライン授業」を行うなどの対応を致します。
 - ※「オンライン授業」についてのお問い合わせは、教頭（095-819-2271）までお願いいたします。

長崎大学教育学部附属小学校 校長 古野祐一

③オンライン授業 Q&A について（メール）

【メール「オンライン授業 Q&A について」】

→ 8/24（火）配信

保護者様

平素よりお世話になっております。

オンライン授業について Q&A を作成しましたので、以下について、御確認ください。

Q 1 オンライン授業は何時までですか？

【A 1】 オンライン授業は午前中（8:20～11:40）で終わります。

Q 2 家庭の都合により子どもを学校へ登校させる場合は、何時まで登校し、何をもってくれば良いですか？

【A 2】 通常通り登校させてください。その際、必ず学校への連絡をお願いします。週報に記載されている時間割と個人 PC をもってきてください。オンライン授業が終わり次第、下校となります。お弁当はいりません。

Q 3 午後からは何をすれば良いのですか？

【A 3】 午後の授業は、基本的には自分で選んだ学習をします。自主学习です。8月31日（火）に時間割を作成します。

Q 4 Wi-Fi ルーターは、8月31日（火）より前に借りに伺ってもよろしいですか？

【A 4】 はい、大丈夫です。

Q 5 オンライン授業での服装は制服ですか？

【A 5】 制服でも私服でも構いません。

Q 6 個人 PC は、ランドセルに入れて持って帰りますか？

【A 6】 ランドセルに入れて持って帰りますので、8月31日（火）はランドセルでの登校をお願いします。

何かありましたら教頭（095-819-2271）までお問い合わせください。

長崎大学教育学部附属小学校
校長 古野 祐一

④オンライン授業について（文書）

令和3年8月31日

保護者様

長崎大学教育学部附属小学校
校長 古野 祐一

オンライン授業について

残暑の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から、本校の教育活動に対する御理解と御協力に、心より感謝申し上げます。

さて、本日から1学期後期が開始しました。しかし、県内の新型コロナウイルス感染が拡大しております。そのような現状を受け、長崎大学と協議した結果、長崎県独自の緊急事態宣言が終わる9月6日（月）まで、「オンライン授業」に変更し、登校を控えることにしました。

本日、「オンライン授業」等の説明を行い、個人 PC を持ち帰らせております。それに伴い、「タブレット端末の使い方」「家庭でのルール」を配付しておりますので、御家庭での個人 PC の使い方の御確認をお願いいたします。

なお、「オンライン授業」に伴いまして、ネット環境が整っていない御家庭に対して、「Wi-Fi ルーター」をお貸しいたします。ただし、「Wi-Fi ルーター」に必要な「SIM カード」につきましては、御家庭での負担とさせていただきます。貸し出しについてのお問い合わせは、教頭までお願いいたします。

どうぞ御理解と御協力の程、よろしくお願いいたします。

【9月1日（水）～6日（月）までの「オンライン授業」について】

○ 自宅での「オンライン授業」

※時間割については、本日配付しました週報で御確認ください。

※仕事やネット環境等の都合で、御家庭での「オンライン授業」ができない場合は、登校して、校内で「オンライン授業」を行うなどの対応を致します。学校での対応を御希望される場合は、学校へ御連絡ください。

※「オンライン授業」についてのお問い合わせは、教頭までお願いいたします。

長崎大学教育学部附属小学校
教頭 松永知大
Tel 095-819-2271

⑤オンライン授業の留意点について（メール）

【メール「オンライン授業の留意点について」】

→ [9/2（水）15：00配信](#)

保護者様

平素より本校の教育活動の推進に御支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、オンライン授業2日目が終わりました。画面越しではありますが、子どもたちの元気な表情を見ることができ、大変うれしく思います。

再度、オンライン授業の留意点をお伝えいたします。オンライン授業に決定した意図は、長崎県独自の緊急事態宣言が終わる6日（月）まで「人との接触を避けるため」です。Wi-Fi環境や家庭の都合で、学校でのオンライン授業を受けるお子様がいらっしゃいますが、連絡をせずに登校させたり、友達がいるからという理由で登校させたりすることがないようにお願い申し上げます。

引き続き、保護者の皆様の御理解と御協力の程、よろしくお願いいたします。

長崎大学教育学部附属小学校
校長 古野 祐一

1. オンライン学習
①オンライン学習の方法について

保護者 様

令和3年8月31日(火)

長崎大学教育学部附属小学校
校長 古野 祐一

オンライン学習の方法について

日頃から本校の教育活動に御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。
さて、別途御連絡させていただきましましたとおり、9月1日(水)より新型コロナウイルス感染症防止のためオンライン授業となります。今回、自宅学習の取組の一つとして、試行的に下記の環境を整えました。
つきましては、下記の内容をお確かめの上、御協力をお願いいたします。

記

- 1 目的
「Google Classroom(クラスルーム)(※)」を活用し、自習だけでなく、教員と児童が双方向で学ぶことができるようにする。

(※) ゲーグル社提供のチャット等が行えるグループウェア。本学が独自のドメインを取得し運用しているため、セキュリティが保障されている上、教職員や児童が無償利用可。
- 2 期間 令和3年9月1日(水)～9月6日(月)
- 3 方法
個々に交付されたアカウントを使って、御自宅でChromebookを用いてサインインしてください。その後、各学級のクラスルームに入り、教員より提示された学習に取り組みます。
- 4 その他
・インターネット接続に伴う通信料に関しては、各家庭で御負担いただきますようお願いいたします。
・アカウントの管理やアプリの利用、書き込み等を行う際は、保護者の方の管理下で御対応ください。
・サインイン等の詳しい操作方法は、別添の説明書を御参照ください。
・説明書については、学校HPにPDFデータを掲載しています。
・本日学校において、Google Classroomの初回ログインを行い、ブックマーク登録しています。説明書を御参照の上、クラスルームに参加できることを御確認ください。
・不明な点については、以下の電話番号かメールアドレス宛に御連絡ください。

■問い合わせ先 教頭 松永 知大 Tel: 095-819-2271
情報教育担当 橋元 良太 mail: et20012@giga.edu.nagasaki-u.ac.jp

【重要】




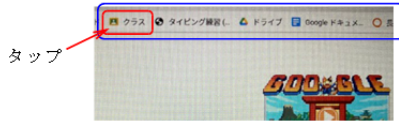

年 組 番 さんの情報
アカウント: e @giga.edu.nagasaki-u.ac.jp
パスワード:

※ Google Classroomへのアクセス・利用方法については、裏面からの説明書を参照ください。
※ この説明書は、個人情報に記載しておりますので、家庭で厳重に保管してください。

- 1 -

Google Classroom 説明書

I Google Classroomへの参加の仕方

- 1 Chromebookの電源を入れる。
- 2 画面右下の扇形のマークをタップして、御家庭のWi-Fi等に接続する。
※注意 Chromebookは、ネットワーク環境が無い場所では使えません。


- 3 自分の名前が表示されていることを確かめて、その下に個人パスワードを入力する。

ここを入力する
- 4 ログインに成功すると自動的にブラウザ(Google Chrome)が起動します。
- 5 ブックマークの中から「クラスルーム」を選択し、学級のクラスルームに入ります。



※2回目以降は、Wi-Fiの設定(2の手順)を行う必要はありません。
※新しい場所でログインをする場合には、必ず、Wi-Fiの設定を行う必要があります。
その時は、電源を入れた後に、2の手順を行ってください。

【補足】

・御家庭のPC(Windows, Mac)やタブレット(iPad)、スマートフォン等でも、Chromeブラウザを利用してログイン、使用することができます。

【自宅学習方法の例(予定)】

- ・教員からの動画配信や、児童同士のビデオ通話による交流学習
- ・投稿機能を利用した課題の提出・交流学習
- ・教員からのインターネット上の資料・動画等の教材の紹介並びに視聴

- 2 -

II クラスルームから meet（ミート）を起動する方法と meet の基本的な使い方

1 クラスルームに入り、ミーートのリンクをタップします。



2 参加するボタンをタップし、ミーティングに参加します。



III クラスルームで資料を閲覧する方法

1 クラスをタップして開きます。

2 授業タブをタップします。

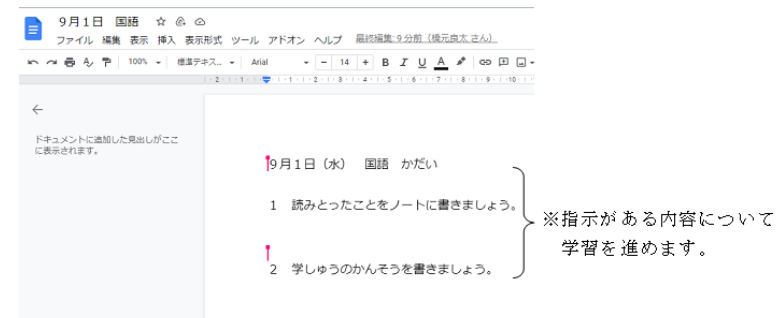


3 資料が届いていることを確認してタップします。

4 届いている資料をタップして開きます。



5 新しいタブで資料が開きます。



②附属小学校『タブレット活用のルール』について

附属小学校『タブレット活用のルール』について

令和3年8月31日（火）

学習内容をよく理解し、より豊かな学びにしていくために、タブレットを上手に活用していくことが大切です。タブレットはみなさんの学習に役立てるための道具です。便利な道具ですが、心配されることもたくさんあります。

そのため、附属小学校では、『タブレット活用のルール』を定めています。このルールを守り、タブレットを「安心・安全・快適」に活用していきましょう。

1 目的

・学校で貸し出すタブレットは、学習活動のために使うことが目的です。学習活動に関わること以外に使ってはいけません。

2 使用する場面

- ・学校と家庭以外では使用しません。
- ・登下校中は、タブレットをかばんから出しません。
- ・使う時間は、午前8時から午後3時までです。
- ・なくしたり、ぬすまれたり、落としてこわしたり、水にぬらしたりしないように十分に気を付けましょう。
- ・もったまま走ったり、地面においたりしません。
- ・カバンの下においたり、カバンの底に入れたりしません。
- ・水をかけたり、しっけの多いところでは使いません。また、日光の下など熱くなる場所にはおきません。
- ・画面には、ゆびでふれたり、専用ペンを使ってふれるようにします。故障の原因になるので、えんぴつやペンでふれたり、落書きしたり、じしゃくを近づけるなどは絶対にしません。

3 学校で使う時のルール

- ・学校でタブレットを使うときは、先生の指示をよく聞きます。
- ・休み時間や放課後に使う時も、先生がみとめたこと以外に使いません。

4 家庭で使うときのルール

- ・長時間使用せず細かく休けいしながら使います。
- ・使用した後は、次使うときまでに、必ず十分に充電をしておきます。

5 保管について

- ・学校での保管は、各教室の充電保管庫に入れます。
- ・家庭で保管するときは、家の人の目の届くところに置いておきます。

6 健康のために

- ・タブレットを使用するときは、正しい姿勢で、画面に近づきすぎないように気を付けます。
- ・30分に一度は遠くの景色を見るなど、ときどき目を休ませます。

7 安全な使用

- ・もしも、あやしいサイトに入ってしまったときには、すぐに画面を閉じ、先生や家族に知らせます。

8 個人情報等

- ・自分のタブレットを他人に貸したり、使わせたりしません。
- ・自分や他人の個人情報（名前や住所、電話番号など）はインターネット上に絶対に上げません。
- ・相手を傷つけたり、いやな思いをさせたりすることを絶対に書き込みません。

9 カメラでの撮影

- ・先生が許可した時以外で、カメラは使いません。
- ・カメラで人や人の物などを撮影するときは、勝手に撮らず、必ず撮影する相手の許可をもらいます。

10 データの保存

- ・学校のタブレットで作ったデータやインターネットから取り込んだデータ（写真や動画など）は、学習活動で先生が許可したもののだけ保存します。

11 設定の変更

- ・先生や修理する人が使いにくくなるので、デスクトップのアイコンの並び方や位置、背景の画像、色などのタブレットの設定は、勝手に変えません。

12 不具合や故障

- ・学校で、タブレット本体やインターネットが使えなくなって、再起動をしても元にもどらないときは、すぐに先生に知らせます。
- ・家庭でこわれたり、なくしたりした時は担任の先生に電話します。

13 使用の制限

- ・附属小学校『タブレット活用のルール』が守れないときは、タブレットを使うことができなくなります。

4. オンライン授業トラブル対応事例集

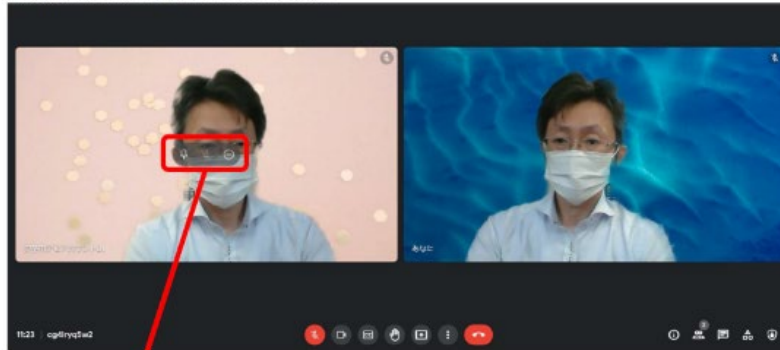
トラブル対応事例集

2021/09/06

目次

①Meet から退出して再参加できない.....	1
②生徒が主催者になることを防ぐ.....	2
1) Meet のリンクを一時的に非表示にする.....	2
2) Meet のリンクをリセットする.....	7
③自分のカメラ（又はマイク）が使用できない.....	9
④Meet の画面が上下に揺れる.....	11
⑤Meet で自分の姿が反対に映る.....	12
⑥音が聞こえない.....	14
⑦モバイルルータ（Aterm MP02LN）使用中に通信が途切れる.....	16
⑧速度が遅い場合（繋がってはいるが画像が乱れる、遅延するなど）の緊急対応.....	17
－参考－.....	18

①Meet から退出して再参加できない



主催者が アイコンから参加者を退出させてしまった場合

この画面が表示されます



再度参加しようとしても下のメッセージが表示されて参加できない場合があります。




※Classroom の投稿もできなくなる場合があるようです。

この場合は、主催者が一度 Meet を終了させて、再度会議を開始することで参加が可能になります。

②生徒が主催者になることを防ぐ

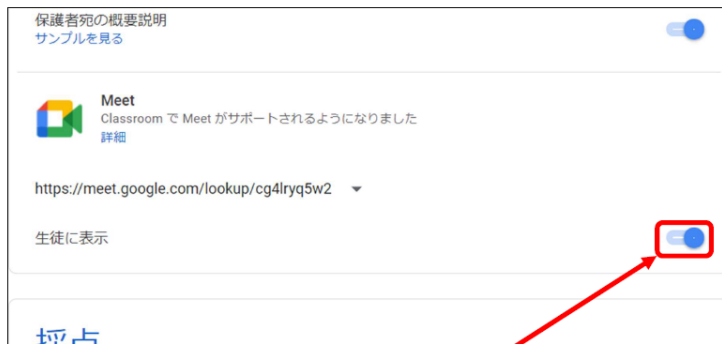
1) Meet のリンクを一時的に非表示にする



Classroom の画面を開き右上の設定アイコン  を押します。



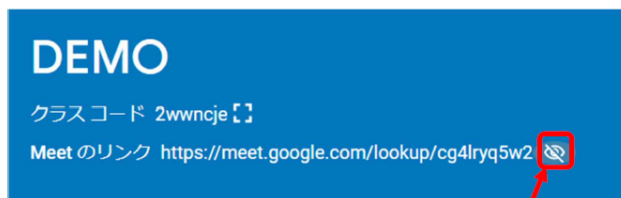
この画面が出ます。
これを下にスクロールします。



Meet の設定の画面上で生徒に表示を OFF にします。



OFF になっていることを確認して「保存」をクリック



生徒側に表示されなくなっている状態です

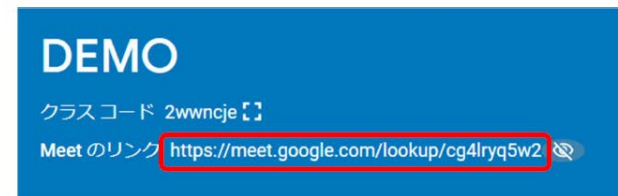
画面を更新するためですので更新キーを押してもらるか生徒に一度画面を消してClassroomを再度立ち上げてもらうと生徒側の画面上でMeetのリンクが消えて入れなくなります。
 ※生徒が前の画面から更新をしていなければMeetのリンクが消えないのでリンクを押して入って来る事ができてしまいます。



更新キー

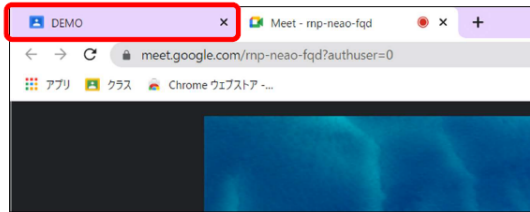


先生側のPCでMeetのリンクをクリックして先に入り主催者になります。






主催者用ボタン  が表示されていることを確認します。



Classroom のタブに戻ります。



画面右上の設定アイコン  を押します。



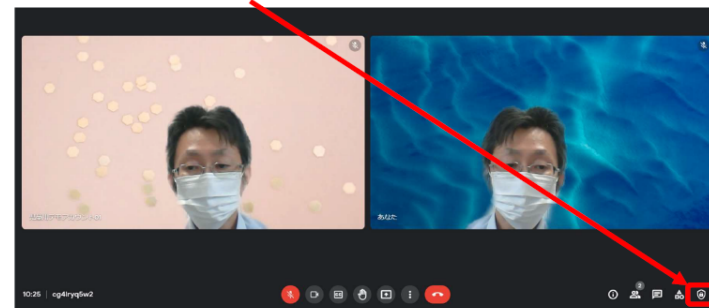
「保存」をクリック

「生徒に表示」をオン

生徒の画面に Meet のリンクが表示され参加が可能になります。



先生側の画面に主催者用ボタンがついています。




※Classroom のリンクを授業以外で表示しないようにすると生徒同士が Meet を行う場合直接 Meet の招待コードで案内をしてもらうことになります。

2) Meetのリンクをリセットする

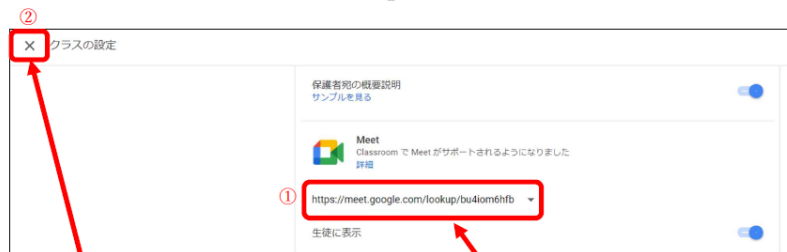
Classroom の



画面右上の設定アイコン  を押します。

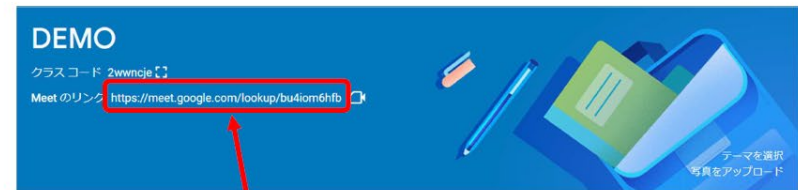


②リセットをクリック

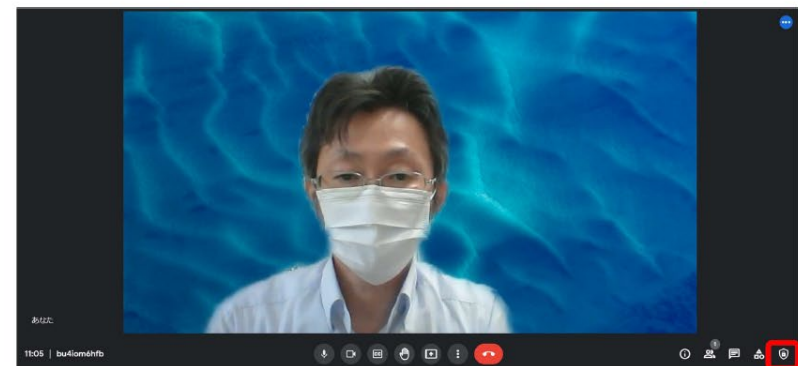


②X印で設定を閉じます。

①Meet のリンク URL が更新されていることを確認します。



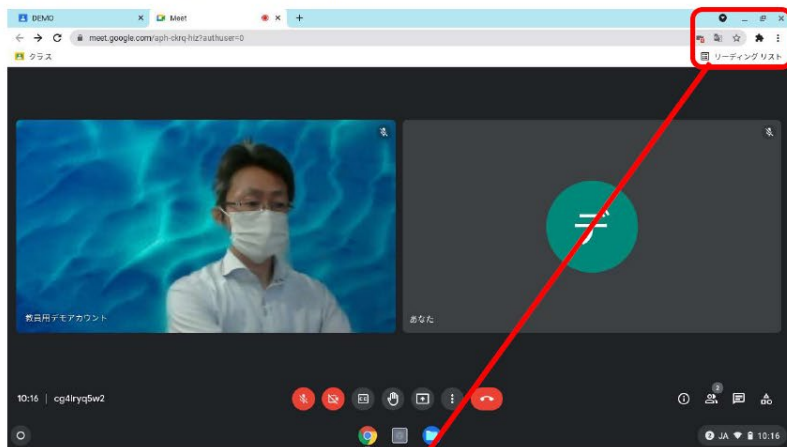
新しいリンクから先生が最初に入ること
で先生が主催者になることができます。



主催者用ボタン

※Meet のリンクが変わったので生徒側の Classroom には以前のリンクが表示されているので更新ボタンを押すか Classroom を開きなおして新しいリンクから入ってもらいます。

③自分のカメラ（又はマイク）が使用できない



画面右上の  アイコンをクリック

拡大




※赤い×印はカメラがブロックされている状態です。

このボタンをクリックします。



「完了」をクリックします。



 アイコン（ビデオとマイクにアクセス）が変わっています。

正しく表示されました（マイクも使用できるようになっています）。



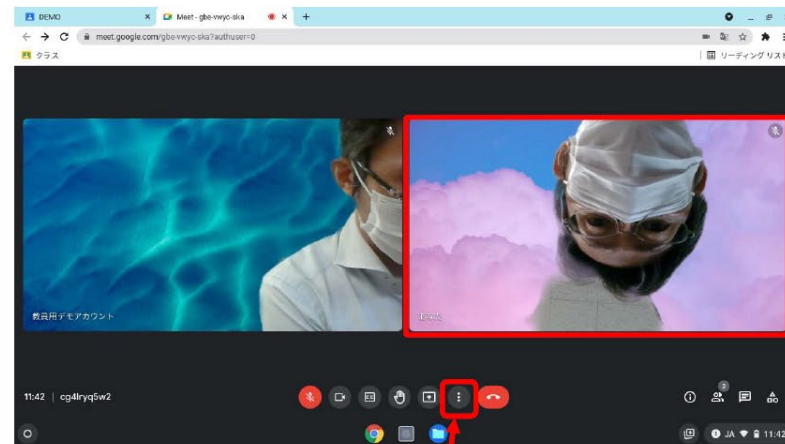
④Meet の画面が上下に揺れる

- ・他のアプリは正常（ハードウェアの問題ではない可能性が高い）
- ・アプリ（Meet）の不具合の可能性が高いと考え、再起動を行っていただき復旧。

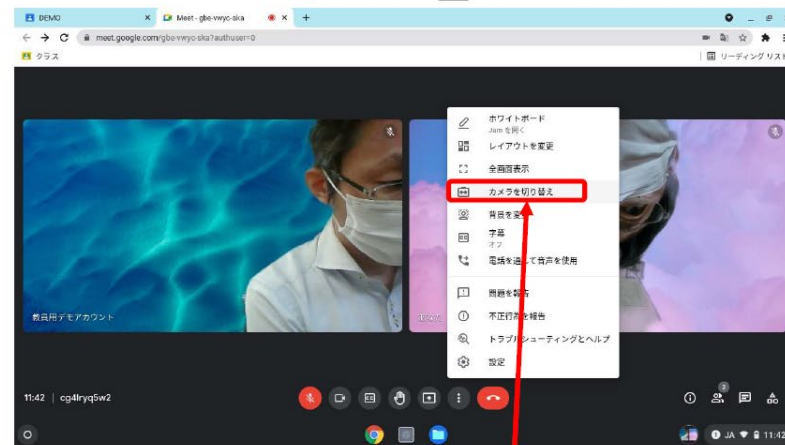
11

⑤Meet で自分の姿が反対に映る

バック（背面）カメラが使用されている可能性が高いのでフロント（前面）カメラに切り替えます。



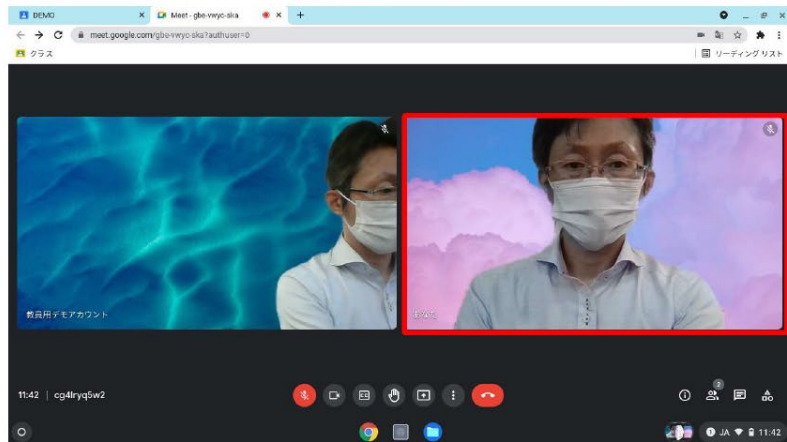
「その他のオプション」 をクリックします。



「カメラの切り替え」をクリックします。

12

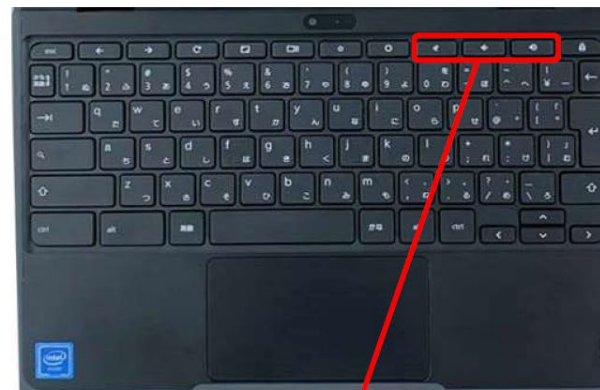
カメラがフロント（前面）に切り替えられました。



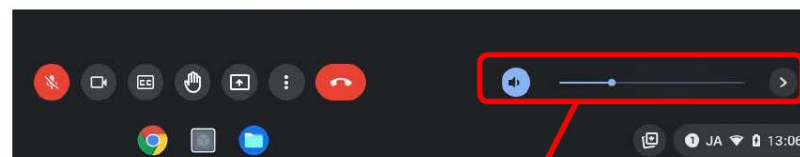
13

⑥音が聞こえない

ミュートの解除



「音量を上げる」キーを押します。

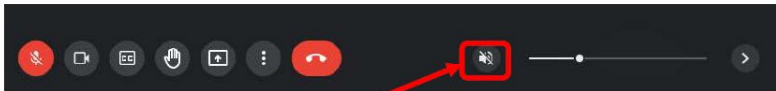
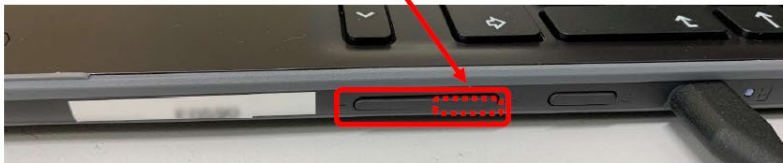


ミュートが解除され画面下部にバーが表示されます。
適切な音量に調節します。

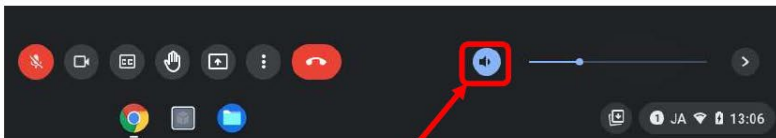
14


※音量調節のキーがわからない場合

PCのサイドにある音量調節ボタンの右（上げる）を押します。



これでミュートが解除されない場合は、 アイコンをクリック又は指でタップします。



 この様なアイコンに変わればミュートは解除されています。適切な音量に調節してください。

⑦モバイルルータ（Aterm MP02LN）使用中に通信が途切れる

●ルータの状態 LTE のマーク（X印ではなく）が付き Wi-Fi が使用可能かどうか？

- ・X印場合→移動して電波が入るか LTE マークが付くか

電源を切って再起動して復旧するか（LTE オート接続機能が作動して自動設定）

初期化（menu で選択、電源ボタンで決定）して復旧するか（使用量もリセットされます）

復旧しない場合 PC を使った手動設定の必要があるため回収を検討

●復旧したが通信が不安定な場合

- ・契約の通信量を使い切っているか、速度制限がかかっている可能性があります。

速度測定サイトにて速度計測します。

（通常の動画視聴の場合は下りで 20Mbps 程度あれば問題ありません。）

●モバイルルータが使用できない場合の緊急対応

携帯電話のテザリング機能を使って接続。（インターネット共有を ON）

テザリングの設定は各社で異なります。

⑧速度が遅い場合（繋がってはいるが画像が乱れる、遅延するなど）の緊急対応
 速度計測サイトで速度が出ていないことを確認（数 Mbps）→参考ページ（P.11）
 全員の解像度を高解像度（720p）から標準解像度（360p）に落としてみる。
 （※現状、未発生ではあります但し参考のため掲載）



—参考—

Google Meet を使用する場合の最小要件

HD 動画（画素数(1280×720)720p）の帯域幅の要件

- ・Google が一般公開している DNS サーバー（8.8.8.8）への ping コマンドのレイテンシは 50 ミリ秒未満である必要があります。
- ・参加者からの送信（上り）信号は、状況を問わず必ず **3.2 mbps** の帯域幅要件を満たしている必要があります。
- ・受信（下り）信号の帯域幅は、参加者数によって異なります。

- 参加者 2 人の場合: 2.6 mbps
- 参加者 5 人の場合: 3.2 mbps
- 参加者 10 人の場合: 4.0 mbps

SD 動画（画素数(720×480)480p）の帯域幅の要件

- ・Google が一般公開している DNS サーバー（8.8.8.8）への ping コマンドのレイテンシは 100 ミリ秒未満である必要があります。
- ・参加者からの送信信号は、状況を問わず必ず **1 mbps** の帯域幅要件を満たしている必要があります。
- ・受信信号の帯域幅は、参加者数によって異なります。

- 参加者 2 人の場合: 1 mbps
- 参加者 5 人の場合: 1.5 mbps
- 参加者 10 人の場合: 2 mbps

※Google Meet ハードウェアヘルプより

YouTube で推奨される持続的な速度

4K	20 Mbps
HD 1080p	5 Mbps
HD 720p	2.5 Mbps
SD 480p	1.1 Mbps
SD 360p	0.7 Mbps

※YouTube ヘルプより

5. オンライン学習 学年時間割

①A組

第17～18週

1・2A

◆ 1学期 第16週(A週)時間割 ◆

日	30日(月)		31日(火)		1日(水)		2日(木)		3日(金)	
学年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
朝の時間										
1			1.まごころまかせしき		こくご(オンライン)		こくご(オンライン)		こくご(オンライン)	
2			かっかつ		せいかつ		せいかつ		せいかつ	
3			かっかつ		まんすう(オンライン)		まんすう(オンライン)		まんすう(オンライン)	
4			かっかつ		じしゅかくしゅう(プリント)		じしゅかくしゅう(ずこう)		じしゅかくしゅう(たいいく)	
5					えらんでがくしゅう		えらんでがくしゅう		えらんでがくしゅう	
6										
行事予定			1.まごころまかせしき		オンライン学習		オンライン学習		オンライン学習	
下校時刻										11:50

◆ 1学期 第17週(B週)時間割 ◆

日	6日(月)		7日(火)		8日(水)		9日(木)		10日(金)	
学年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
朝の時間			かきゅうタイム		ていやく(まんすう)		ていやく(こくご)		ていやく(こくご)	
1	こくご(オンライン)		かっかつ		たいいく(矢野)		こくご		こくご	
2	せいかつ		たいいく(一宮)		こくご		どうとく(原口)		たいいく	
3	まんすう(オンライン)		こくご		かんしょうタイム		まんすう		まんすう	
4	じしゅかくしゅう(おんがく)		まんすう		おんがく		おんがく		こくご(一宮)	
5	えらんでがくしゅう		ずこう(若本)		せいかつ		せいかつ(若本)		せいかつ	
6					まんすう					
行事予定	オンライン学習				作品鑑賞タイム					
下校時刻			14:50 (15:45)		18:10(18:45) 18:10(18:30)		14:25		15:10 (15:45)	

3・4A

◆ 1学期 第16週(A週)時間割 ◆

日	30日(月)		31日(火)		1日(水)		2日(木)		3日(金)	
学年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
朝の時間										
1			1学期後期開始式		国語(オンライン)		社会(オンライン)		算数(オンライン)	
2			学活		理科		算数		国語	
3			学活		算数(オンライン)		国語(オンライン)		社会(オンライン)	
4			学活		国語		音楽		体育	
5					選んで学習		選んで学習		選んで学習	
6										
行事予定			1学期後期開始式		オンライン学習		オンライン学習		オンライン学習	
下校時刻										11:50

◆ 1学期 第17週(B週)時間割 ◆

日	6日(月)		7日(火)		8日(水)		9日(木)		10日(金)	
学年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
朝の時間			学級タイム		定着タイム(算数)		定着タイム(漢字)		定着タイム(漢字)	
1	国語(オンライン)		学活		体位測定		国語		体育	
2	理科		国語		道徳		体育		国語	
3	算数(オンライン)		外国語		算数		書写		算数	
4	音楽		算数		国語		社会		理科	
5	選んで学習		体夢		たいいく		音楽		社会	
6			国語		音楽		算数		体夢	
行事予定	オンライン学習				体位測定		筆習字(中学生1・2校時)		3年作品鑑賞タイム	
下校時刻			14:50 (15:45) 15:30 (16:30)		16:10		15:10		16:10	

◆ 1学期 第16週(A週)時間割 ◆

日	30日(月)		31日(火)		1日(水)		2日(木)		3日(金)	
学年	5年	6年	5年	6年	5年	6年	5年	6年	5年	6年
朝の時間										
1			1学期後期開始式		国語		算数		社会	
2			学活		国語		音楽		理科	
3			学活		算数		社会		国語	
4			学活		理科		体育		音楽	
5					選んで学習		選んで学習		選んで学習	
6										
行事予定			1学期後期開始式		オンライン学習		オンライン学習		オンライン学習	
下校時刻										11:50

◆ 1学期 第17週(B週)時間割 ◆

日	6日(月)		7日(火)		8日(水)		9日(木)		10日(金)	
学年	5年	6年	5年	6年	5年	6年	5年	6年	5年	6年
朝の時間			学級タイム		定着タイム(算数)		定着タイム(漢字)		定着タイム(漢字)	
1	国語		学活		社会		国語		国語	
2	家庭		理科		国語		音楽		家庭	
3	算数		国語		算数		理科		国語	
4	外国語		家庭		外国語		体育		外国語	
5	選んで学習		体育		国語		算数		音楽	
6			国語		国語		国語		社会	
行事予定	オンライン学習		小体金練習開始(改善後)				中島(研修のため不在)		中島(研修のため不在)	
下校時刻			15:50		16:30		16:10		16:30	

5・6A

②第1学年

週報1年生(第17・18週)

1年1組

☆1がっき だい17しゅう(Aしゅう)じかんわり☆

	8月30日(げつ)	31日(か)	9月1日(すい)	2日(もく)	3日(きん)
あそびかん					
1		だいいちまごけかいしき	こくご(オンライン)	こくご(オンライン)	こくご(オンライン)
2		がっかつ	せいかつ	せいかつ	せいかつ
3		がっかつ	さんすう(オンライン)	さんすう(オンライン)	さんすう(オンライン)
4		がっかつ	じよびかく(おん)と	ずごう	たいいく
5			えらんでかくしゅう	えらんでかくしゅう	えらんでかくしゅう
ぎょうじ		だいいちまごけかいしき	オンラインかくしゅう	オンラインかくしゅう	オンラインかくしゅう
げごじく		11:50			

☆1がっき だい18しゅう(Bしゅう)じかんわり☆

	6日(げつ)	7日(か)	8日(すい)	9日(もく)	10日(きん)
あそびかん		じしゅうかいしき	けいさん		こくご
1	こくご(オンライン)	がっかつ	かんじょうタイム	こくご	えいご
2	せいかつ	こくご	たいいく	さんすう	こくご
3	さんすう(オンライン)	さんすう	さんすう	せいかつ	おんがく
4	おんがく	せいかつ	こくご	さんすう	どうとく
5	えらんでかくしゅう	どうとく	せいかつ	しましや	さんすう
ぎょうじ	オンラインかくしゅう	パワーアップタイム	かんじょうタイム		
げごじく		15:00	15:15	14:25	15:15

1年2組

☆1がっき だい17しゅう(Aしゅう)じかんわり☆

	8月30日(げつ)	31日(か)	9月1日(すい)	2日(もく)	3日(きん)
あそびかん					
1		だいいちまごけかいしき	こくご(オンライン)	こくご(オンライン)	こくご(オンライン)
2		がっかつ	せいかつ	せいかつ	せいかつ
3		がっかつ	さんすう(オンライン)	さんすう(オンライン)	さんすう(オンライン)
4		がっかつ	じよびかく(おん)と	ずごう	たいいく
5			えらんでかくしゅう	えらんでかくしゅう	えらんでかくしゅう
ぎょうじ		だいいちまごけかいしき	オンラインかくしゅう	オンラインかくしゅう	オンラインかくしゅう
げごじく		11:50			

☆1がっき だい18しゅう(Bしゅう)じかんわり☆

	6日(げつ)	7日(か)	8日(すい)	9日(もく)	10日(きん)
あそびかん		じしゅうかいしき	けいさん		こくご
1	こくご(オンライン)	がっかつ	こくご	さんすう	さんすう
2	せいかつ	こくご	さんすう	おんがく	がいこくご
3	さんすう(オンライン)	こくご	さんすう	こくご	しましや
4	おんがく	たいいく	かんじょうタイム	さんすう	こくご
5	えらんでかくしゅう	さんすう	どうとく	こくご	どうとく
ぎょうじ	オンラインかくしゅう	パワーアップタイム	かんじょうタイム		
げごじく		15:00	15:15	14:25	15:15

1年3組

☆1がっき だい17しゅう(Aしゅう)じかんわり☆

	8月30日(げつ)	31日(か)	9月1日(すい)	2日(もく)	3日(きん)
あそびかん					
1		だいいちまごけかいしき	こくご(オンライン)	こくご(オンライン)	こくご(オンライン)
2		がっかつ	せいかつ	せいかつ	せいかつ
3		がっかつ	さんすう(オンライン)	さんすう(オンライン)	さんすう(オンライン)
4		がっかつ	じよびかく(おん)と	ずごう	たいいく
5			えらんでかくしゅう	えらんでかくしゅう	えらんでかくしゅう
ぎょうじ		だいいちまごけかいしき	オンラインかくしゅう	オンラインかくしゅう	オンラインかくしゅう
げごじく		11:50			

☆1がっき だい18しゅう(Bしゅう)じかんわり☆

	6日(げつ)	7日(か)	8日(すい)	9日(もく)	10日(きん)
あそびかん		じしゅうかいしき	けいさん		こくご
1	こくご(オンライン)	がっかつ	こくご	こくご	ずごう
2	せいかつ	さんすう	かんじょうタイム	せいかつ	ずごう
3	さんすう(オンライン)	こくご	さんすう	こくご	えいご
4	おんがく	せいかつ	せいかつ	どうとく	おんがく
5	えらんでかくしゅう	こくご	こくご	さんすう	さんすう
ぎょうじ	オンラインかくしゅう	パワーアップタイム	かんじょうタイム		
げごじく		15:00	15:15	14:25	15:15

③第2学年

週報2年生(第16・17週)

2-1

	30日(月)	31日(火)	1日(水)	2日(木)	3日(金)
1		こうきかいししき	国語(オンライン)	国語(オンライン)	国語(オンライン)
2		学かつ	生活	生活	生活
3		学かつ	算数(オンライン)	算数(オンライン)	算数(オンライン)
4		学かつ	プリント	図工	音楽
5			えらんで学習	えらんで学習	えらんで学習
6					
	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
1	国語(オンライン)	えいご	さんすう	図工	道とく
2	生活	さんすう	こくご	図工	音がく
3	算数(オンライン)	体いく	さんすう	体いく	こくご
4	体育	こくご	道とく	さんすう	さんすう
5	えらんで学習	さんすう	さんすう	かんしょうタイム	たいいく
6			生かつ		

2-2

	30日(月)	31日(火)	1日(水)	2日(木)	3日(金)
朝					
1		こうきかいししき	国語(オンライン)	国語(オンライン)	国語(オンライン)
2		学かつ	生活	生活	生活
3		学かつ	算数(オンライン)	算数(オンライン)	算数(オンライン)
4		学かつ	プリント	図工	音楽
5			えらんで学習	えらんで学習	えらんで学習
6					

+

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
朝		実習かいししき	けいさん		こくご
1	国語(オンライン)	音がく	こくご	たいいく	こくご
2	生活	書しゃ	生かつ	かんしょうタイム	さんすう
3	算数(オンライン)	こくご	生かつ	図工	音がく
4	体育	さんすう	道とく	図工	道とく
5	えらんで学習	こくご	こくご	こくご	さんすう
6			さんすう		

2-3

	30日(月)	31日(火)	1日(水)	2日(木)	3日(金)
朝					
1		こうきかいししき	国語(オンライン)	国語(オンライン)	国語(オンライン)
2		学かつ	生活	生活	生活
3		学かつ	算数(オンライン)	算数(オンライン)	算数(オンライン)
4		学かつ	プリント	図工	音楽
5			えらんで学習	えらんで学習	えらんで学習
6					
	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
朝		実習かいししき	けいさん		こくご
1	国語(オンライン)	学活	国語	国語	国語
2	生活	英語	体育	算数	算数
3	算数(オンライン)	書写	算数	生活	生活
4	体育	算数	生活	鑑賞タイム	国語
5	えらんで学習	国語	図工	たいいく	算数
6			図工		

④第3学年

第3学年 時間割

第3学年1組

【A 週時間割 1学期 第15週（8月31日～9月3日）】

	8月30日（月）	31日（火）	9月1日（水）	2日（木）	3日（金）
1		1学期後期開始式	国語（オンライン）	社会（オンライン）	算数（オンライン）
2		学活	理科	算数	国語
3		学活	算数（オンライン）	国語（オンライン）	社会（オンライン）
4		学活	図工	音楽	体育
5			えらんで学習	えらんで学習	えらんで学習
6					

【B 週時間割 1学期 第16週（9月6日～9月10日）】

	6日（月）	7日（火）	8日（水）	9日（木）	10日（金）
1	国語（オンライン）	外国語	体育	国語	理科
2	理科	音楽	算数	道徳	算数
3	算数（オンライン）	学活	音楽	社会	国語
4	音楽	国語	国語	算数	図工
5	えらんで学習	社会	社会	書写	体夢
6			理科	体夢	体夢

第3学年2組

【A 週時間割 1学期 第15週（8月31日～9月3日）】

	8月30日（月）	31日（火）	9月1日（水）	2日（木）	3日（金）
1		1学期後期開始式	国語（オンライン）	社会（オンライン）	算数（オンライン）
2		学活	理科	算数	国語
3		学活	算数（オンライン）	国語（オンライン）	社会（オンライン）
4		学活	図工	音楽	体育
5			えらんで学習	えらんで学習	えらんで学習
6					

【B 週時間割 1学期 第16週（9月6日～9月10日）】

	6日（月）	7日（火）	8日（水）	9日（木）	10日（金）
1	国語（オンライン）	国語	音楽	国語	音楽
2	理科	外国語	国語	算数	社会
3	算数（オンライン）	理科	社会	たのしいく	書写
4	音楽	算数	算数	理科	国語
5	えらんで学習	社会	体育	国語	図工
6			理科	社会	図工

第3学年3組

【A 週時間割 1学期 第15週（8月31日～9月3日）】

	8月30日（月）	31日（火）	9月1日（水）	2日（木）	3日（金）
1		1学期後期開始式	国語（オンライン）	社会（オンライン）	算数（オンライン）
2		学活	理科	算数	国語
3		学活	算数（オンライン）	国語（オンライン）	社会（オンライン）
4		学活	図工	音楽	体育
5			えらんで学習	えらんで学習	えらんで学習
6					

【B 週時間割 1学期 第16週（9月6日～9月10日）】

	6日（月）	7日（火）	8日（水）	9日（木）	10日（金）
1	国語（オンライン）	学活	国語	国語	社会
2	理科	算数	外国語	道徳	音楽
3	算数（オンライン）	国語	国語	社会	体育
4	音楽	社会	理科	たのしいく	書写
5	えらんで学習	体夢	図工	算数	鑑賞タイム
6			図工	外国語	体夢

⑤第4学年

第4学年 時間割

第4学年1組

【A 週時間割 1学期 第15週 (8月31日～9月3日)】

	8月30日(月)	31日(火)	9月1日(水)	2日(木)	3日(金)
朝					
1		1学期後期開始式	国語(オンライン)	社会(オンライン)	算数(オンライン)
2		学活	理科	算数	国語
3		学活	算数(オンライン)	国語(オンライン)	社会(オンライン)
4		学活	図工	音楽	体育
5			選んで学習	選んで学習	選んで学習
6					
行事		1学期後期開始式	オンライン学習	オンライン学習	オンライン学習
下校時刻		11:50			

【B 週時間割 1学期 第16週 (9月6日～9月10日)】

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
朝		教育実習開始式	計算		漢字
1	国語(オンライン)	学活	図工	理科	外国語活動
2	理科	算数	図工	国語	社会
3	算数(オンライン)	たいいく	理科	社会	理科
4	音楽	体位測定	国語	算数	道徳
5	選んで学習	算数	算数	音楽	音楽
6		国語	体育	算数	算数
行事	オンライン学習	教育実習開始式 パワーアップタイム			
下校時刻		14:50(15:45)	16:00(16:30)	15:10	16:00(16:30)

第4学年2組

【A 週時間割 1学期 第15週 (8月31日～9月3日)】

	8月30日(月)	31日(火)	9月1日(水)	2日(木)	3日(金)
朝					
1		1学期後期開始式	国語(オンライン)	社会(オンライン)	算数(オンライン)
2		学活	理科	算数	国語
3		学活	算数(オンライン)	国語(オンライン)	社会(オンライン)
4		学活	図工	音楽	体育
5			選んで学習	選んで学習	選んで学習
6					
行事		1学期後期開始式	オンライン学習	オンライン学習	オンライン学習
下校時刻		11:50			

【B 週時間割 1学期 第16週 (9月6日～9月10日)】

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
朝		教育実習開始式	計算		漢字
1	国語(オンライン)	学活	国語	図工	図工
2	理科	体位測定	音楽	算数	外国語
3	算数(オンライン)	音楽	体育	国語	算数
4	音楽	国語	社会	体育	国語
5	選んで学習	理科	算数	社会	算数
6		社会	学活	体夢	体夢
行事	オンライン学習	教育実習開始式 パワーアップタイム			

下校時刻		14:50(15:45)	16:00(16:30)	15:10	16:00(16:30)
------	--	--------------	--------------	-------	--------------

第4学年3組

【A 週時間割 1学期 第15週 (8月31日～9月3日)】

	8月30日(月)	31日(火)	9月1日(水)	2日(木)	3日(金)
朝					
1		1学期後期開始式	国語(オンライン)	社会(オンライン)	算数(オンライン)
2		学活	理科	算数	国語
3		学活	算数(オンライン)	国語(オンライン)	社会(オンライン)
4		学活	図工	音楽	体育
5			選んで学習	選んで学習	選んで学習
6					
行事		1学期後期開始式	オンライン学習	オンライン学習	オンライン学習
下校時刻		11:50			

【B 週時間割 1学期 第16週 (9月6日～9月10日)】

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
朝		教育実習開始式	計算		漢字
1	国語(オンライン)	学活	国語	国語	算数
2	理科	国語	外国語	算数	国語
3	算数(オンライン)	体位測定	たいいく	音楽	外国語
4	音楽	道徳	算数	図工	道徳
5	選んで学習	算数	理科	理科	国語
6		音楽	社会	国語	図工
行事	オンライン学習	教育実習開始式 パワーアップタイム			
下校時刻		14:50(15:45)	16:00(16:30)	15:10	16:00(16:30)

⑥第5学年

第5学年 時間割

●5年1組 時間割

【A 週時間割 1学期 第16週】

	30日(月)	31日(火)	1日(水)	2日(木)	3日(金)
1	夏季休業日	1学期後期開始式	国語	算数	社会
2		学活	図工	国語	体育
3		学活	算数	社会	国語
4		学活	理科	音楽	理科
5			選んで学習	選んで学習	選んで学習
6					

【B 週時間割 1学期 第17週】

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
1	国語	学活	算数	外国語	国語
2	家庭	算数	国語	道徳	算数
3	算数	家庭	図工	体位測定	家庭
4	外国語	道徳	理科	音楽	家庭
5	選んで学習	国語	道徳	算数	理科
6		社会	社会	国語	社会

●5年2組 時間割

【A 週時間割 1学期 第16週】

	30日(月)	31日(火)	1日(水)	2日(木)	3日(金)
1	夏季休業日	1学期後期開始式	国語	算数	社会
2		学活	図工	国語	体育
3		学活	算数	社会	国語
4		学活	理科	音楽	理科
5			選んで学習	選んで学習	選んで学習
6					

【B 週時間割 1学期 第17週】

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
1	国語	学活	国語	算数	算数
2	家庭	国語	外国語	外国語	国語
3	算数	理科	理科	国語	図工
4	外国語	外国語	算数	体位測定	図工
5	選んで学習	社会	音楽	社会	体育
6		算数	社会	道徳	学活

●5年3組 時間割

【A 週時間割 1学期 第16週】

	30日(月)	31日(火)	1日(水)	2日(木)	3日(金)
1	夏季休業日	1学期後期開始式	国語	算数	社会
2		学活	図工	国語	体育
3		学活	算数	社会	国語
4		学活	理科	音楽	理科
5			選んで学習	選んで学習	選んで学習
6					

【B 週時間割 1学期 第17週】

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
1	国語	学活	社会	国語	国語
2	家庭	算数	算数	体位測定	書写
3	算数	社会	国語	外国語	理科
4	外国語	道徳	社会	算数	算数
5	選んで学習	家庭科	図工	理科	家庭科
6		家庭科	家庭科	社会	音楽

⑦第6学年

第16～17週

6-1

【A:通時間割 1学期 第16週(8月31日～9月3日)】

	8月31日(火)	9月1日(水)	2日(木)	3日(金)
朝				
1	1学期後期開始式	国語(オンライン)	算数(オンライン)	国語(オンライン)
2	学活	社会	理科	社会
3	学活	算数(オンライン)	国語(オンライン)	算数(オンライン)
4	学活	体育	音楽	図工
5		選んで学習	選んで学習	選んで学習
6				
行事	1学期後期開始式	オンライン学習	オンライン学習	オンライン学習
下校時刻 (放校後)	11:50 なし			

【B:通時間割 1学期 第17週(9月6日～9月10日)】

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
朝		主免教育実習開始式	計算		漢字
1	理科(オンライン)	学活	外国語	国語	身体測定
2	外国語	国語	音楽	社会	音楽
3	国語(オンライン)	社会	社会	図工	体育
4	家庭	道徳	体育	図工	国語
5	選んで学習	家庭	国語	算数	算数
6		算数	算数	理科	理科
行事	オンライン学習	パワーアップタイム			身体測定
下校時刻 (放校後)		15:50 16:30	16:10 16:30	15:10 16:30	16:10 16:30

6-2

【A:通時間割 1学期 第16週(8月31日～9月3日)】

	8月31日(火)	9月1日(水)	2日(木)	3日(金)
朝				
1	1学期後期開始式	国語(オンライン)	算数(オンライン)	国語(オンライン)
2	学活	音楽	理科	社会
3	学活	算数(オンライン)	国語(オンライン)	算数(オンライン)
4	学活	体育	外国語	図工
5		選んで学習	選んで学習	選んで学習
6				
行事	1学期後期開始式	オンライン学習	オンライン学習	オンライン学習
下校時刻 (放校後)	11:50 なし			

【B:通時間割 1学期 第17週(9月6日～9月10日)】

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
朝		主免教育実習開始式	計算		漢字
1	社会(オンライン)	学活	図工	算数	家庭科
2	理科	体育	学活(単複)	理科	家庭科
3	国語(オンライン)	国語	算数	体育	身体測定
4	家庭科	理科	外国語	国語	体育(体育館)
5	選んで学習	算数	理科	社会	算数
6		社会	国語	音楽	社会
行事	オンライン学習	パワーアップタイム			身体測定
下校時刻 (放校後)		15:50 16:30	16:10 16:30	15:10 16:30	16:10 16:30

6-3

【A:通時間割 1学期 第16週(8月31日～9月3日)】

	8月31日(火)	9月1日(水)	2日(木)	3日(金)
朝				
1	1学期後期開始式	国語(オンライン)	算数(オンライン)	国語(オンライン)
2	学活	算数(オンライン)	理科	社会
3	学活	社会	国語(オンライン)	算数(オンライン)
4	学活	体育・音楽	外国語	図工
5		選んで学習	選んで学習	選んで学習
6				
行事	1学期後期開始式	オンライン学習	オンライン学習	オンライン学習
下校時刻 (放校後)	11:50 なし			

【B:通時間割 1学期 第17週(9月6日～9月10日)】

	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)
朝		主免教育実習開始式	計算		漢字
1	国語(オンライン)	学活	国語	理科	理科
2	理科	算数	体育	社会	身体測定
3	算数(オンライン)	国語	外国語	国語	国語
4	家庭科	体育	社会	家庭科	算数
5	選んで学習	理科	算数	算数	図工
6		社会	体夢	道徳	図工
行事	オンライン学習	パワーアップタイム			身体測定
下校時刻 (放校後)		15:50 16:30	16:10 16:30	15:10 16:30	16:10 16:30

3. オンライン授業についての問い合わせ

オンライン授業についての問い合わせ

令和3年9月6日時点

Q1 オンライン授業についてお聞きしてもよろしいですか？

A 10名

Q2 家庭の都合で学校でもオンライン授業を受けることはできますか？

A 1年・・・33名

2年・・・16名

3年・・・14名

4年・・・17名

5年・・・6名

6年・・・7名

Q3 家庭の事情で15:00過ぎまで学校で待機することはできませんか？

A 1家庭（2名）

Q4 午後からの授業でもパソコンを使いますか？

A 1名

Q5 Wi-Fiルーターの貸し出しをお願いできますか？

A 8名

Q6 オンライン授業を学校で受けた児童数は？

	9/1		9/2		9/3		9/6	
1年	2, 3, 8, 4	17	2, 7, 9, 6	24	2, 5, 7, 8	22	2, 4, 7, 6	19
2年	0, 6, 3, 7	16	0, 5, 2, 4	11	0, 4, 2, 5	11	0, 4, 2, 3	9
3年	3, 2, 3, 3	11	2, 3, 4, 1	10	2, 2, 3, 1	8	3, 2, 5, 2	12
4年	0, 7, 3, 2	12	0, 4, 3, 2	9	0, 5, 3, 4	12	0, 6, 2, 4	12
5年	0, 1, 2, 1	4	0, 1, 2, 1	4	0, 0, 1, 1	2	0, 0, 0, 1	1
6年	0, 5, 0, 2	7	0, 4, 0, 1	5	0, 4, 0, 0	4	0, 4, 0, 1	5
合計	67		63		59		58	

Q7 オンライン授業に関する問い合わせは？

	9/1	9/2	9/3	9/6
マイクブロック	10	1	1	
Wi-Fiにつながらない	7			1
ミート入れない	5			2
学校でオンライン	3	3	2	2
自宅でオンライン	1			
パスワードについて		1	2	
画面が揺れる		1	1	
充電できない		1		
画面が反転する		1	1	

Q 8 オンライン授業の成果と課題は何か？

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ミートとグーグルスライド・ジャムボードの活用が効果的であった。 ・複式での学びがオンライン授業で有効的に働いていた（自律的な学び）。 ・アクシデントに対して、GIGA スクールサポーターの長野さんが即座に対応してくださった。 ・保護者が子どもと一緒にオンライン授業の準備に関わり、情報リテラシーの向上につながっていた。 ・マスク無しでできるため、子どもと教師の表情を見合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクのオンオフの切り替え →切り替える練習が必要。 ・ミートに入ることができない。 →一斉に電源を切り、入り直しが必要。 ・ネットワークが切れる。 → Wi-Fi 環境の整備。 ・ハウリングの防止 →マイクとスピーカーの位置の改善 ・学校でのオンライン授業希望者の多さ →オンライン授業の意図の理解？ →見守りながらの場所の提供

6. オンライン授業実施後の気付き

令和3年9月3日(金)
附属小:古野祐一

9月校長会におけるオンライン学習の報告について

1 オンライン告知直後

【準備しておくべき事】・親の不安・疑問解消・QAの作成

- (1) リモートをする時間帯について
 - ①開始・終了時刻の決定(時間割を何時間目まで設定するか→5校時)
※3校時オンライン学習終了後に「さようなら」をして各自4・5校時を実施
 - ②オンライン学習を一日の中で、どこに設定するか(1・3校時に設定)
- (2) ルーターの貸し出し(Wi-Fi環境)→25台(SIMカード等は自費)
- (3) 児童の預かりについて
 - ①当日562名中67人→徐々に減ってきた(注意メールを送信)約11%

2 前日までの段取り

【準備しておくべき事】・子供と教師のPC練習(使用技術の向上)

- (1) 基本的な操作方法の習得
 - ①さわって慣れること(文房具感覚をつかむ)
- (2) オンライン学習の簡易マニュアルの作成
 - ①クラスルームへの参加の仕方
 - ②クラスルームからミーティングへの参加の仕方
 - ③クラスルームで資料を見る方法
- (3) クロームブック活用ルールの周知徹底
 - ①文書配付(8時から3時まで等)

3 オンライン授業初日の対応

【準備しておくべき事】・トラブル対応の予測

- (1) 朝の登校確認
 - ①予定の人数等の確認・連絡(来ていない子、急に来た子等)
- (2) 登校した児童への対応
 - ①どこでオンラインを受けさせるか(人数が増えて、理科室→各教室へ変更)
 - ②どうやって受けさせるか(全員間隔を取って、背中向きで各自オンライン)
 - ③あくまでも見守り場所の提供(担任はオンライン学習に注力する)
- (3) オンライン授業のトラブル対応(当日トラブルへ対応するQAを作成しておく)
 - ①マイクトラブル(11件)
 - ②Wi-Fi未接続(7件)
 - ③ミーティングに入れない(5件) ※全部で10パターン程度

3. 2. 附属中学校

1. 【職員会議資料】新型コロナウイルス感染症対策の強化について
 - ・対象：職員
2. 新型コロナウイルス感染症対策の強化等について
 - ・対象：保護者
3. オンライン学習期間について
 - ・対象：職員
4. 第2学年部会「30日（月）、31日（火）を乗り切ろう！のしおり」
 - ・対象：職員
5. オンライン学習期間の各授業場所
 - ・対象：職員
6. オンライン学習期間の時間割
 - ・対象：職員、生徒
7. オンライン授業のしおり（第3学年）
 - ・対象：生徒
8. オンライン学習期間のしおり（第2学年）
 - ・対象：生徒
9. 3年事前指導資料
 - ・対象：生徒
10. 今日のひとこと（第2学年）
 - ・対象：生徒
11. 今日のひとこと（第3学年）
 - ・対象：生徒

1. 【職員会議資料】新型コロナウイルス感染症対策の強化について

職員会議資料

新型コロナウイルス感染症対策の強化について

令和3年8月25日

8月19日には、県内の感染状況を示すステージが5に引き上げられ、県独自の緊急事態宣言が発令されました。感染力の強いデルタ株の影響は、これまでと異なる感染の様相であることを強く認識する必要があります。また、急速、夏季休業の延長やオンライン授業の対応もあります。この危機意識を皆で共有し、声をかけ合って、附中の強みであるチームワークでこの事態を乗り切りましょう。

1 今後の対応

- ①夏季休業を延長し、8月26、27日は夏季休業日とする。30、31日は授業日、9月1日からは臨時休業とし、臨時休業中の学習支援としてオンライン授業を積極的に用いる。(別紙参照)
- ②部活動は、臨時休業中は中止。(県の通知、市中体連参照)

2 生徒登校日の対応

- ①できることの確実な遂行と、リスク軽減のための積極的な介入
- ②強化事項の徹底
 - ・水際対策(生徒登校時、職員出勤時、実習生・部外者来校時)
 - ・換気(ドア・窓)
- ③以前取り組んだ対策の復活
 - ・登校後の手洗いを指導する。
 - ・教員各人が教室に手指消毒液を持参し、プリント配付時等に使用する。
- ④休み時間の指導
 - ・毎時間の終了の挨拶の前に、教室の窓を全開にさせる。
 - ・休み時間もできるだけ早く教室に向かい、トイレや廊下で密にならないよう指導する。
- ⑤学年ごとに下校時間の変更(30日と31日は異なるように)
 - 例 1年：通常時刻 → 2年：10分後 → 3年：10分後
 - (2・3年は、下校時刻までを有効に活用し、学年・学級の裁量の時間を)

3 生徒との危機意識の共有

- ①8月30日(月)朝の会で、現在の長崎の状況を知らせ、危機意識を共有する。
- ②「30・31日の実力考査は皆の力を測るため外せない。そのために登校とした。学校での時間、登下校の時間に自分のできる対策を十分講じてほしい。一刻も早く長崎の状況が収まり、通常の授業を皆で行えるよう行動しよう」などと意識を揃え、具体的な、休み時間の過ごし方、換気と手洗い等を指導する。
- ※1 感染対策とは別に、生徒一人一人の様子を観察と声かけ。2日間で、学級担任が必ず全員の生徒に声をかける。併せて、心配な生徒には、学年職員の複数が声をかけ、休業中の心の様子をつかんだり励ましたりする。部活動で心配な生徒についても、顧問だけでなく学年職員と協力して対応する。9月1～6日の間にも、心配な生徒及び体調不良の生徒には電話をかけるなど、丁寧に対応する。

4 保護者との危機意識の共有

- ①8月30日(月)に、保護者宛文書「新型コロナウイルス感染症対策等の強化について」を配付する。帰りの会で生徒にも読んで聞かせる。

5 全中出場者への対応

- ①26日以降の平日(陸上は26・27日。柔道は26～31日)、学級担任が体調等を電話で確認する。異常があれば受診を促し、教頭か校長に報告する。
- ②陸上は、29日のPCR検査が陰性であれば30・31日は登校する。
- ③柔道は、9月2日のPCR検査で陰性になるまでは自宅待機。検査結果が陰性であれば、9月3日に登校して、1日5時間、実力考査を受ける。姉妹で同時刻になるよう調整。結果は、参考点ではなく通常の処理をお願いします。※1-3と1-4の実力考査解説は、9月3日以降に。
- ④柔道の2名には、9月1日からのオンライン授業に向けて、8月31日までにパソコンと他の生徒に配付した説明書を郵送する。

6 その他

- ①感染状況ステージ5、学校の対応レベル3に伴い、行事等の開催可否及び開催方法についての検討。
- ②教員の昼食も、多くの部屋を使い、できるだけ少ない人数で黙食をする。
- ③研究室等においても、常時換気をし、対面を避ける。協議をする場合は、広く風通しのよい部屋で行う。
- ④オンライン授業期間中は、既に作成している時間帯で行う。ただし、生徒の健康面に配慮し、オンライン授業の時間を最大午前・午後とも最大2時間、1日最大4時間とします。加えて、1時間の授業においても、50分間話し続けることなく、例えば、説明中心の35分、残りの15分に質問を受け付けたり、自分で復習させたり、練習させたりする時間に当てるなど工夫してください。(考査の回答は除く)

2. 新型コロナウイルス感染症対策の強化等について

令和3年8月30日

保護者 様

長崎大学教育学部附属中学校
校長 山田喜彦

新型コロナウイルス感染症対策の強化等について

残暑の候、保護者の皆様には、日頃から御協力を賜り、感謝申し上げます。

また、今年の夏季休業前半は、熱中症計で暑さ指数を計測しながら駅伝の練習や部活動に取り組むほどの酷暑となりましたが、後半は、長期にわたる集中豪雨や感染力の強いデルタ株の影響と言われる新型コロナウイルス感染症の急拡大により、子どもたちの活動も制限せざるを得ない状況が生じるなど、異例の夏となりました。また、8月19日には、県内の感染状況を示すステージが5に引き上げられ、県独自の緊急事態宣言が発令され、さらに、25日にはまん延防止等重点措置区域の指定と同宣言の延長が発表されました。

これらに伴い、8月23日にメールにてお知らせしましたが、感染拡大防止と学びの保障の観点から、9月1日(水)から9月6日(月)の間、生徒は登校せずオンライン授業を行うことといたしました。特に、これまでと異なる感染の様相であることを強く認識され、以下の点に御留意くださいますようお願いいたします。

なお、今後、対応を変更する場合には、一斉メールとHPにてお知らせしますので、HPのこまめな閲覧をお願いいたします。

記

- 1 オンライン授業についての手順や留意点は、31日に生徒に文書を配付して説明します。平日の午前8時20分には、Google Classroomに入り、出欠や本日の予定を確認します。万一、体調が悪く参加できない場合は、午前8時20分までに学校に電話連絡ください。
御家庭での接続に係り、自宅のWi-Fi接続環境を確認の上、31日下校後、学校から持ち帰ったPCで上記Classroomに接続できることを御確認ください。
- 2 9月1日以降も、これまで同様、本人及び同居する御家族が、PCR検査の対象となったり、濃厚接触者に特定されたりした場合には、速やかに学校に連絡してください。
- 3 登校再開後は、生徒本人及び同居家族にかぜ症状のある場合は、登校を控えてください。(出席停止扱い)
- 4 県外への往来や県外からの来訪者との接触をできるだけ避けてください。また、普段共に生活する家族以外との会食をお控えください。
- 5 学校においてもこれまで同様、活動後の消毒を継続いたします。御家庭においても、必要に応じて、共有部分の消毒やマスクの着用等により家族間での感染防止に努めてください。
- 6 誰もが感染する可能性があることを認識し、万一の場合にも、差別や誹謗中傷をすることなく、優しい気持ちで回復を願う心が表出するよう、御指導をお願いします。
- 7 部活動は、当面の間、中止します。
- 8 9月7日の登校初日には教育実習が始まっていますが、実習生は、実習開始の2週間前から長崎で生活するとともに、ワクチンの2回接種終了、又はPCR検査で陰性を要件としております。

3. オンライン学習期間について

長崎附属中 GIGA 担当（谷本、田端、入江）

オンライン授業に向けて（学年部会）

1 9月1日（水）に向けての準備

(1) 各分掌主任

- ① 各行事等の再検討
 - ・生徒会役員選挙
 - ・附中祭「秋」
 - ・授業参観
 - ・研究発表会
 - ・日本探

(2) 各学年で行うこと

- ① オンライン授業期間のしおりの完成
 - ・各教科で準備すること
 - ・各学級の時間割（前期終業式まで）
- ② 充電保管庫から AC アダプターを取る（8月30日の放課後に行う）
各生徒の机に AC アダプターを置き、31日はロッカーに保管
- ③ 学校になかなか登校できていない生徒への対応
 - ・パソコン&オンラインについて（授業を受ける機会になるかも・・・）
 - ・評価について
- ④ 生徒指導の共通理解
 - ・家庭にいてことで、心配な生徒
- ⑤ 各学級のクラスルームの作成
☆Classroomの名前は、「R3 学級」で統一します。
例「R3 2-2」
- ⑥ その他
 - ・2年生：日本探究
 - ・3年生：進路関係（オープンスクール、各高校の説明会【教師用】）

(3) 各教科で行うこと

- ① オンライン授業の計画
 - ・主免実習の計画
 - ・研究授業に向けての計画（研究発表会、検証改善、長崎市内の研究授業等）
 - ・進度の調整
- ② 評価について
 - ・オンライン授業になり、前期評価に支障がないか
- ③ 各教科のクラスルームの作成
☆Classroomの名前は、「R3 教科名 学級」で統一します。
例「R3 数学科 2-2」

④ 授業場所について

教科担任が授業毎に教室を変えるとパソコンの設定や教材の準備で時間がかかってしまうので、オンライン授業を発信する部屋を各教科担任に割り振る。

学年	教科	教科担任	授業教室
第1学年	国語	北村	1-2
	社会	道越	1-3
	数学	橋本	1-4
		田崎	授業研究室
	理科	山田	多目的ホール
英語	石隈	1-1	
	平田	会議室	
第2学年	国語	山中	2-4
	社会	古藤	2-1
	数学	入江	2-2
	理科	前田	第1理科室
英語	片山	2-3	
第3学年	国語	山本	3-1
	社会	佐藤	3-2
	数学	田端	3-4
	理科	川内	第2理科室
		教頭	第2理科室
英語	城谷	3-3	
全学年	音楽	力田	音楽室
	美術	森山・阪口	美術室
	技術	谷本	パソコン室
	家庭	島田	被服室
	保体	溝上・若杉・岩本	体育館・武道場

※理科：第1理科室、第2理科室、多目的ホールを4人で回す。

保体：授業研究室が空いているときは利用可。

主免実習生が使う教室は、使用できない。

2 8月31日(火)3校時 学活について

学年・学級間で差が生じないように、「オンライン授業期間のしおり」を用いて、1日の流れを確認しながら、実際に操作しながら、確実に伝えていきましょう。分からないときは、各学年のGIGA担当を頼ってください。

- (1) 全員が学級の「Classroom」に接続できることを確認する。
- (2) 「Classroom」に学級+9教科の「Classroom」ができているかを確認する。
※学年によっては、学年用や生徒会用の「Classroom」があるので注意
- (3) 1日の流れ(実際に、端末を用いながら確認をお願いします。)

時間	生徒	教師
	・欠席する場合は、保護者が8:15までに学校に連絡する。	・副主任で欠席の確認を行い、各担任に情報共有。
～8:20	・健康チェック表(紙面)を記入して、保護者に確認してもらう。	各学年でフロア等に集まって、「Meet」に接続して待機
8:20～8:25	・「Forms」で健康チェック。 ・「Meet」に接続して、背景を変えて、マイクをオフにする。	・「Meet」に接続した生徒に健康チェック、背景、マイクについて随時確認。
8:25～8:40	・朝の会 (初日は担任、次からは生徒でも可) ・1日の時間割等の流れを確認	・接続できていない生徒を副主任に連絡。副主任は家庭に連絡を行う。
8:40～8:55	・各教科の準備	・割り振られた教室に移動し、授業準備、「Meet」に接続
8:55～11:45	・1校時～3校時 授業	・トラブル等があれば、各教室や職員室に連絡して対応する。
11:45～12:45	・昼食時は、「Meet」を切る	各学年でフロア等に集まって、「Meet」に接続して待機
12:45～12:50	・「Forms」で健康チェック。 ・「Meet」に接続して、背景を変えて、マイクをオフにする。	・「Meet」に接続した生徒に健康チェック、背景、マイクについて随時確認。
12:50～13:05	・各教科の準備	・割り振られた教室に移動し、授業準備、「Meet」に接続
13:05～15:55	・1校時～3校時 授業	・トラブル等があれば、各教室や職員室に連絡して対応する。
15:55～16:00	・「Meet」に接続して、背景を変えて、マイクをオフにする。	・「Meet」に接続した生徒に背景、マイクについて随時確認。
16:00～16:15	・帰りの会 (初日は担任、次からは生徒でも可) ・1日の時間割等の流れを確認	・接続できていない生徒を副主任に連絡。副主任は家庭に連絡を行う。

実際に生徒に操作をさせてみる

- 健康チェック表の入力
- 「Meet」への接続
 - ・チャット機能(個人⇒担任)
 - ・背景の統一
 - ・挙手機能
- (4) その他
 - ・オンライン授業の注意点
 - ・生活の記録に時間割、学習内容を書き、今日の一のことを毎日書くこと
 - ・学習内容で分からない場合は、直接学級担任や教科担任にメール等で連絡する
 - ・お昼、放課後に、相談事があれば直接ミーティングをつないで相談にのる。オンラインだからこそ、気兼ねなく相談してほしい。
 - ・学活、道徳は学級のクラスルームを使用する
 - ・保護者宛のプリント内容の確認
 - ・教科連絡は、授業時間中に行う。ただし、連絡等の忘れがある場合はClassroomの投稿機能を用いて連絡

3 検討事項

- ・服装
- ・フォームについて(日にちごとにするのか?)
- ・Classroomをいつ、どうやってつくるのか?だれが、つくっているのか?

4. 第2学年部会「30日(月), 31日(火)を乗り切ろう!のしおり」

R3.8.30(月)

第2学年部会「30日(月), 31日(火)を乗り切ろう!のしおり」赤字が追加!
8月30日(月)

時間	動き
7:??~8:25	<p>○各担任の先生方は、早めに教室に待機し、静かな雰囲気づくりを行い、大きな声を出さないでいようにしましょう。</p> <p>山中：職員室付近 入江：フロア</p> <p>☆教室の窓は対角線開け&廊下側の天窓は全開(基本) ☆気温によっては、窓をできるだけ開ける</p> <p>①手洗い、うがいを行う ※3組前、第1理科室、トイレ ②提出物を出す ※各教室前の長机</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康チェック表 ・夏休みの課題 <p>国語：作文か読書感想文 数学：問題集⇒テスト勉強があるので、後日回収 理科：自由研究 英語：未提出者 親子実践、からだの記録</p> <p>③考査の座席に座り、リュックは椅子の下へ ④黙勉</p>
8:25~8:40	<p>朝の会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○あいさつは、黙挨拶 ○健康観察は、元気であれば手を上げる(名前は呼ばない) ○貴重品は集めない ○係からの連絡(必要な連絡のみ) ○日程の確認 ○休み時間の過ごし方 ○長崎の感染状況、その中での学校再開について担任の思いを語る ○黙勉
8:40~8:55	<p>☆テスト出題者は、休み時間はフロアに待機</p>
8:55~9:45	<p>1校時 社会</p> <p>☆テスト配付時は手消毒</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テスト終了後は、窓側の生徒は換気を行う ○休み時間の過ごし方
10:00~10:50	2校時 国語
11:05~11:55	3校時 理科
11:55~12:00	<p>藤田：4クラス分のテストを回収して職員室へ 前田：職員室の連絡を確認後、担任に共有 山中：別室対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○荷物をまとめ、帰る準備

12:00~12:15	<p>帰りの会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者あて文書を用いて、感染症対策や今後の動きを確認 ○新健康チェック表を配付 ○Wi-Fiのセキュリティキーを家で確認しとくこと ○ポケットWi-Fi貸出者にプリント配付(2組本多、4組三浦) ○コーラス部は、下校前に校長室へ ○オンライン授業では、Chromebookではなくて家のPCでも可(カメラ付き) ○生徒会役員選挙の立候補の意思確認 <ul style="list-style-type: none"> ・立候補する生徒は、推薦者を集める ○主免実習生のウェルカムボードは掲示しない。 ○美術(2・4組のみ) 阪口先生より 「自分との対話、平和とは?」のプリントを31日に提出することを伝える!
12:35~	<ul style="list-style-type: none"> ○4組→3組→2組→1組の順に下校 ☆他学年の様子を見ながら、密にならないように帰す。 ☆琴海方面の生徒は、バスの関係があるので状況に合わせて帰す。 <p>校外指導 山中、入江(西中横断歩道) 前田、片山、古藤：フロア追い出し</p>

○放課後 1人1台端末とアダプターを各自の机へ

8月31日(火)

時間	動き
7:??~8:25	<p>○各担任の先生方は、早めに教室に待機し、静かな雰囲気づくりを行い、大きな声を出さないでいようにしましょう。</p> <p>山中：職員室付近 古藤：課題提出呼びかけ 入江：全体、トイレ指導 片山：手洗い・うがい 前田：廊下、トイレ指導 ☆教室の窓は対角線開け&廊下側の天窓は全開（基本） ☆気温によっては、窓をできるだけ開ける</p> <p>①手洗い、うがいを行う ※3組前、第1理科室、トイレ ②健康チェック表を提出 ※各教室前の長机 ☆2組、4組のみ美術のプリントを回収 ③考査の座席に座り、1人1台端末とアダプターをリュックに入れる ④リュックは椅子の下へ ⑤黙勉</p>
8:25~8:40	<p>朝の会</p> <p>○あいさつは、黙挨拶 ○健康観察は、元気であれば手を上げる（名前は呼ばない） ○貴重品は集めない ○係からの連絡（必要な連絡のみ） ○日程の確認 ○休み時間の過ごし方 ○前日の学校や下校の様子を見て感じたことを語ってください ○黙勉</p>
8:40~8:55	<p>☆テスト出題者は、休み時間はフロアに待機</p>
8:55~9:45	<p>1校時 英語</p> <p>☆テスト配付時は手消毒 ○テスト終了後は、窓側の生徒は換気を行う ○休み時間の過ごし方</p>
10:00~10:50	<p>2校時 数学</p>
11:05~11:55	<p>3校時 学活</p> <p>○リュックから1人1台端末を取り出す ○Classroomが 「学級+社探（2学級版）+9教科（技、家は別々）」=12個あるのか確認する。1つずつ確認しましょう！ ○オンライン学習のしおりを読み上げながら、一緒に操作を行う ☆健康チェック表、今日のひとことは、練習で入力して大丈夫です！ ○帰宅して、オンライン学習で使用するPCでClassroomに接続できるかの確認</p>

	<p>○短学活や各教科の授業で、15分以上つながらなかつたら家または保護者に電話する。もし、ネットトラブル等の場合は自分からか保護者にその旨を学校に連絡してもらう。 ☆分からないときは、入江まで！</p>
11:55~12:00	<p>○荷物をまとめ、帰る準備</p>
12:00~12:15	<p>帰りの会 ☆学活の状況を見て、内容を調整してください！ ○ポケット Wi-Fi 貸出&設定（2組本多、4組三浦） ☆同意書の回収をお願いします ○明日から不安なことがないか？聞いてみましょう。 ○生徒会役員選挙の立候補の意思確認 ・立候補者と今後の流れを確認</p>
12:35~	<p>○4組→3組→2組→1組の順に下校 ☆他学年の様子を見ながら、密にならないように帰す。 ☆琴海方面の生徒は、バスの関係があるので状況に合わせて帰す。 校外指導 山中、古藤（若葉町～昭和町） 前田、片山、入江：フロア追い出し</p>

5. オンライン学習期間の各授業場所

オンライン学習期間の各授業場所

学年	教科	教科担任	授業教室
第1学年	国語	北村	1-2
	社会	道越	1-3
	数学	橋本	1-4
		田崎	授業研究室
	理科	山田	多目的ホール
	英語	石隈	1-1
平田		会議室	
第2学年	国語	山中	2-4
	社会	古藤	2-1
	数学	入江	2-2
	理科	前田	第1理科室
	英語	片山	2-3
第3学年	国語	山本	3-1
	社会	佐藤	3-2
	数学	田端	3-4
	理科	川内	第2理科室
		教頭	第2理科室
英語	城谷	3-3	
全学年	音楽	力田	音楽室

	美術	森山・阪口	美術室
	技術	谷本	パソコン室
	家庭	島田	被服室
	保体	溝上・若杉・岩本	体育館・武道場

6. オンライン学習期間の時間割

オンライン学習期間 時間割							
第1学年							自習
		1	2	3	4	5	6
9月1日	1組	美術	家庭	理科	英語	音楽	—
	2組	技術	英語	国語	音楽	社会	—
	3組	英語	社会	理科	国語	国語	—
	4組	社会	国語	社会	理科	英語	—
9月2日	1組	社会	国語	国語	技術	英語	数学
	2組	英語	理科	家庭	数学	国語	保体
	3組	理科	英語	技術	音楽	数学	保体
	4組	技術	英語	国語	保体	家庭	音楽
9月3日	1組	英語	国語	保体	理科	社会	数学
	2組	数学	英語	国語	社会	保体	理科
	3組	国語	数学	英語	理科	保体	家庭
	4組	社会	英語	数学	国語	理科	美術
9月6日	1組	保体	理科	社会	国語	英語	数学
	2組	英語	技術	国語	社会	美術	理科
	3組	社会	英語	数学	美術	国語	社会
	4組	国語	保体	理科	数学	社会	英語
第2学年							
		1	2	3	4	5	6
9月1日	1組	数学	自習	美術	理科	技術	—
	2組	英語	自習	理科	技術	国語	—
	3組	社会	自習	国語	英語	理科	—
	4組	美術	自習	社会	国語	数学	—
9月2日	1組	国語	英語	自習	自習	社探	自習
	2組	数学	美術	自習	自習	社探	自習
	3組	美術	音楽	自習	自習	社探	自習
	4組	理科	国語	自習	自習	社探	自習
9月3日	1組	社会	理科	自習	音楽	自習	自習
	2組	音楽	国語	自習	社会	自習	自習
	3組	数学	英語	自習	技術	自習	自習
	4組	理科	音楽	自習	英語	自習	自習
9月6日	1組	英語	数学	自習	社会	国語	自習
	2組	理科	社会	自習	英語	数学	自習
	3組	数学	国語	自習	社会	理科	自習
	4組	社会	英語	自習	数学	技術	自習

第3学年							
		1	2	3	4	5	6
9月1日	1組	英語	数学	国語	理科	保体	—
	2組	社会	英語	家庭	国語	保体	—
	3組	数学	理科	英語	保体	国語	—
	4組	理科	社会	数学	保体	英語	—
9月2日	1組	音楽	保体	国語	英語	社探	社探
	2組	国語	保体	数学	理科	社探	社探
	3組	理科	国語	保体	社会	社探	社探
	4組	家庭	理科	保体	数学	社探	社探
9月3日	1組	数学	家庭	英語	社会	保体	美術
	2組	音楽	数学	理科	英語	保体	国語
	3組	理科	英語	家庭	保体	国語	数学
	4組	国語	英語	社会	保体	数学	理科
9月6日	1組	国語	社会	保体	数学	理科	英語
	2組	英語	理科	保体	社会	数学	社会
	3組	音楽	社会	国語	保体	英語	数学
	4組	社会	数学	英語	保体	音楽	国語

7. オンライン授業のしおり (第3学年)

オンライン授業 のしおり



3年	組	番	氏名	
----	---	---	----	--

長崎大学教育学部附属中学校

1 日課表

8:15~ 8:20	健康チェック表の記入&オンライン授業の準備 ・必ず、健康チェック表(紙面)を記入し、保護者に確認してもらうこと。
8:20~ 8:25	健康チェック&「Classroom」「Meet」に接続 ・学級の「Classroom」に入り、「Forms」で健康チェックを行い、「Meet」に接続する。 ・背景を「ぼやけた空と紫色の地平線」に変更する。 ・ミュート(マイクをオフ)にして、朝の会まで待機
8:25~ 8:40	朝の会 ・接続の確認 ・1日の確認
8:40~ 8:55	各教科の授業準備 ・各教科の「Classroom」に入り、「Meet」に接続する。 ・背景を「ぼやけた空と紫色の地平線」に変更する。 ・ミュート(マイクをオフ)にする。 ・各教科に必要な物を準備する。
8:55~ 9:45	1校時
9:55~10:45	2校時
10:55~11:45	3校時
11:45~12:45	昼食
12:50~13:05	各教科の授業準備 ・各教科の「Classroom」に入り、「Meet」に接続する。 ・背景を「ぼやけた空と紫色の地平線」に変更する。 ・ミュート(マイクをオフ)にする。 ・各教科に必要な物を準備する。
13:05~13:55	4校時
14:05~14:55	5校時
15:05~15:55	6校時 ※15:00~15:15 終わりの会(5校時終了の場合)
15:55~16:00	「Classroom」「Meet」に接続 ・学級の「Classroom」に入り、「Meet」に接続する。 ・背景を「ぼやけた空と紫色の地平線」に変更する。 ・ミュート(マイクをオフ)にして、終わりの会まで待機
16:00~16:15	終わりの会 ・接続の確認 ・明日の時間割の確認 ・今日の一言の記入、送信

2 オンライン授業について

(1) 各教科で準備するもの

準備物一覧 第3学年	
国語	・教科書、ノート、活用資料集、考査問題用紙
社会	・公民の教科書、地図帳、考査問題用紙 ・地理、歴史100問テストのプリント
数学	・教科書、ノート、問題集、考査問題用紙
理科	・教科書、ノート、ワーク、考査問題用紙
音楽	・附中讃歌と、課題曲「君が君に歌う歌」の楽譜
美術	・夏休みの課題の作成を進めます。各自が必要な道具をそろえておきましょう。
技術	・教科書、ファイル ・プログラミングのパスワードとID、クラスコードを確認しておいてください。
家庭	・教科書、ノート、幼児期に遊んでいたおもちゃ(絵本も可)2つくらい
保体	・中学体育実技、配付したワークシート
英語	・教科書、ラボ、ノート、辞書、考査問題用紙
社探	・社探ファイル(これまでのワークシート)、配付したワークシート

(2) 9月6日までのオンライン学習の内、自習となる教科の課題

社会	地理、歴史100問テストの学習(登校が再開されたら、テストを行います。)
理科	配付するプリントを使って、レポート作成
保体	配付するプリントを使って、レポート作成
英語	7月までに学習した部分を音読練習し、1ページを選んで録音する。録音したものを「Classroom」に投稿する。
社探	配付するプリントを使って、レポート(長崎県と他県との比較)作成

※ 時間割が変更となった場合は、各学級の「Classroom」に連絡します。

(3) オンライン授業での注意点

○授業中について

- ・ オンライン授業中、生徒の皆さんはミュートを原則とします。授業で発言する際は、「挙手機能」を用いて教えてください。名前を呼びますので、呼ばれたらミュートを解除(マイクをオン)して発言してください。
- ・ 授業中に体調が悪くなったり、席を外さなければいけないことがあれば、チャット機能を使ってその旨を伝える。
- ・ 終わりの会終了後、今日の一言を「Forms」に打ち込みます。送信した人から「Meet」を退出します。

○1人1台端末について

- ・ 「1人1台学習用端末を活用した新たな学びへ」を念頭に置き、目的を持って正しく利用すること。
- ・ 先生方の指示がないとき、緊急の連絡があるとき以外は、チャット機能等を用いた会話を行わないこと。
- ・ 端末の不具合等が生じたときは、学校に連絡すること。
- ・ 規則正しい生活を心がけ、深夜まで1人1台端末を使用しないこと。
- ・ 端末を使用する際は良い姿勢を保ち、目と端末の画面との距離を30cm以上離し、30分に1回は、20秒以上、画面から目を離して、目を休めるようにしましょう。

○行ってはいけないこと

- ・ オンライン授業の様子を録音及び、録画や写真撮影等を絶対に行わないこと。
- ・ 生徒だけで、「Meet」や「チャット」を行わないこと。
- ・ クラスルームなどの誰でも閲覧することができる場所に、個人的なデータや他人の写真等を載せないこと。一度載せると、簡単には消すことはできません。また、身に覚えのないデータが載せられている、送られてきている場合は、すぐに学校に連絡し、そのデータ等を開かないようにすること。

○その他

- ・ 静かな環境で、オンライン授業を受けること。
- ・ 服装は特に定めませんが、授業を受けるために望ましい身なり・服装とします。
- ・ 各家庭のプライバシーがあります。背景を設定してください。
- ・ 何か困ったことがあれば、チャット機能で先生にだけメッセージを送ることができます。また、授業中以外でも何か困ったことがあれば、学校に電話してください。
- ・ 自習等をはさんで、新たに端末を起動する際には、学級または各教科の「Classroom」に入り、「Meet」に接続し、背景を「ぼやけた空と紫色の地平線」に変更する。その後、ミュート(マイクをオフ)にして、待機しましょう。
- ・ オンライン授業開始15分後までに「Meet」に入室できていない時は、A票に書いてある連絡先に連絡をとります。連絡先が携帯電話の御家庭も多いので、自分できちんと入室するように心がけましょう。
- ・ 端末使用後は、必ずログアウトしましょう。

オンライン授業期間中の時間割 (第3学年) 第1週 確定版 (8/30更新)

	1	2	3	4	5	6	備考
9月1日	1組	英語	国語	理科	保体	—	
	2組	社会	家庭	国語	保体	—	
	3組	数学	英語	保体	国語	—	
	4組	理科	数学	保体	英語	—	
9月2日	1組	音楽	国語	英語	社探	社探	
	2組	国語	数学	理科	社探	社探	
	3組	理科	保体	社会	社探	社探	
	4組	家庭	保体	数学	社探	社探	
9月3日	1組	数学	家庭	英語	保体	美術	
	2組	音楽	数学	理科	保体	国語	
	3組	理科	英語	家庭	保体	数学	
	4組	国語	英語	社会	保体	理科	
9月6日	1組	国語	社会	保体	数学	英語	
	2組	英語	理科	社会	数学	社会	
	3組	音楽	社会	保体	英語	数学	
	4組	社会	数学	英語	音楽	国語	
9月7日	1組	保体	理科	道徳	社会	数学	
	2組	保体	社会	道徳	英語	理科	
	3組	数学	保体	道徳	理科	社会	
	4組	社会	保体	道徳	理科	美術	

は、自習 (指示ありの自習も含む)

4 学習者用端末使用に係る留意事項

- 文部科学省のプロジェクト (GIGA スクール構想) に基づき、長崎大学教育学部附属中学校に在籍する生徒を対象に、1人1台端末を活用した学習等を実施します。
- 端末の使用期間は、同意書の提出日から年度末までとします。次年度も本校に在籍することが決まっている場合、端末を返却することなく継続して使用できるものとし、同意書も自動的に更新されるものとします。
- 転出や卒業時など、在籍期間が終了する際には、学校長からの指示に基づき端末を遅滞なく学校に返却してください。
- Google アカウント・パスワードを他人に教えないでください。また、転出や卒業後は1年間アカウントを有効とし、その後はアカウントを削除いたします。
- 本校は Google の教育関係者向けクラウドサービス (Google Workspace for Education) を利用します。時間・場所を問わずオンラインでの学習やコミュニケーションが可能となり、生徒の学習成果物等をクラウドにて保存、管理することができます。
- 新型コロナウイルス感染症の影響や学びの保障が必要と判断された場合は、家庭に端末を持ち帰り、学習を行うことがあります。

家庭における端末の取り扱いについて、下記の点に注意してください。

- 公序良俗に反すること、貸出・転売等の違法行為はもとより、生徒の生活リズムを極端に崩すような使用はしないようにお願いします。
- 端末は「だれが」「どんなことに」「どのくらい」使ったのか確認できます。緊急対応の必要がある場合には、調査のために学校から生徒アカウントにログインするとともに、学校から保護者へ連絡をすることがあります。
- 端末の設定 (不適切なサイトへのアクセス制限をしています) は容易に変更できないようにしています。
- 精密機械です。本校を卒業するまで同じ端末を使いますので、丁寧・適切な取り扱いをお願いします。
- 故障、破損、紛失、盗難等の事由が生じた場合は、勝手に修理せず、速やかに学校に申し出たうえ、学校の指示に従ってください。盗難の場合は、警察に届け出て、その証明を受けてください。本人に重大な過失があった場合は、全額弁償していただく場合があります。
- 長期休業等に家庭に端末を持ち帰る際の充電は、家庭で行うようにお願いします。
- 端末を使用する際は良い姿勢を保ち、目と端末の画面との距離を 30cm 以上離し、30分に1回は、20秒以上、画面から目を離して、目を休めるようにお願いします。

5 メモ

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page. It is intended for handwritten notes or a drawing.

8. オンライン学習期間のしおり（第2学年）

4 学習者用端末使用に係る留意事項

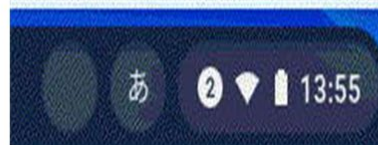
- 文部科学省のプロジェクト（GIGA スクール構想）に基づき、長崎大学教育学部附属中学校に在籍する生徒を対象に、1人1台端末を活用した学習等を実施します。
- 端末の使用期間は、同意書の提出日から年度末までとします。次年度も本校に在籍することが決まっている場合、端末を返却することなく継続して使用できるものとし、同意書も自動的に更新されるものとします。
- 転出や卒業時など、在籍期間が終了する際には、学校長からの指示に基づき端末を遅滞なく学校に返却してください。
- Google アカウント・パスワードを他人に教えないでください。また、転出や卒業後は1年間アカウントを有効とし、その後はアカウントを削除いたします。
- 本校は Google の教育関係者向けクラウドサービス（Google Workspace for Education）を利用します。時間・場所を問わずオンラインでの学習やコミュニケーションが可能となり、生徒の学習成果物等をクラウドにて保存、管理することができます。
- 新型コロナウイルス感染症の影響や学びの保障が必要と判断された場合は、家庭に端末を持ち帰り、学習を行うことがあります。

家庭における端末の取り扱いについて、下記の点に注意してください。

- 公序良俗に反すること、貸出・転売等の違法行為はもとより、生徒の生活リズムを極端に崩すような使用はしないようにお願いします。
- 端末は「だれが」「どんなことに」「どのくらい」使ったのか確認できます。緊急対応の必要がある場合には、調査のために学校から生徒アカウントにログインするとともに、学校から保護者へ連絡をすることがあります。
- 端末の設定（不適切なサイトへのアクセス制限をしています）は容易に変更できないようにしています。
- 精密機械です。本校を卒業するまで同じ端末を使いますので、丁寧・適切な取り扱いをお願いします。
- 故障、破損、紛失、盗難等の事由が生じた場合は、勝手に修理せず、速やかに学校に申し出たうえ、学校の指示に従ってください。盗難の場合は、警察に届け出て、その証明を受けてください。本人に重大な過失があった場合は、全額弁償していただく場合があります。
- 長期休業等に家庭に端末を持ち帰る際の充電は、家庭で行うようにお願いします。
- 端末を使用する際は良い姿勢を保ち、目と端末の画面との距離を 30cm 以上離し、30分に1回は、20秒以上、画面から目を離して、目を休めるようにお願いします。

5 Wi-Fi接続マニュアル（Chromebook用）

I 右下の時間をクリックする。



II 左上のWi-Fiをクリックする。



III 自宅のWi-Fiを選択し、パスワードを入れる。パスワードは、お家の人に聞きましょう。



無線 LAN の ID(SSID)

☆ 機完了!

6 メモ

8/31 (火) ③学活で Chromebook を使って説明すること

学級の“classroom”に入る

- “ストリーム” に掲載されている中身を確認する
 - ・ Wi-Fi 接続確認の “Forms” (8/31 中に入力)
 - ・ 健康チェック用の “Forms” (毎朝入力)
 - ・ 生活の記録 (“ひとこと”) 入力用の “Forms” (帰りの会で入力)
 - ・ 進路用の連絡板 (?) の場所
- “Meet” に接続する
 - ・ ミュートの切り替え方
 - ・ 背景の変更 (「ぼやけた空と紫色の地平線」)
 - ・ レイアウトの替え方 (スポットライト、タイル表示)
 - ・ ピン留めの仕方
 - ・ チャット機能についての確認
 - ・ 挙手機能についての確認

教科の“classroom”に入る

- ・ 各教科の連絡、Meet のリンクの場所を確認する。
- ・ 美術科の連絡事項があることを伝える。

10. 今日のひとこと (第2学年 1日目)

- ・自習もしっかりと集中することができて良かったです。
- ・初めてのオンライン授業で学校とは違う疲れを感じた。また明日からもしっかり頑張りたい。
- ・初めてのオンライン授業でトラブルなどもあったがきちんと学ぶことができた。
- ・オンライン上の授業で垣かある、学校が持つていけないような参考書も使えたり、机を広く使えたり、チャットをうまく使えたりできた。オンラインでも二回くらい発表できたので良かった😊ただ、一つ、ハウリングしてたところが聞きづらかった。
- ・初めてのリモート授業で緊張したが、学校と同じように集中できたので良かった。
- ・パソコンだとすぐに目が疲れて、痛くなってしまいました。
- ・今日は、はじめてのオンライン授業で緊張した。けれど、先生方が笑わせてくれて緊張も少しほぐれました。オンラインもいゝなと思いました。
- ・思ったより疲れてしまいましたか楽しかったです。
- ・初めてのオンライン学習でいゝことが多かったが、楽しかったです!
- ・初めてのリモート楽しかったです!
- ・思った以上の時間の進み具合が早かった。
- ・オンライン授業を通してやっぱりみんなと喋りたいです。
- ・初めてのオンラインだったのがスムーズに進んでやりやすかった
- ・リモート1日目で今まで先生方と直接教えてもらってたほうが楽しかったなと思いました。
- ・パソコンの充電の消費量がすごかった!少し疲れたけれど楽しかったので明日も頑張りたい!!
- ・はじめてのオンラインで悩んだって退出するなどの問題もあったが克服したので明日も頑張りたい。
- ・初めてのリモートでわからないこともあったけどうまくできてよかったので明日からも頑張りたいです。
- ・今日はリモート授業1日目でした。普段とは違い、画面越しのコミュニケーションだったので難しく感じました。
- ・初めてのオンラインで少し緊張してはいたけど学校みたいな授業が受けられてとても不思議な感覚だった。明日も集中して授業に臨みたいです。
- ・今日は初めてのオンライン授業で楽しかった。
- ・初のオンライン授業で、はじめて緊張したが、みんな発表する姿に、安心感や勇気ももらった。
- ・初めてのオンライン授業で、少し疲れました。
- ・今日、初めてのオンライン授業だったけれどトラブルもなく良かったです。明日も頑張ります。
- ・初めてのオンライン授業で美術とか特にならんと授業ができるから配りだったけど先生方が丁寧に対応してくださって不安もなくなりました。明日からも元気に頑張りたいです!!
- ・最初の日だったので少しわからない部分もあったけど、これからの4日間の流れをだいたい掴めたので良かった。
- ・初めてのオンライン授業でわからないことがあると思ったけど、意外とうまくできたので良かった
- ・初めてのオンライン授業で戸惑いながらも楽しくできたと思う。もっとこの環境もなれて楽しくやっていきたい
- ・色々発表することができたので、明日も頑張りたいです。
- ・このようなmeetでの学習はみんなと直接会えないので、寂しいけれど、これも先生方が安全にしてくれている証拠などでこの生活も頑張っていきたい。
- ・オンライン授業初めてでどんなのかわからなかったけど文字が見やすくていゝなと思った。国語の活用の種類をしっかりと覚えたい。
- ・今日は初めてのリモートだったけど集中してできて良かった。
- ・初めてのオンラインで少し緊張したが楽しかった
- ・初めてのリモートは楽しかったけど、目が疲れました。初めてだったけど、発表することができてよかった。明日からも頑張りたい。
- ・今日のオンライン授業のために部屋の模様替えをしました。部屋が映らないので意味はないですが、前よりも集中しやすくなりました。今日の授業は全部理解させてから次に進ようにしました。送るのが遅くなってしますみません!明日も頑張ります。
- ・授業がやりづらいつきもあったけど、いつもどおりが泓れたと思う

- ・これからランニングに行こうと思います。
- ・初のリモート授業で疲れたけどあしたもあるので慣れようと思う。
- ・今日は初めてだったのパソコンの充電がいゝきなり切れたり、Wi-Fiの調子が悪くなったりしたのでかゝつもと違う形での授業がとても楽しかったです。
- ・初めてのオンラインでの授業でちょっとしたトラブルとかはあったけど新しい授業のやり方で楽しかったです。明日も頑張りたいです!
- ・初めてのオンライン授業でしたが、良い学びができました。明日からも引き続き頑張ります。
- ・初めてのオンライン授業だったが、登下校の時間がなくなりとても快適に学習することができた。授業では、理科のときに映像を使って学習をしたが、学校で一台のテレビを皆でみるとときと違い、それぞれで見たので秒数を巻き戻すことができるし、見やすいのがオンラインの強みなかなと感じた。
- ・久しぶりにみんなの顔が現れて嬉しかったです。
- ・リモートよりリアルタイムのほうが好き
- ・朝からしっかり参加できたので良かった😊
- ・オンライン学習は少し疲れた。なれていきたい!
- ・初めてだったけど、不自由なく、スムーズにできた。オンラインだからそのメリットをしっかりと生かしていきたい。
- ・今日から、オンライン授業が始まりました。新鮮な感じで面白かったです。特にトラブルもなかったのも、明日からも引き続き頑張っていきたいです。
- ・初めてのオンライン授業で楽しかった。
- ・目が疲れたのでしっかりと休みたいです。
- ・リモートでずっと画面を見ていたので目がつかれました…明日も集中して勉強できるように頑張りたいです!!
- ・初めてのオンライン授業で緊張した。ずっと画面を見ていると目が疲れてしまった。
- ・普通の授業より疲れました!!顔が現れてちょっと照れくさかったです。
- ・初めてでやりづらさもありませんが普通の授業とあまり変わらない授業が社床ました
- ・目が疲れたけど、睡眠時間が2時間増えたので、普通の日もこれくらい寝たいいゝなと思いました。
- ・今日初めてのオンライン授業でしたが、特に不安なことなどはなく、楽しかったです。国語の授業で発表もできました。まわりにかゝりなかつたのでいつもよりも発表がしやすかったです!また発表したいです!
- ・初めてのオンラインだったけれど家でも緊張感を持つてすることができてよかった。
- ・学校での初めてのオンライン授業だった。私はなれてはいたが、他の人が少し疲れたような顔をしてはいた。これから言語ノートを作ったり、楽器を練習したりするので、オンライン授業で体力と気力を削ぎにされない程度明日からも授業を受けたい。
- ・ちょっとおどろいた。
- ・初めてのオンライン授業だったが、普通の授業と変わりなく、発表やつぶやきができたので、良かった。
- ・初めてのオンライン授業で、普段よりつかれはかゝり、家でも学校と同じような学習ができてた。
- ・今日は初めてリモートで授業を受けて少し操作などに苦戦しました。これからまた授業があるのでなれていきたい
- ・自習の時間も自分の勉強が進められて良かった。
- ・初めてのオンライン授業でみんなの表情をみながら授業ができて楽しかったです。
- ・はじめてのオンラインだったけどみんなといろんなやり取りができてよかった。明日も頑張りたい。
- ・初めてのリモートでの授業で不安だったけど、いつもみたくいゝのはスムーズではなかったけど、できてよかったです。
- ・meetでもあまり変わらなかった。
- ・初めてのオンライン授業だったけど、思ったより大丈夫だった。ps昨日お返事する予定だったのを忘れててすみません。
- ・初めてのオンライン授業で、特にならんと授業ができたのでよかった。
- ・オンライン授業は、操作や時間を守ることが難しかったです。

今日のひとこと（第2学年 4日目）

- ・今日でオンライン授業が終わった。しっかり気を引き締めて頑張りたい。
- ・オンライン授業は登下校がないので楽という点はあったものの、目が疲れたり友達と会えないなど不便な点もあったので明日から対面授業ができることが嬉しいです。
- ・今日が学校よりみんなを発表したぐらい、いろいろな意見が聞けました。久しぶりの学校でベースを崩したり、忘れ物しないようにしたいと思います。
- ・ずっと画面を見ていると首が痛くなったので、学校で使う時も適度な休憩を挟みながら使いたい。
- ・今日でオンライン授業が終わりになりました。明日はテストの結果が返ってくる教科があるので、自分の間違えたところをしっかりと把握したいです。
- ・今日でオンライン授業が終わった。いろいろあったけど、なんかかんたんに楽しかった！ こういう時代だからこそ体験できることだから、出来てよかった。もし、感染者が増えてしまったときはまたオンラインで授業を受けたいです(^_^)
- ・とくになし。
- ・パソコンの操作などなれないことも多かったけど、楽しく授業を受けることができた。
- ・今日でリモートも終わりですね。また明日クラスの人々と会えることを楽しみにしています。
- ・明日から登校して授業を受けるので、準備をして臨みたい。
- ・明日から学校持ちに待った朝出勤かになります。
- ・今回4日間リモートで試みて、リモートも結構慣れるし大変だと思いました。明日皆に会えるのが楽しみです。
- ・最後のオンライン授業が終わった。普段の学校生活と違い、モニター越しで座っとくのがきつかったり、目が痛くなったりした。コロナがなくなるまで感染対策をきちんとしていきたい。
- ・オンライン授業が終わった。使った時間短かったので、次またオンラインになっても大丈夫だと思う。
- ・今日はリモート授業最終日でした。初日よりリモート授業がなれたなとおもいます。明日からは通常授業です。選挙管理委員会が始まるのでサポートを頑張りたいです。
- ・今日でオンライン授業が終わりました。みんなと一緒に授業できないのは残念感があったけども、経験になりました。
- ・今日でオンライン授業最終日だった。実際に会えないのが寂しかったけれどみんながマスクを取った姿で授業を受けたり、授業前に先生としゃべる時間が増えたりなど、いつもとは違うことがたくさんあって新鮮で楽しかったです。
- ・今日は最後のオンラインでの授業だった。明日から通常の授業だけに集中して頑張りたい。
- ・今回オンライン学習をして、はじめは戸惑うことも多かったけど、最終的にはうまくパソコンを使いこなせた。進化していく時代の中でこういう経験をこれから大事にしたい。
- ・今日でオンライン授業が終わり、早いなと思いました。明日からは学校で登校するのでがんばりたいです。
- ・今日がオンライン授業最後でした。みんなの顔も見ることができて良かったです。明日からも頑張りたいです。
- ・今日で予定で最後のオンライン授業でした。もしかしたら今後もこのようなことがあるかもしれないけど、この4日間、いつもとは違う緊張感でした。そして友達の大切さも改めて気づくことができました!!! 早くみんなに会いたいです。
- ・最後の授業、充実したオンライン授業ができた。
- ・最終日となってやっと明日からいつもの学校が始まる。テストも返ってくるのでオンライン明日気を引き締めていきたい。
- ・オンライン授業が終わった。明日はみんなに会えるから楽しみだ。出し忘れていたものがあるので、忘れないようにしたい。
- ・明日から、学校が始まるので、また気持ちを切り替えて頑張っていきたいです。
- ・オンライン授業も今日で終わった。明日からは夏休みの学校の授業が始まるので、また授業を自分から積極的に発表していきたい。
- ・オンライン学習が始まって、生活リズム少し変わったので、明日6時間も集中できるか心配です。でも、みんなに会えるから楽しみです。早めに明日の準備をして、明日の対面授業もかになります。部活、まだできないんですけど、早く部活もしたいし、部活の仲間会いたいです。
- ・明日から学校での授業で生活がかなり変わるので頑張りたい。
- ・今日は、最後のリモートだったけど真剣に受けることができた。

- ・明日から登校するのでしっかりと気を引き締めてい。
- ・最後のオンライン授業だった。意外とあっという間に感じた。うまくパソコンを活用できるか不安だったけど、特に問題もなく進められたと思う。画面越しでもみんなと一緒に授業ができてよかった。明日久しぶりにみんなに会えるのが楽しみだ。
- ・オンライン授業もきょうで最後。明日から通常どおり学校があるから頑張ろうと思う。
- ・英語の授業で初めてAIの妻さを実感しました。
- ・明日から学校なので気を引き締めてい。
- ・今日でリモート授業が終わりました。明日から学校へ行って皆に会えるのがとても楽しみです！自分を守ることは皆を守ることに繋がると思うので感染対策に気を付けていきたいです。
- ・今日は、最後のオンライン授業でした。オンライン授業でもみんなの顔が見れて嬉しいのですが、やっぱりみんなと対面で話したいと感じました。
- ・明日からもとに戻ると楽しみだ。
- ・オンライン授業期間も通常よりも自習時間が多かったので、自分のしなかった勉強をたくさんすることができました。明日からは学校なので、久しぶりに友達に会うのが楽しみです!!
- ・今日は最終日だった。学校でするよりも楽しかったと思っていたけど、やはり対面がもっと感じた4日だった。
- ・今日で終わり。明日からも元気に登校したい。
- ・明日には、30・31日に会えなかった担任先生や実習生の先生と会えるのでとても楽しみです。
- ・オンライン学習最終日で、ジェスチャーなどの普段使わないコミュニケーションなどを普段の生活でも活かせると思いました。
- ・明日から学校だけど、またマスク生活に戻るといって、部活がないのが残念。
- ・今日は、最終日。明日から対面授業になるのでとても楽しみです！

1 1. 今日のひとこと (第3学年)

・夏休み中長崎でも感染者が急激に増加したとき、実習生と会うことができるか心配でした。今日はオンラインでの対面式になったけど、楽しい時間を過ごせたかなと思いました。学校で会える日が楽しみです!!

・今日は雷が鳴る程の雨が降っていてこういう日は正直登校するのが面倒なのでオンラインの良さをまた一つ見つけることが出来ました。また、部活を皆ですることには出来なけれどいつもよりも長く練習できて嬉しいです。しかし、私が楽しみにしている体育や音楽など夏休み明けの出来なのが寂しいです。 ※朝の会ではマイク機能使えましたが授業では使えませんでした。

・今日、授業の前に手を振ったら返ってくれたり、帰りの会ではじゃんけんもできて、リモートでもみんなとつながっていると実感しました。明日は、紙に文字を書いて会話ができるか試したいです。家庭用の動画と、美術の作品の贈り方がわからないので、できたら教えてください。 実習生への質問:暇なときは何をしますか?

・今日は平日と違って少し緊張感がとれて、みんなが発言できた。今日も楽しかった。

・今日はオンライン授業にもなれてきて、積極的に授業に取り組み始めて発表もできていたので、充実した一日になったと思います。

・先生方と話すのがとても楽しかった。弟が帰りの会が先で終わったように覗きに来たときにカメラに映らないかヒヤヒヤした。先生方の好きな食べ物ばかりかきりたいたいです。

・朝の会と帰りの会とが楽しい! タイピングも少しはましになったかも。

・実習生とのホームルームは、いつもと雰囲気は違っていて楽しかったです。私達にとって最後の実習日になると寂しくなりました。オンライン授業にもなれてきましたが、自習時間に集中できていないので、明日から必ず集中します。

・久しぶりの一問一答スピーチで緊張したけど、意外とみんな反応してくれてうれしかった。マスクをつけてないからみんなの表情がわかりやすかった。

・実習生との対面式がありました。早く直接会って色々な話をしたいです。

・オンライン授業にもなれていふなれ、だんだんと集中して、受けることができました。また、実習生による自己紹介もあり、早く学校へ行きたいなと感じ始めました。

・今日から実習生も参加してのオンライン授業となった実際に会えないのは少し残念だが、オンラインからこそできることも多いので画面を通してでも、附井の良さを伝えたい。

・友達のおもちゃの音にやられました笑 今日めっちゃ楽しかったです。はやく実習生にも会いたいです。

・実習生との顔合わせが違っていつもと違う形で新鮮だった

・今日でオンライン授業も2回めで昨日よりスムーズに出来たけど、まだわからないことがあるので頑張りたい。

・今日はオンライン授業二日目でした。今日の朝の言葉でも述べたように、先生方のご尽力のおかげで、とても充実した学びができています。世界には、休校になった人や、感染の不安を抱えながら登校している人がいる中で、安全な場所で学ぶことができています。本当にありがとうございます。やってみたいことですが、せつかくみんながマスクを外せる状況で、しかもレアな私服で、背景もつながって面白いので、オンラインならではの記念撮影してみたいです。pc上なので、スクリーンショット。みんなが現れるのかなと思いました。この作業は私かしても大丈夫なら、いたします! もちろん、プライバシーの問題などがあって任意でも撮影禁止なら大丈夫ですが、せつかくのオンラインならではの形として思い出を残せたいなと思いました。

・みんなの意見を普段より多く見れてよかったです。

・顔が見れて嬉しいけど話せないのが寂しいです。次話せる日が楽しみです。

・オンラインだと全員の反応だったりを見れて面白い人とかもいたので楽しかった。でも家には一人だから一人で笑っていることに気づくと悲しくなってくるので早く会いたいです。

・今まで通りは授業ができてよかったです。

・今日は積極的に発表もできたので良かった。(急用で帰りの会に参加できませんでした。連絡してなくてすみませんでした。)

・今日は実習生との対面式がオンライン上という史上初の形で行われた。オンラインで自由に話せるわけではないとはいえ、限られた時間を少しでも有意義にできるよう、一期一会を大切に過ごしていきたいと思う。

・二日目のオンライン授業が始まりました。今日の授業では、スライドを使うことが多かったです。スライドを使った授業はとも分かりやすく先生方の工夫が多く見られた授業でした。

・オンラインにも少し慣れて、初めて実習生の先生を見ました。今日は直接コミュニケーションを取ることができないので寂しいですが、学校へ行ったときの楽しみが少し増えたなと思いました。

・実習の先生方との対面式も無事できて嬉しかった。リモートの授業でも、クラスの温かさが感じられてとても楽しかった。

・今日は英語の時間で四字熟語を発表する機会があり、皆が挙手でできてよかったです。

・すみません、昨日書き忘れてました。昨日は、実習生と会って対面と変わらないような対面式ができてよかったです。

執筆者一覧（執筆順）

まえはら ゆきお
前原 由喜夫（第2章第1節担当）

所 属：長崎大学教育学部人間発達講座 教育心理 准教授

専門等：教育心理学，認知科学。テスト成績やアンケート調査の数値データの解析を通して，子どもの「学習力」や「やる気」を高める方法を科学的に探究している。

きむら くにひろ
木村 国広（第2章第2節担当）

所 属：長崎大学教育学部人間発達講座 学校教育 教授

専門等：教育実践，学校経営，教育行政。教育現場や教育委員会等での豊富な経験を活かして，実務家教員として学生や院生の授業力及び学級・学校経営力の向上に努めている。

かのう あきこ
加納 暁子（第2章第2節担当）

所 属：長崎大学教育学部義務教育開発講座 音楽 准教授

専門等：器楽（弦楽器），音楽科教育。演奏表現と音楽教育の懸け橋となるような研究や活動を行っている。コロナ禍の，一日も早い収束を願っている。

きら ふみあき
吉良 史明（第2章第2節担当）

所 属：長崎大学教育学部中等教育講座 国語 准教授

専門等：日本近世文学および古典教育。古典文学研究から得られた知見を活かして，古典を児童・生徒とともにどのように学んでいくか，方法論の構築と実践を試みている。

やすい あきこ
安井 暁子（第2章第3節担当）

所 属：長崎大学教育学部人間発達講座 学校教育 准教授

専門等：教育実践学，社会科教育。ふるさと教育と総合的な学習，教科の指導と評価，授業研究の理論と実践等の授業を担当している。

ふじい ゆうすけ
藤井 佑介（第2章第3節担当）

所 属：長崎大学教育学部人間発達講座 学校教育 准教授

専門等：教育方法学。大学では主に教育方法論や授業研究，教師の専門性と省察に関する科目を担当している。

くらた しん
倉田 伸 (第 2 章第 4 節担当)

所 属：長崎大学教育学部義務教育開発講座 准教授

専門等：教育工学。「ICT 教育法」「教職と ICT 活用」等の講義を担当し、インターネットを活用した
学び合いを支援するシステム開発や学習デザインについて研究している。

はたなか たいじ
畑中 大路 (第 2 章第 5 節担当)

所 属：長崎大学教育学部人間発達講座 学校教育 准教授

専門等：教育経営学，教育学。「ミドルリーダー・管理職の育成」を研究テーマとし、長崎県内の教員
とともに授業改革・学校改革プロジェクトに取り組んでいる。

附属学校オンライン授業実施に伴う
調査研究報告書
(正式版)

発行日：2022（令和4）年 2月17日

発行者：長崎大学教育学部